

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

舞妓

Maiko

松井英里香

Matsui Erika

つまみおり Information

第19回折紙探偵団コンベンション直前情報
The 19th Origami Tanteidan Convention Coming Soon!!

クローズアップ Close-up

サラゴサでの折り紙活動

Origami Activities in Zaragoza

ホルヘ・パルド

Jorge Pardo

折り図 Diagrams

ガイコツくん2号・改

Basic GAIKOTSU Figure for GAIKOTSU PLANET

北條高史

Hojyo Takashi



通巻 **140** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold

山折り線
Line indicating
mountain fold

手前に折る
Fold paper
forwards

後ろへ折る
Fold paper
backwards

折り筋を
つける
Making a crease line

段折り
Pleat fold

裏返す
Turn paper over

引き出す
Pull out

図の見る
位置が変わる
Rotation

図が大きくなる
A magnified view

見えない
ところ
A hidden line

押す、
押しつぶす
Push paper in

切る
Cut

「舞妓」(P.38)
Maiko (P.38)

作:松井英里香
by Matsui Erika

「ガイコツくん2号・改」(P. 26)の応用例「双髻ガイコツ半跏思惟像」
"GAIKOTSU Bodhisattva with one leg crossed", application for
"Basic GAIKOTSU Figure for GAIKOTSU PLANET" (P. 26)

作:北條高史
by Hojyo Takashi



GAIKOTSU Bodhisattva with one leg crossed : Hojo Takashi

クローズアップ / Close-up

P.11 サラゴサでの折り紙活動

Origami Activities in Zaragoza

ホルヘ・パルド

Jorge Pardo

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 ガイツくん2号・改

Basic GAIKOTSU Figure for
GAIKOTSU PLANET

北條高史

Hojo Takashi



P.38 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

舞妓

Maiko

松井英里香

Matsui Erika

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments : Hojo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 知子の部屋

Tomoko's Room

梅鉢草

Marsh Grass-of-Parnassus

布施知子

Fuse Tomoko

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

リンゴとかぼちゃのオーナメント

Ornaments: Apple and Pumpkin

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

叙情と論理を併せ持つおりがみは「パズルの王様」!

Origami the King of Puzzle with Logic and Stories

笠原邦彦

Kasahara Kunihiko

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

多面体の折紙

Polyhedra Origami

西川誠司

Nishikawa Seiji

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

世界最大のコンベンション

World's Largest Convention

羽鳥公士郎

Hatori Kohshiro

P.39 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

青柳伊都子

Aoyagi Itsuko

取材：川村みゆき

Kawamura Miyuki

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.36 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

池田 整

Ikeda Hitoshi

P.37 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司

Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.40 つまみおり Rabbit Ear

第19回折紙探偵団コンベンション直前情報

The 19th Origami Tanteidan Convention Coming Soon!!

知子の部屋

Tomoko's Room 第17回

布施知子
Fuse Tomoko

梅鉢草

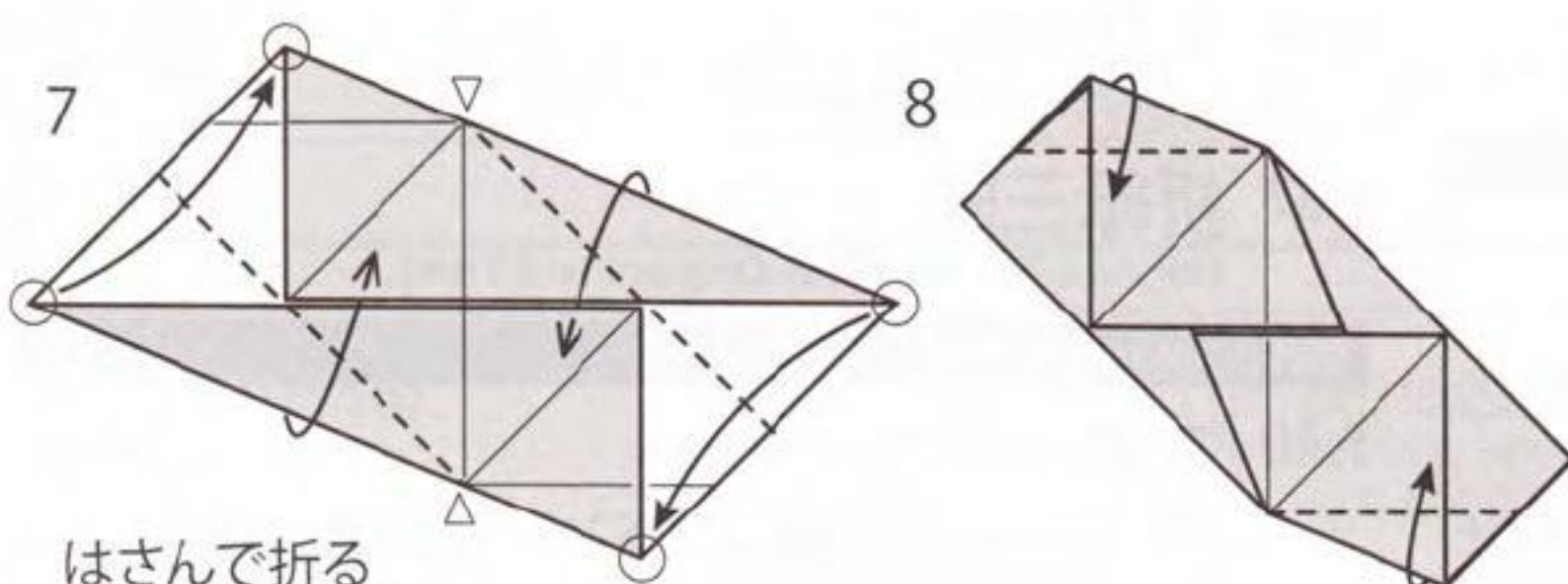
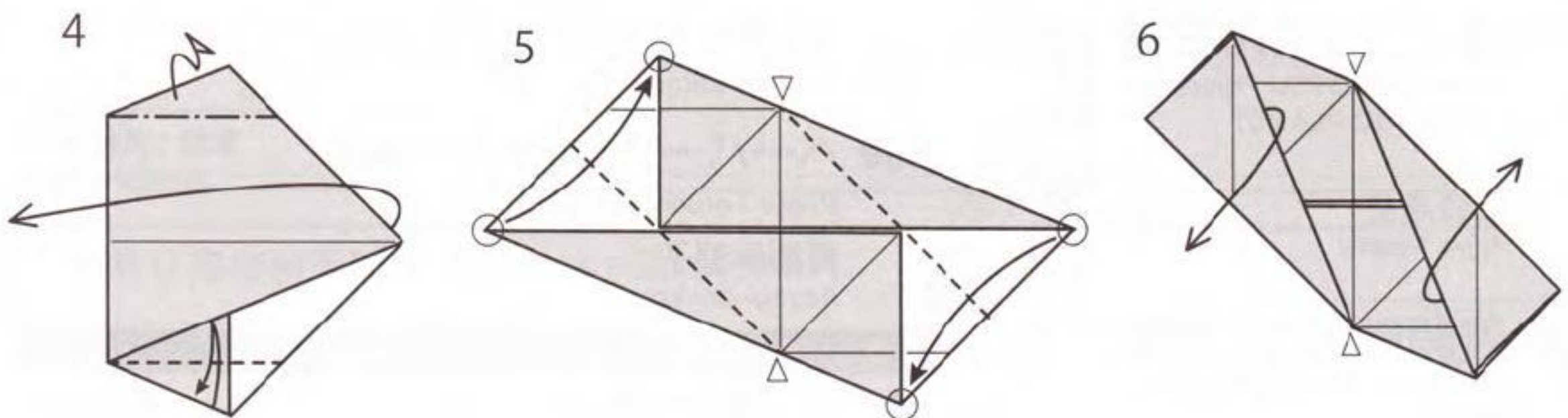
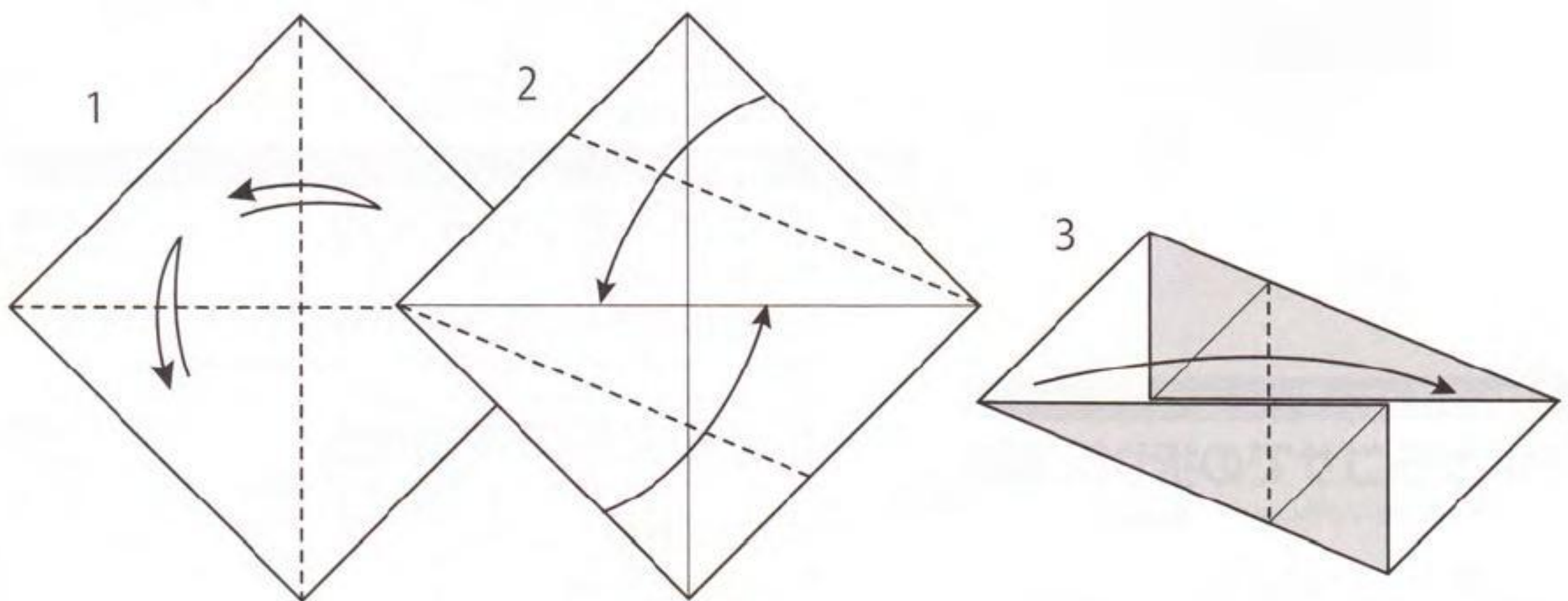
Marsh Grass-of-Parnassus

模様変わりがたくさんできます。くす玉としては30枚組が適しています。

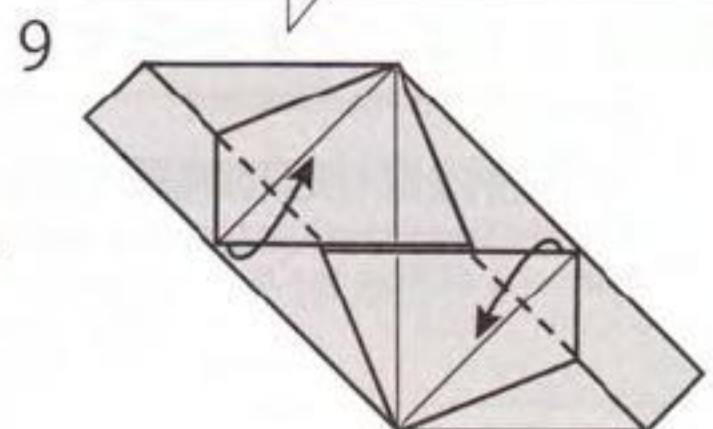
小さめの紙で折っても無理なくしっかりと仕上がり、かわいらしくなります。



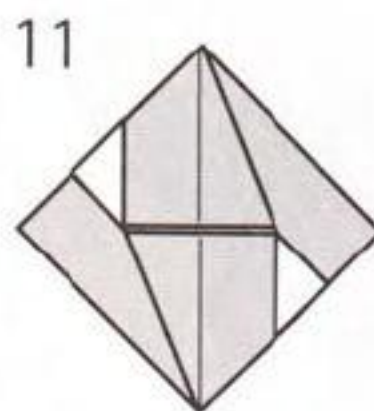
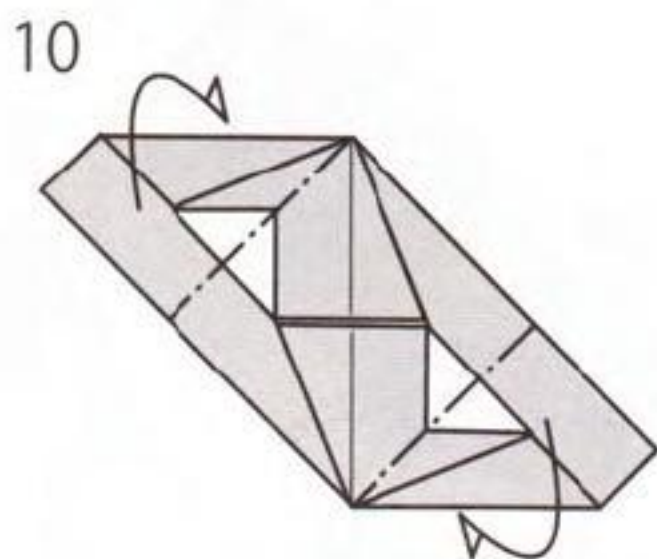
7.5×7.5cmが基準



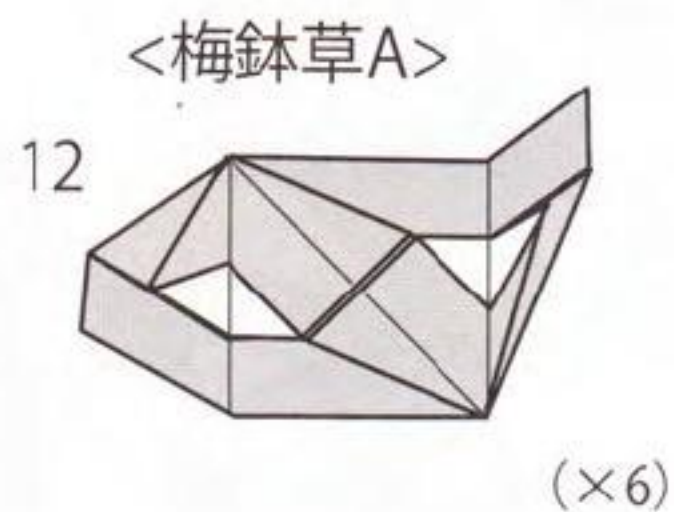
この折り方次第で、たくさんの模様変わりができる



6枚組

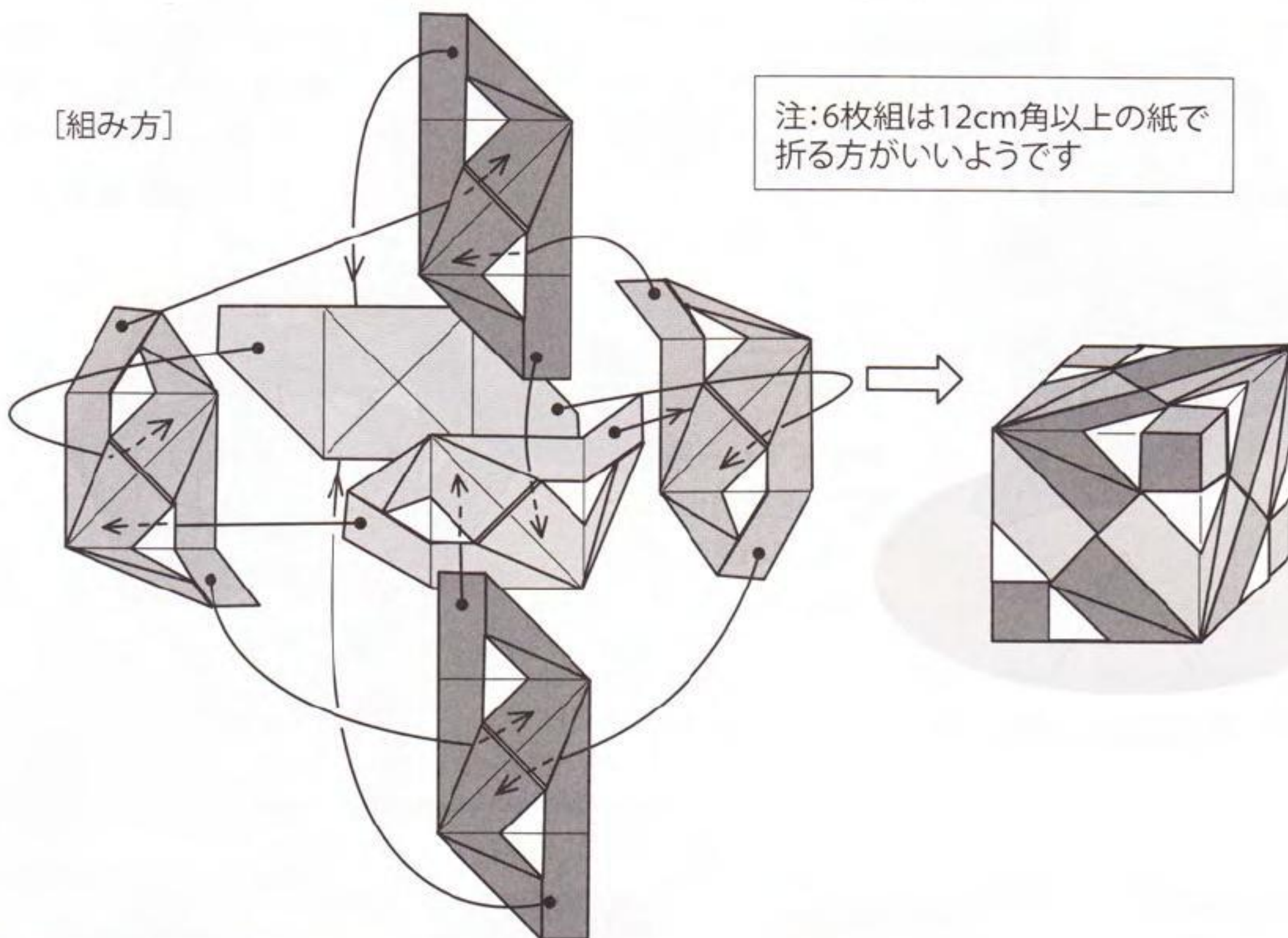


左右を開く



[組み方]

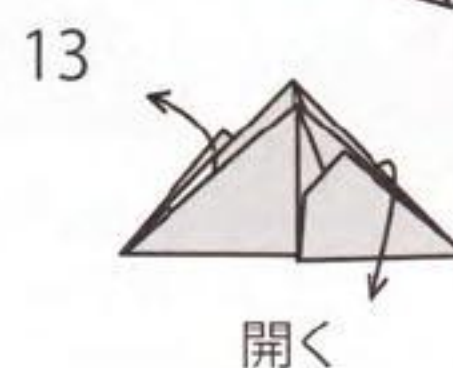
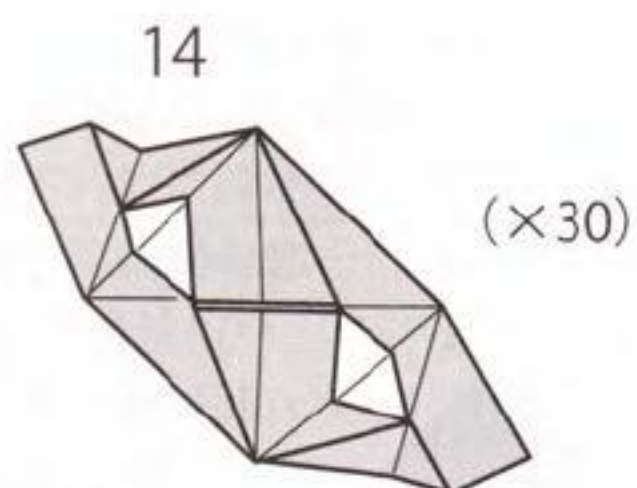
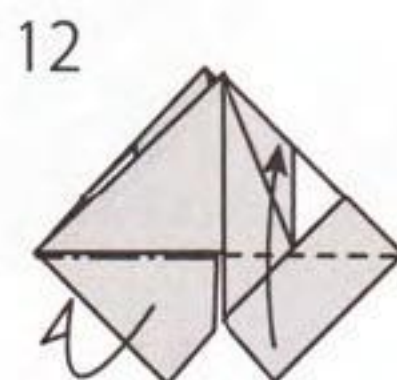
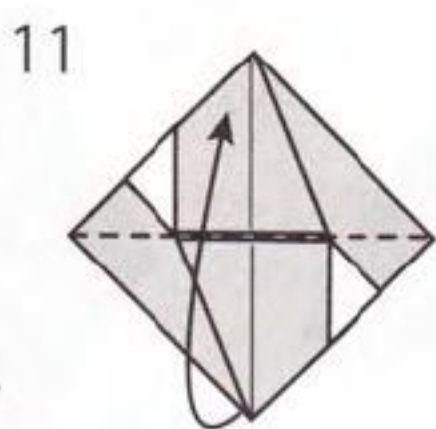
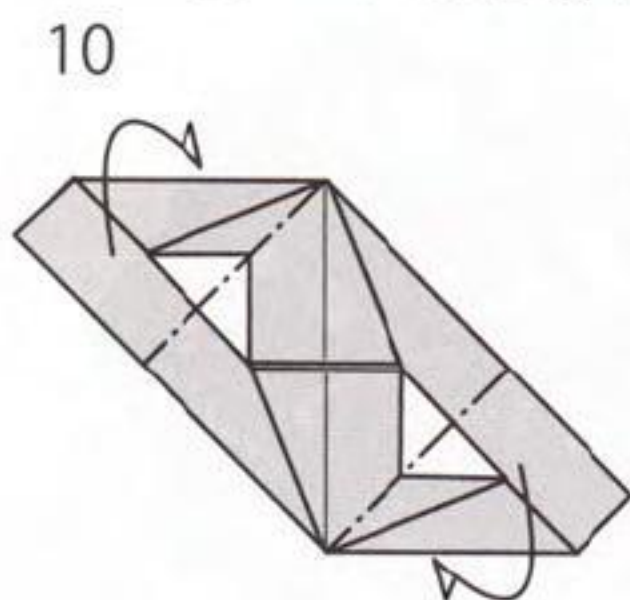
注: 6枚組は12cm角以上の紙で折る方がいいようです



30枚組など

他に12枚組などもできます。

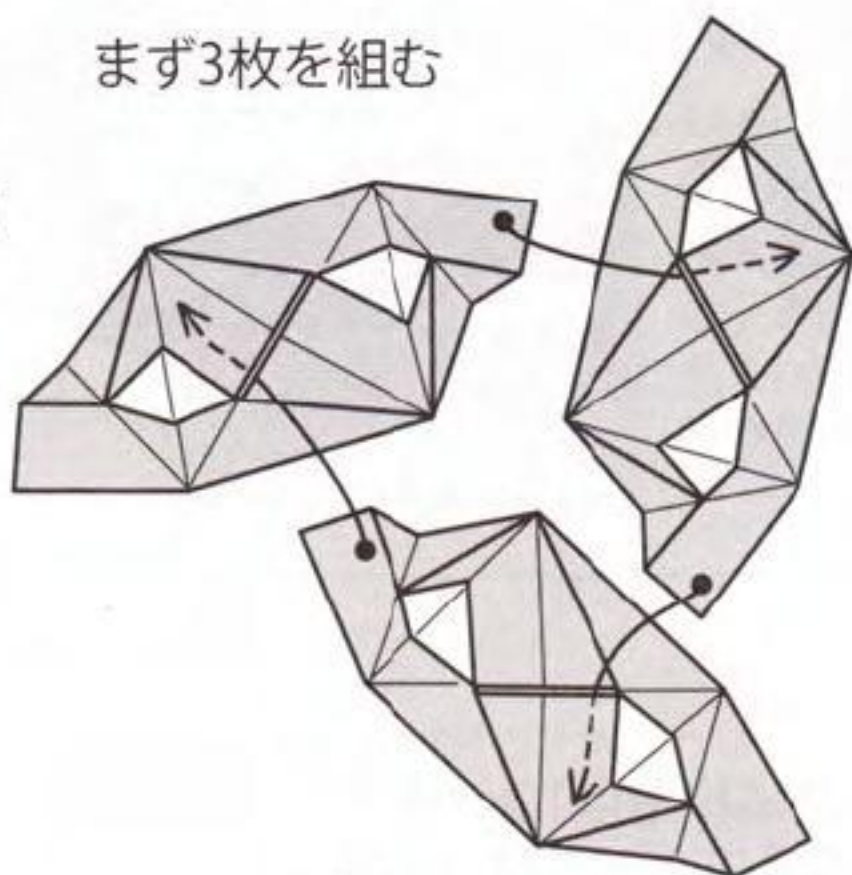
左ページ9から続く



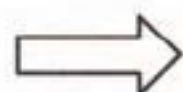
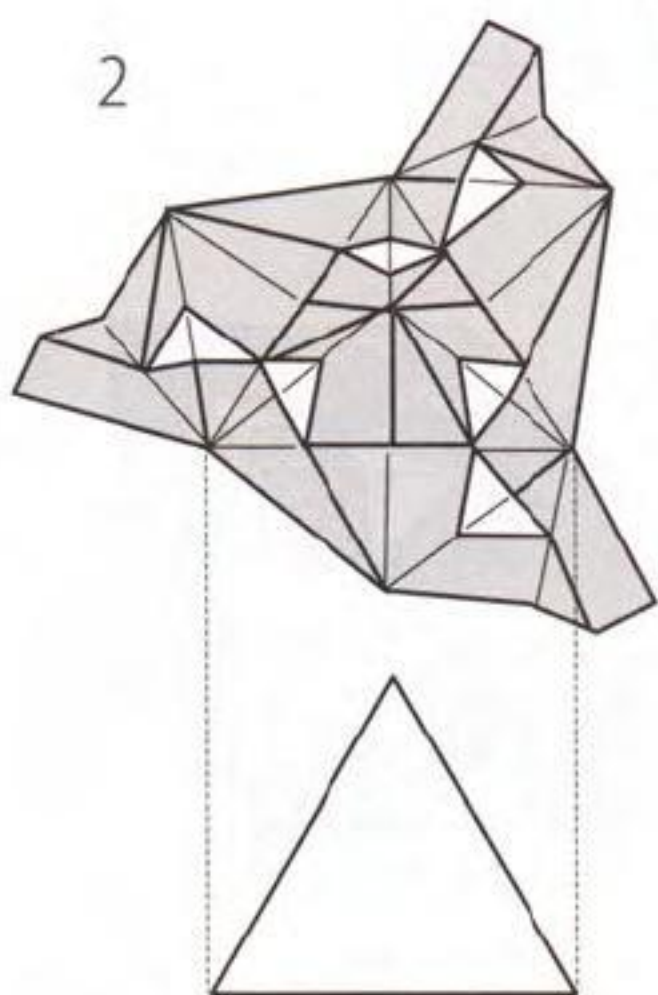
[組み方]

まず3枚を組む

1

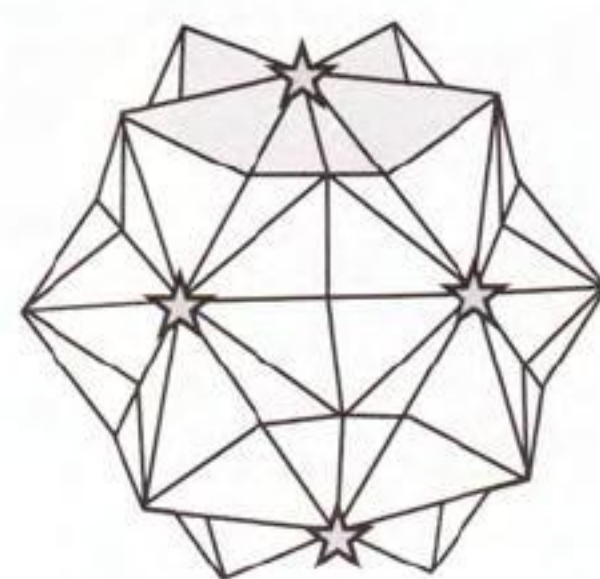
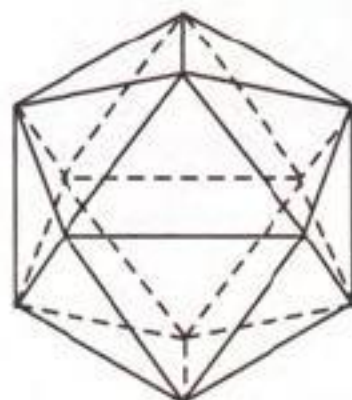


2



3枚組を下から見ると
底辺が正三角形になっ
ている。これをカギに
30枚を組んでいく

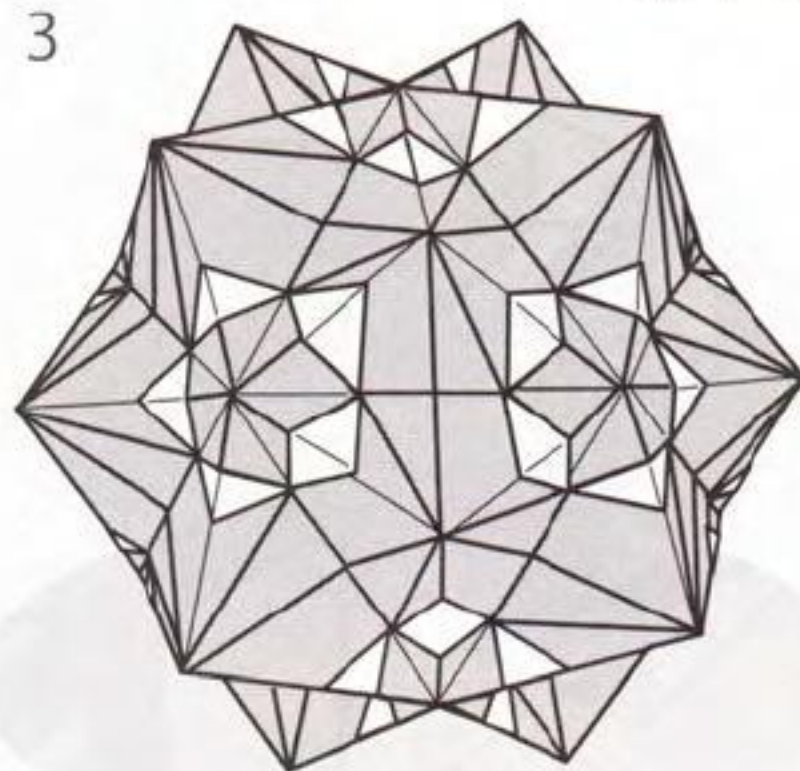
[骨組になる形]



☆印に5つのユニットが
集まるように組んでいく

<梅鉢草A>

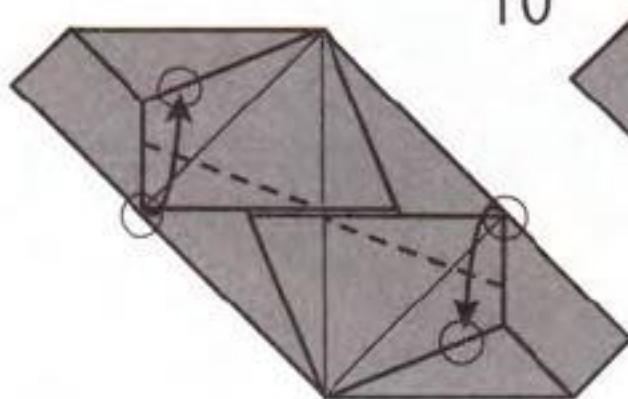
3



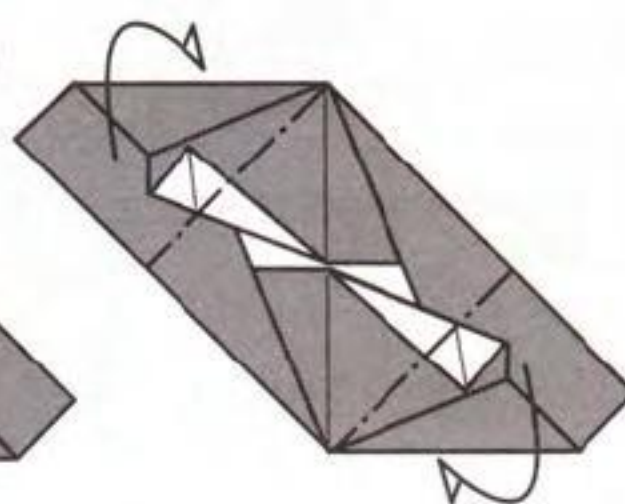
<梅鉢草B>

4ページ8から

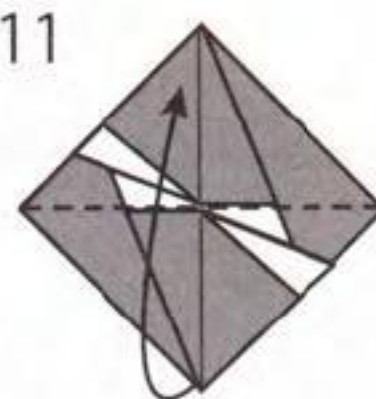
9



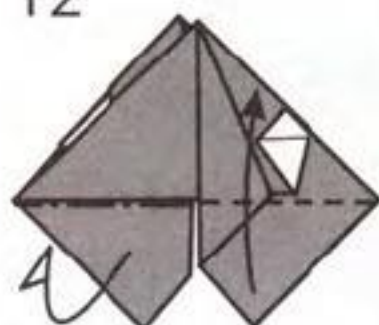
10



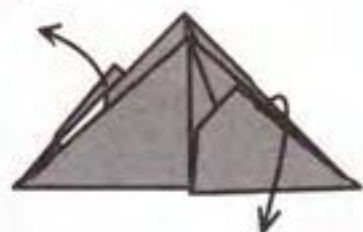
11



12

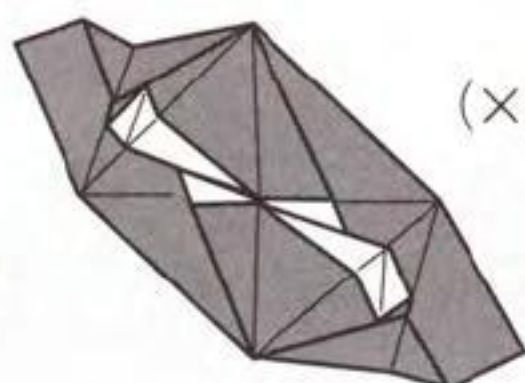


13



開く

14



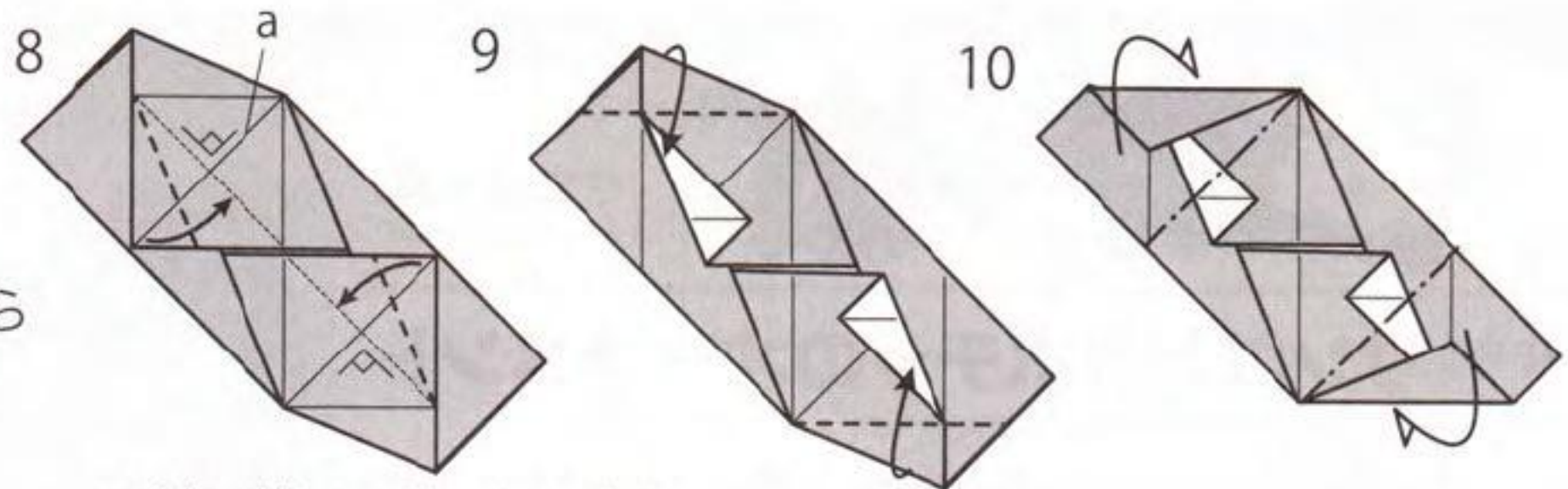
(×30)

組み方は「梅鉢草A」
と同じ



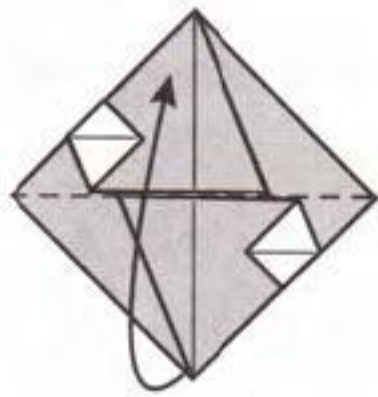
<梅鉢草C>

4ページ7から

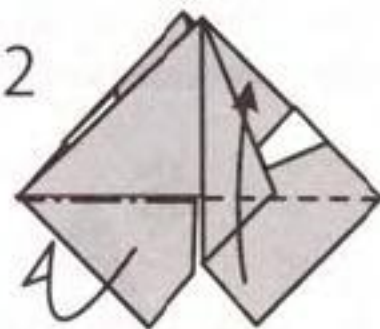


aの線に対して、だいたい直角
になるように折る

11



12

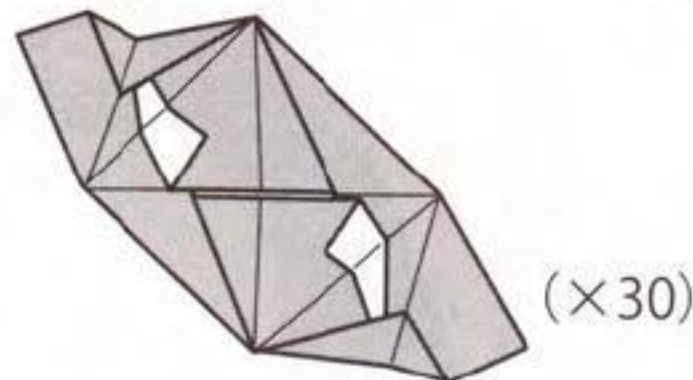


13



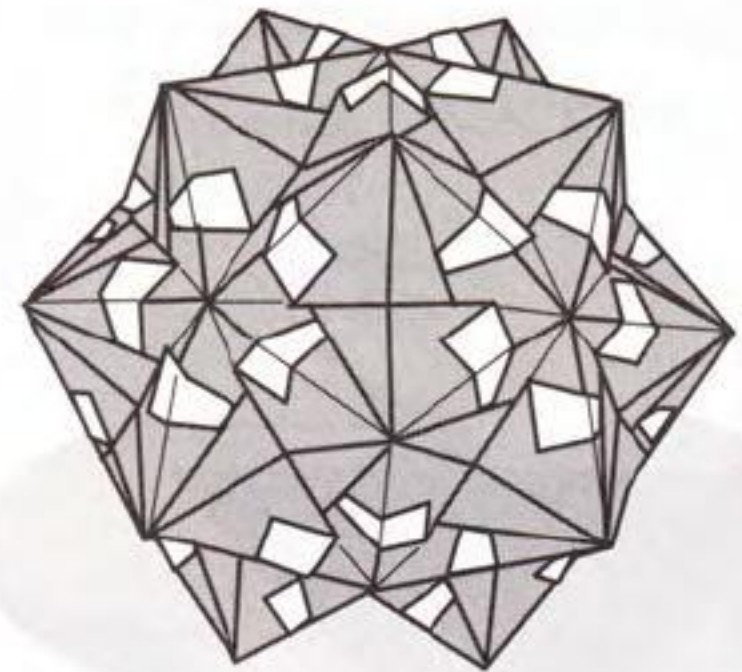
開く

14



組み方は「梅鉢草A」
と同じ

(×30)



折り紙の
周辺

第59回

David Lister さんの
言葉

What David Lister Told Us

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

先頃デビッド・リスターさんが亡くなられた。リスターさんとは何度
も会って微笑みを交わした。少し
遅れたが思い出を書いて追悼とし
たい。リスターさんに、ある言葉を
いただき、それをずっと心に置いて
いる。

BOSに初めての訪問は1989年
9月シェフィールド。私は若く世界

への旅は序章で好奇心に満ちてい
た。故マイケル・シャルも左右色
のちがう靴下をはいて元気いっば
い参加していた。それはともかく、
何かの折りにエレベーターでリス
ターさんと2人になった。リスター
さんは言った。

「知子、あなたはフェアだ。それ
は大切なことだ。いつまでもその
気持ちを忘れないで欲しい」

エレベーターのドアが開き、ざ
わめきが押し寄せ、リスターさん
はお先にどうぞの仕草をされて、私
は外に出た。

『フェアであれ』という言葉は思
いがけないものだった。じわりと心
に沁みた。その後私の戒めの言葉
となった。

リスターさんは大人だった。微笑
んでそこにいらっしゃるだけでBOS
の伝統と誇りを感じさせた。古いこ

とにも新しいことにも同じ態度で取
り組まれ、若々しい精神を持たれ
ていた。あたたかく、深く、こんな
大人はそう見かけるものではない。
折り紙用紙を手に、たとえ居眠りを
されているときでさえ、何か大きな
ものを感じた。リスターさんありが
とうございました。



高齢の方々の集いと学びの場と
して八坂に設けられている「高砂大
学」の講師を頼まれた。1回きりで
受講者は60人。1時間半。「長く折
り紙と離れている方も多し、そん
な大人数、とても1人では無理です」
と言うと、「簡単なものを、ゆっくり
やっていただければいいのです」と
返答。

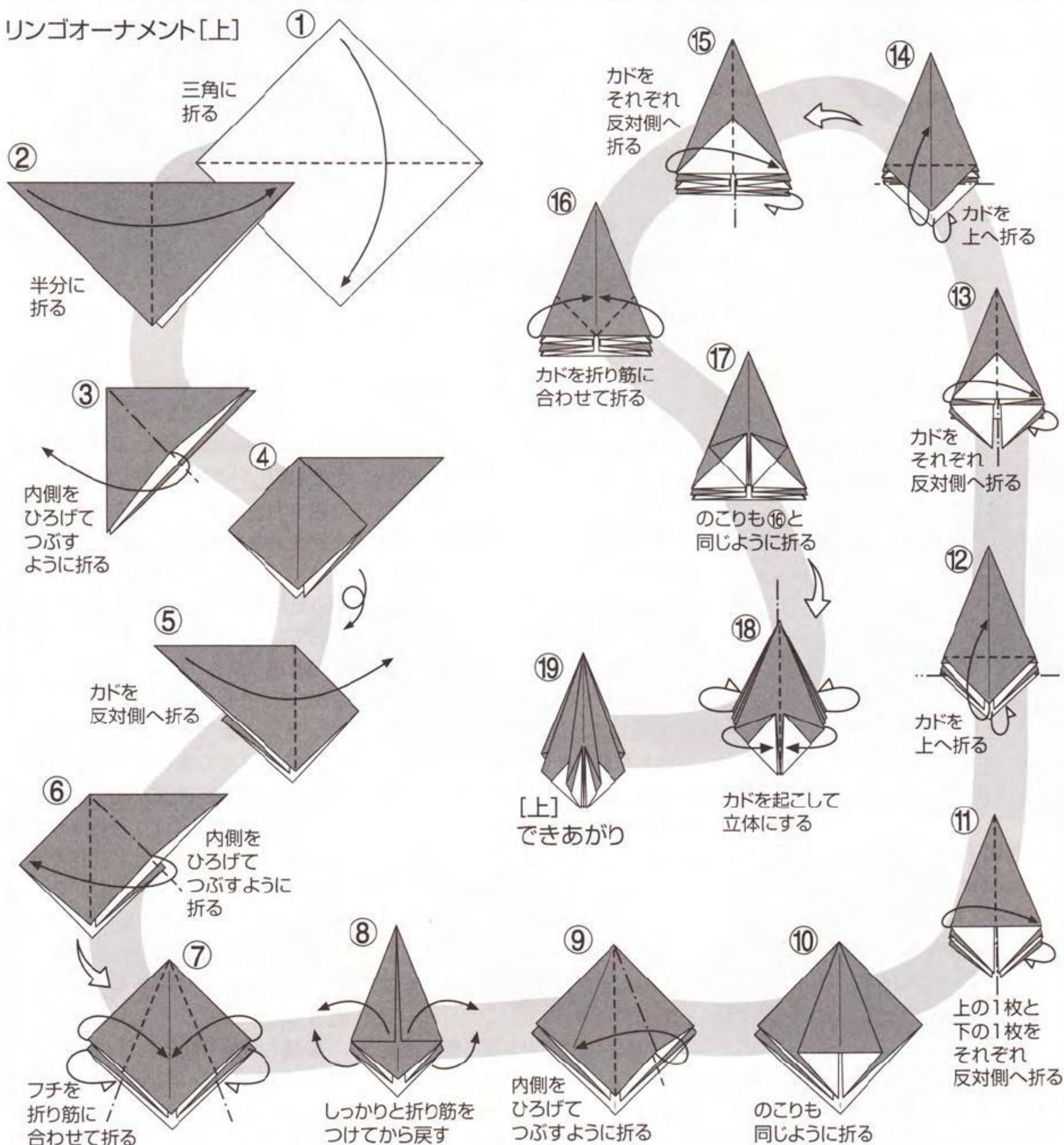
事情もわかり断るわけにもいか
ず、困ったなあ、何をどう講習した
ものか。頭を悩ませている。

第61回 **リンゴとカボチャのオーナメント**
Ornaments: Apple and Pumpkin

ユニットで具象的なオーナメントを作ろうと思ってできたものです。色や大きさを変えると、他の果物・野菜にもなります。例えばリンゴなら小さく作ってピーマンとか。他のパターンも思案中です。



リンゴオーナメント[上]



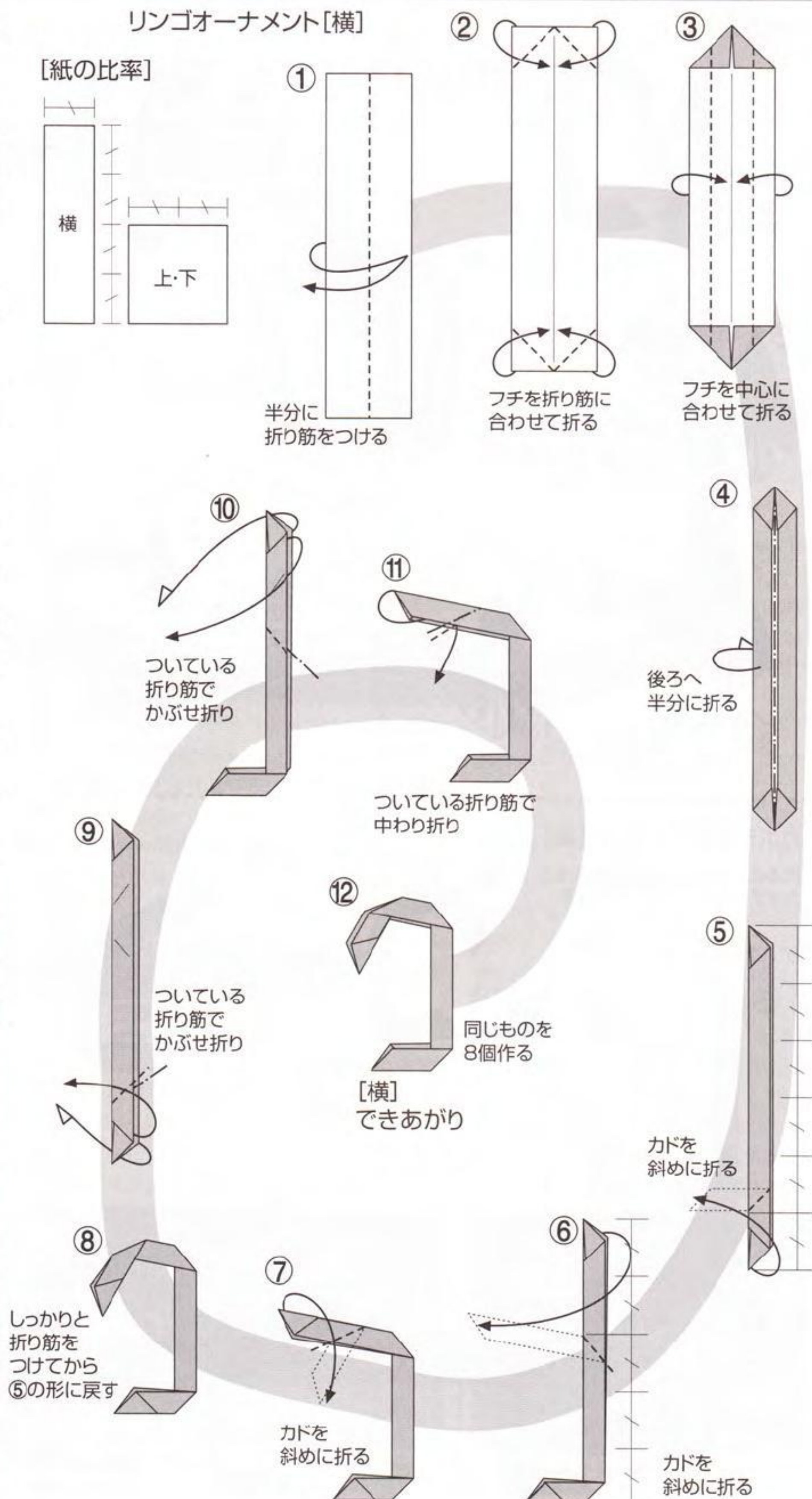
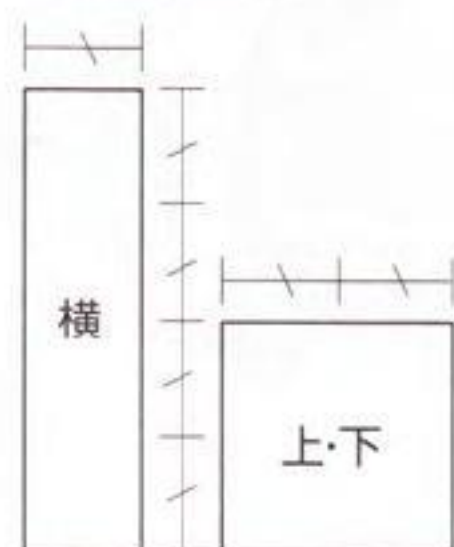
リンゴオーナメント[下]

[上]の⑧から始める

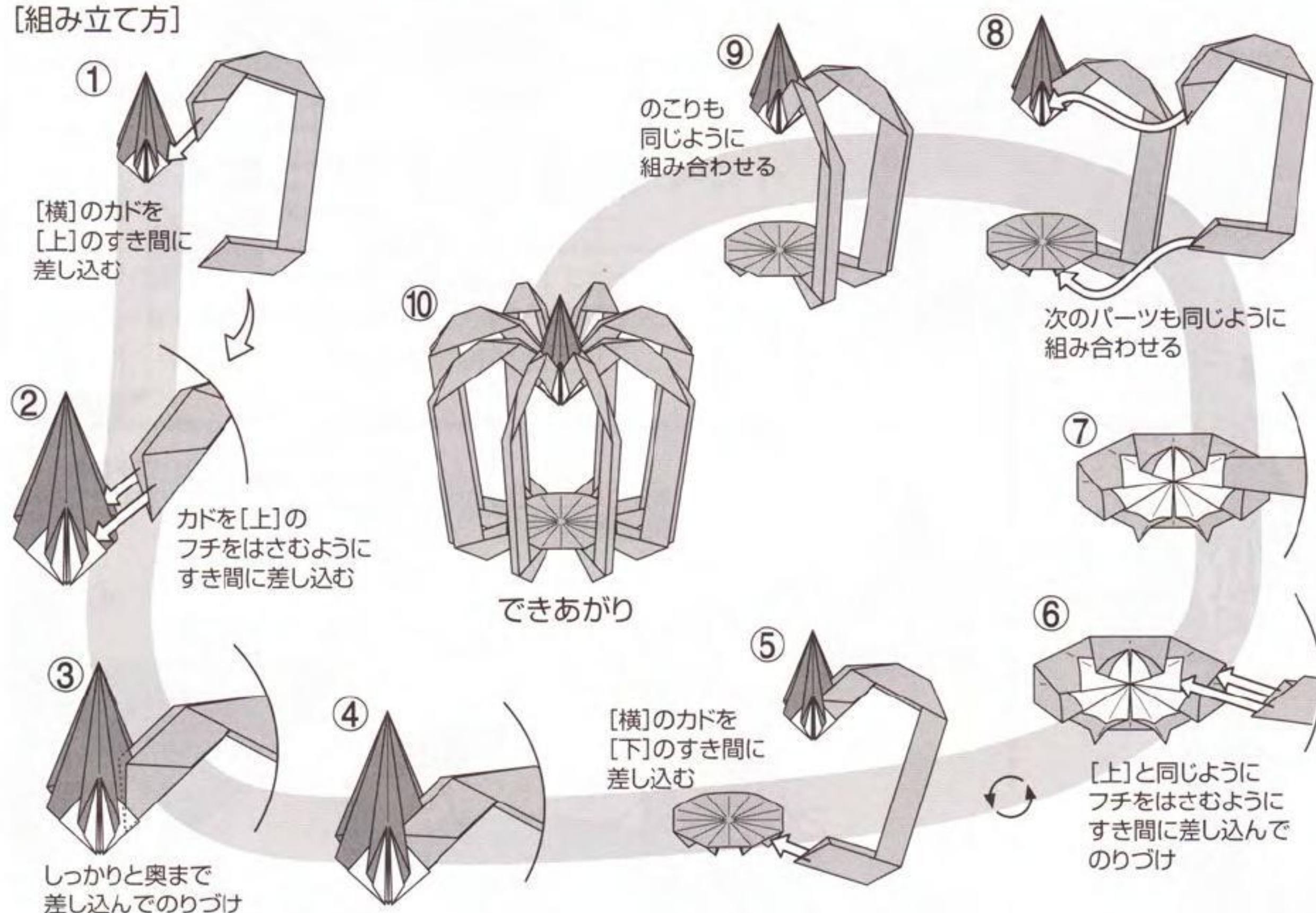


リンゴオーナメント[横]

[紙の比率]



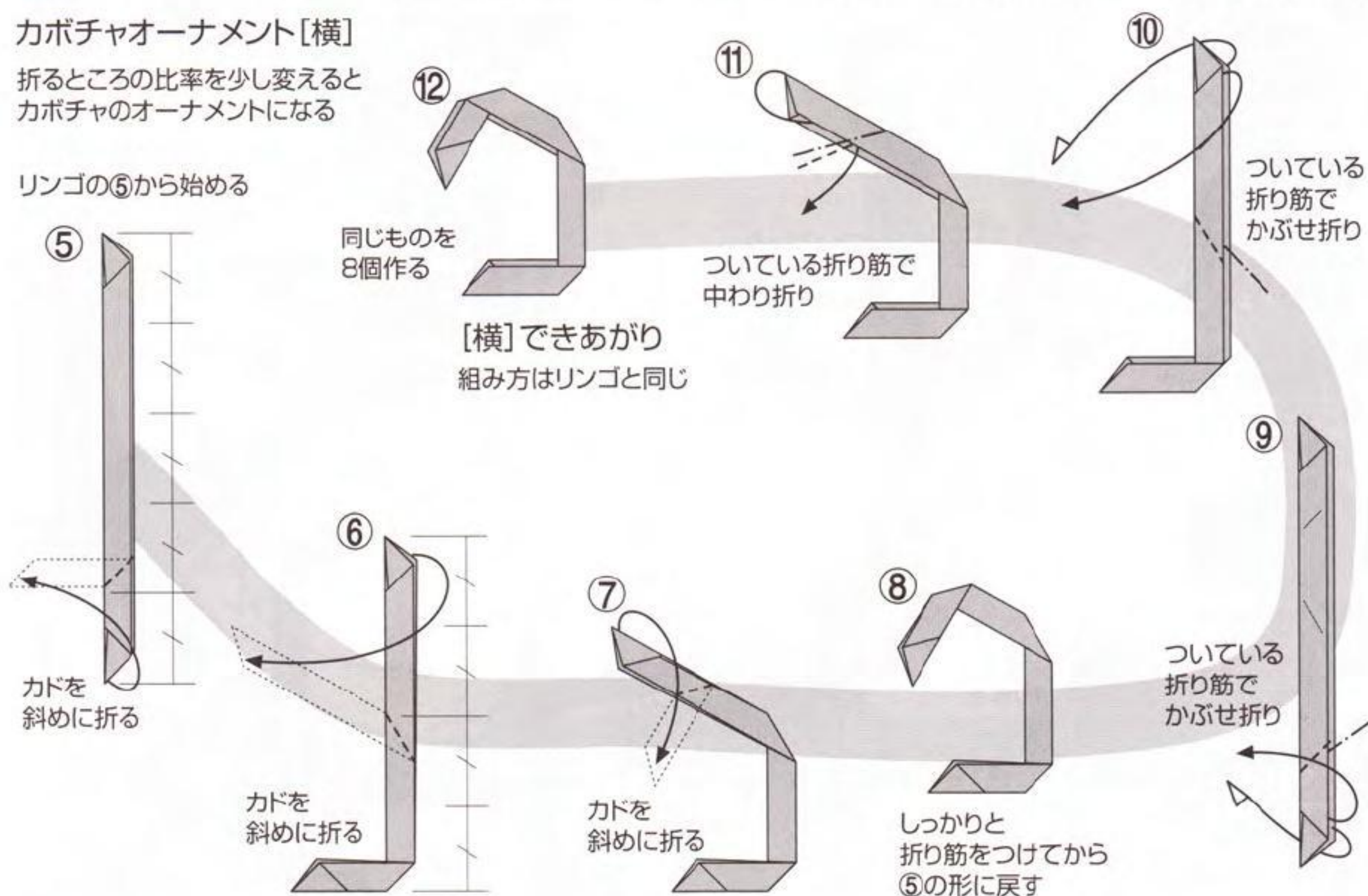
[組み立て方]



カボチャオーナメント[横]

折るところの比率を少し変えると
カボチャのオーナメントになる

リンゴの⑤から始める



サラゴサでの折り紙活動

Origami Activities in Zaragoza

ホルヘ・パルド

Jorge Pardo

翻訳：立石浩一

Translator: Tateishi Koichi

サラゴサは折り紙の街です。「サラゴサ折り紙協会」は1944年に創設された、折り紙について語り、折り、作品を造ることに特化した最も古い集まりの1つだと思います。

創設以来協会は数多くの展示、コンベンション、ワークショップ、コンテスト、会合などを開き、と同時にアルゼンチンのヴィセント・ソロサノさんとリジア・モントヤさん、アメリカのニール・イライアスさんとエリック・ケネウェイさん、イギリスのロバート・ハービンさん、日本の本多功さんと吉澤章さんなど、世界中の折り紙作家の方々と情報を交換してきました。

協会長のエドゥアルド・ガルベスさんが1972年に亡くなり、協会は存亡の危機に瀕しましたが、70年代後半にカルロス・ポマロン、ガブリエル・アルバレス両氏の尽力で活動を再開しました。例会は「カフェ・ドウ・レバンテ」で、これは今に至るまで2週間に1回続いています。

「カフェ・レバンテ」は1981年にスペイン折り紙協会の設立が決定された場所でもあります。90年代に入り、ここに有名な吉澤章さんが訪れ、それから、ロバート・ラングさん、クエンティン・トロリップさん、ポーラ・バースニッ

クさん、デビッド・ブリルさん、桃谷好英さん、神谷哲史さん、布施知子さん、マルシオ・ノグチさん、山口真さんなど、沢山の折り紙作家の皆さんが訪問されました。

21世紀に入り、協会の活動は活発になっていきました。中でも2010年8月は、エリック・ジョワゼル氏がこの地を訪れ、我々は彼から将来設立予定の折り紙博物館の為に作品を購入しました。また、同じ年の10月10日に彼はこの世を去りましたので、今となつてはジョワゼル氏の最後の折り紙ワークショップを受けられたことになるなど、特別なイベントとなりました。

先の4月はサラゴサでスペイン折り紙協会のコンベンションが開催され、19カ国から170名の参加を得ることが出来ました。日本の柏村卓朗さん、チリのニコラス・ガハルドさん、スペインのビクター・クールジョリさんとカルロス・ゴンザレス・「ハレ」さんをゲストとして迎えました。

コンベンションと同時に第1回ヨーロッパ折り紙会議(EOC)が開かれ、サラゴサを初めとして、スペイン、イギリス、イタリア、ハンガリー、デンマーク、クロアチア、フランス、ポーランド、イスラエル、オランダ、そしてヨーロッパ

以外からはメキシコ、チリ、ウルグアイ、そしてアメリカからの参加を得ることが出来ました。

この会議の目的は、世界の折り紙協会の活動を知り、それぞれがいかに協力し一緒に活動できるのかを考えることでした。

2013年3月14日から6月16日まで、サラゴサで非常に大きな折り紙の展示会がありました。1000平方メートル以上の立地に、3つのレベルに分かれた折り紙の展示が置かれました。

1階は700枚以上の紙を使った巨大なユニット折り紙で占拠されていました。

2階のエリアは「Arrugado」と題された展示スペースで、フランスの折り紙グループ「CRIMP」によるスケールの大きな展示がありました。最初のスペースは海、2つめのスペースは洞窟の中、3つめのスペースには枝にかかった風船があり、その先にはこの展示がどうやって完成されたのかを示した興味深いビデオを見ることが出来るようになっていました。

3階はフランスの折り紙の巨匠、エリック・ジョワゼル氏のフロア、彼の35年にわたる折り紙人生が一望できる



700枚以上の紙を使った巨大なユニット折り紙



2階のCRIMPによる展示。最初のスペースは海をイメージしている(P.24にカラー写真)



2つめのスペース、洞窟の中(P.24にカラー写真)

サラゴサでの折り紙活動

Origami Activities in Zaragoza

ホルヘ・パルド
Jorge Pardo

作りになっていました。

2009年に、私たちは2カ月にわたり、「折り紙：紙を折ることから生まれる芸術」(Origami, the art of paper folding)という展示会を開き、43000人以上の訪問者を得ることが出来ました。ここから折り紙博物館の構想が生まれ、サラゴサ市はこれに有り難いことに興味を示してくれました。将来的には折り紙だけのための博物館施設の設立を考えています。

博 物館構想は実は完成に向かっており、数年の準備期間の後、サラゴサ市と同意を得るに至っています。場所は2009年の展示会、今年の展示会と同じ場所で、2013年12月に開設の式典が行われる予定です。

博物館の名前は「サラゴサ折り紙教育博物館」(EMOZ (Educational Museum Origami Zaragoza))で、常設展示、特別展示、ショップ、そして折

り紙教室のスペースなどが設置される予定です。

この博物館の設立には、サラゴサ市、在スペイン日本大使館、JTインターナショナル、そしてサラゴサ市の紙会社(予定)の協力を得ています。

今年の展示には5万人以上の皆さんが訪れてくださり、皆さんこの博物館の設立計画を支持してくださり、博物館の開業を楽しみにしていっています。

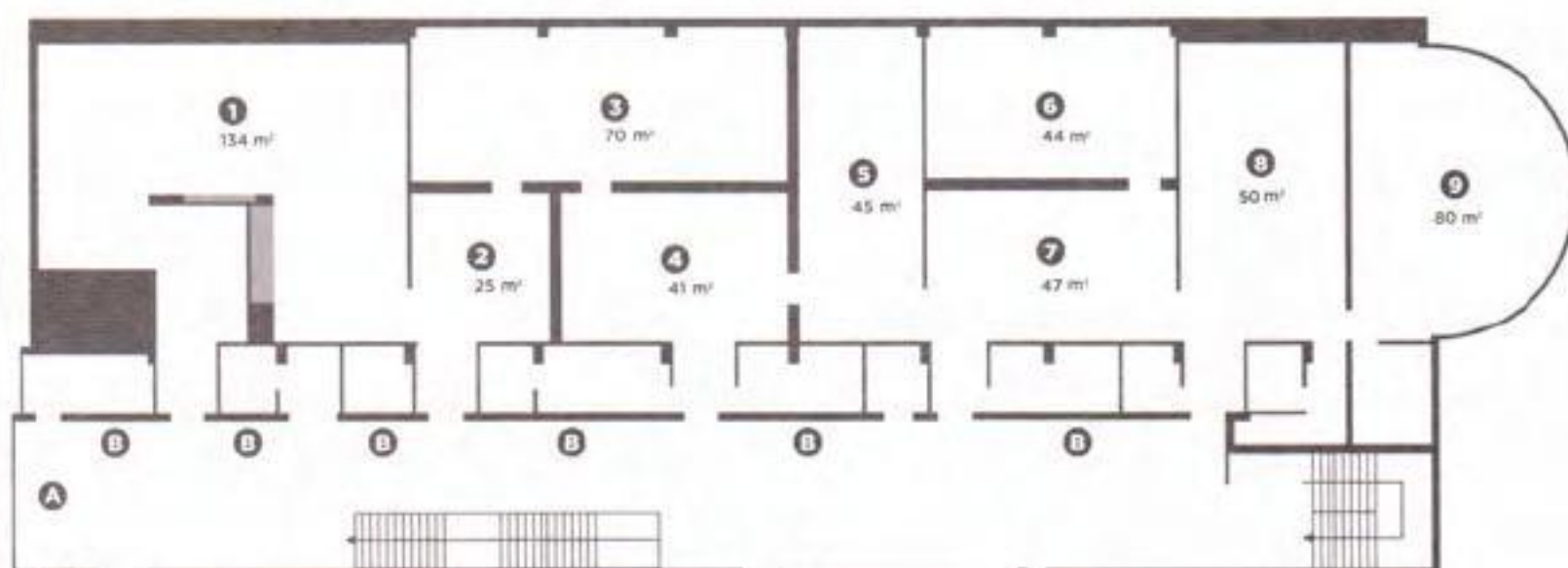
折り紙の都を目指す、サラゴサ市でお会いしましょう。

Zaragoza is a city of Origami. "Grupo Zaragozano de Papiroflexia" is the oldest group dedicated to Origami, started in 1944 to fold, speak and create figures.

Since then the group has had numerous exhibitions, conventions, workshops, competitions, meetings, ... also has maintained contact with origamists from around the world, such as Vicente Solorzano, Ligia Montoya from Argentina; Neal Elias, Eric Kenneway from USA; R.

EMOZの展示計画

Some information of the proposed exhibition at EMOZ



Sale A: 受付とショップ
Reception and shop: sale A

1, Bの壁面: 折り紙の歴史についての展示
History exhibition: room 1 and walls B

2, 3, 4, 5: 常設展示
Permanent exhibition: rooms 2, 3, 4 and 5

6, 7, 8: 特別展示
Temporal exhibition: rooms 6, 7 and 8

9: ワークショップ
Workshops: room 9



3階はエリック・ジョワゼルの35年間の折り紙人生を一望できる展示(P.24にカラー写真)



▲「コメディ・ア・テッラルテ」

○Jorge Pardo(ホルヘ・パルド)=1970年スペイン・サラゴサに生まれる。生産管理技術者。折り紙以外の趣味はスポーツ、旅行、映画。折り紙との最初の出会いは1992年のセビリア万国博覧会の日本館で吉澤章氏の作品展示を見たこと。サラゴサ折り紙協会に2002年に参加、現在はサラゴサ折り紙博物館計画のディレクターを務める。

Jorge Pardo, born in Zaragoza (Spain) in 1970. Industrial Engineer, other hobbies: Sport, Travel, Films. The first contact of Origami was at the Pavilion of Japan at Expo Seville 1992, with an exhibition of Akira Yoshizawa. Joined the Origami Zaragoza Group in 2002. Director of the future museum of Origami Zaragoza.



Harbin from England; I. Honda, A. Yoshizawa from Japan, ...

In 1972 died Eduardo Galvez, who was chairman of the Group, that caused the group almost disappeared, but fortunately with the help of Carlos Pomaron and Gabriel Alvarez the group restarted again in the late '70s, the place of meeting was the "Cafe de Levante", where are currently the meetings of the group every 2 weeks.

"Cafe Levante" was also the place where was signed the act of establishing the AEP (Spanish Origami Association) in 1981. In the decade of the 90 this cafe received the visit of the master Akira Yoshizawa, and after that date we received visit of many important origamists around the world: Robert Lang, Quentin Trollip, Paula Versnick, Dave Brill, Yoshihide Momotani, Satoshi Kamiya, Tomoko Fuse, Marcio Noguchi, Makoto Yamaguchi, ...

In the XXI century the group's activities have increased, there have been several meetings, the August 2010 was very special because Eric Joisel came as a guest, then we bought his models for the future origami museum and we could enjoy his last workshops because unfortunately only a couple of months later Eric died in Paris (October 10, 2010).

This past April we celebrated the Spanish convention, with an attendance of 170 participants from 19 different countries, were special guests Takuro Kashiwamura

(Japan), Nicolas Gajardo (Chile), Victor Coeurjoly (Spain) and Carlos Gonzalez "Halle" (Spain).

Coinciding with the convention also was the First European Origami Congress (EOC) with represented origamists from Zaragoza, Spain, England, Italy, Hungary, Denmark, Croatia, France, Poland, Israel, Netherlands and some of outside Europe as Mexico, Chile, Uruguay and USA.

The purpose of this meeting was to know what is being done in other associations to see how we can collaborate and participate in common projects.

From March 14th to June 16th 2013 has been in our city a great exhibition of Origami, more than 1000 square meters, divided into 3 levels:

The ground floor dedicated to a large modular origami structure formed by more than 700 papers.

On the first floor the exhibition "Arrugado" a large expose of the french group CRIMP formed by a sea floor in the first room, a cave underground in the second room, balloons hung from branches in the third room, this plant ended with a curious video in which you could see how had been mounted this exhibition.

The second floor was dedicated to the French master Eric Joisel, a summary of his 35 years of life dedicated to Origami.

In 2009 we celebrated the exhibition "Origami, the art of paper folding" in two months we

had more than 43,000 visitor, this was the beginning to achieve the Origami Museum, thanks to this great success the city of Zaragoza was very interested in the possibility of a permanent museum dedicated exclusively to the art of origami.

Now we are close to getting the origami museum project, after several years looking for a suitable place we have reached an agreement with the City Council, the permanent museum will be at the same place where we set the exposure of 2009 and the exhibition of this year, the inauguration will be in December 2013.

The name is EMOZ (Educational Museum Origami Zaragoza), there will be a permanent exhibition, temporal exhibitions, shop and many workshops to teach Origami.

We have the support of the City of Zaragoza, the Embassy of Japan in Spain, the Japanese multinational company JTI (Japan Tobacco International), and very soon expects help from a paper company of the city.

More than 50,000 people have visited our last exhibition and all of them supports our project and are expecting the inauguration of the permanent Origami Museum.

See you in Zaragoza, the city that want to be Capital of Origami.

Editorial Note: The pictures in this article are also printed in the color page (p. 24).

蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

第4話 叙情と論理を併せ持つおりがみは「パズルの王様」!
Origami the King of Puzzle with Logic and Stories

笠原邦彦
Kasahara Kunihiko

吉澤章さんという、おりがみを大人の趣味にまで高めた、天才的で孤高のおりがみ実践者に、私はある面では驚嘆し敬意を抱きつつも、現実面では排他的なその性格に反発してきた者です。

その理念の根本的な違いは、私は「おりがみとは、心楽しい遊び、と考えていたのに対し、吉澤さんは、おりがみをもっと高いもの?…芸術の一分野のようにお考えになっておられたこと」によるのだろうか?と勝手に推察しております。

さて私は、日本大学の芸術学部という、少々奇妙な学部を卒業した者です。芸術を教える? そんなことが出来るんですか?など思いつつ通いましたが、…まあ学科は「映画」「写真」「演劇」などと共に「放送」というのがあり、これが私の選んだもので、芸術そのものを学ぶのではなく将来に可能性の高くなるだろうテレビの方面に就職出来たら、の“現実問題”が専攻の目的でした。

さて、Artという語の意味は、日本人が狭義に考える「芸術」より、「技術」といった意味合いの方が本来的なようです。…でもそんな詮索的な考えより、もっと本質的な疑問があります。それは、…芸術って、学問なんですか? それは“感性による個性表現の行為”と違うんですか?

いい歳になった者が、そんな青っぽい議論を構えるとはお笑いですね。で、話を現実に戻し私はずっと「おりがみって、実に心楽しい遊びだ」と考

えてきたことにつき、これまでしばしば強い反発に遭いました。冒頭にそのお名前を出させていただいた吉澤さんも、そんなお一人だったのかも知れません。でも昨年終わったNHKの大河ドラマ『平清盛』の中では、後白河法皇が編纂された『梁塵秘抄』の中の歌、〈遊びをせんとや生まれけん、戯れせんとや生まれけん、…〉が繰り返し歌われていましたが、聞きながら、〈遊び〉と〈芸術〉とは、なにも上下を競い合うものでもないと思いましたし、それにまた〈遊び〉には大いに〈技術=アート〉が必要だと強く思ったことでもあります。…羽根つき、剣玉、ベーゴマ、めんこ、竹馬、ボール投げ、…遊びをより楽しく遊ぶために、こどもは大いに努力して〈技術〉を磨きます。おりがみだって〈技術〉はとても大事です。私は近年、おりがみのパズル性を大いに楽しんでいます、…例えば「やっこさん」の腰の部分だけを〈反転して〉、裏の白を出せるだろうか?のような問題を思い付いて、〈技術〉そのものが持つ〈パズル性〉に熱中しています。

ところが一方で、おりがみがしっかりと内蔵する〈幾何学性〉によって、「遊びなどと言うのは、数理数学に結び付くおりがみを、低く見ることに繋がる」との、そんなご意見もあり、そのことからの反論も多く受けました。でもそれも違うと思います。

近似解による〈正5角形〉を、“正”を付けて呼んではいけない、…そんな硬直した見方を気にすることなく、

幾何図形ってこんな楽しい遊びに繋がっていくんだよ、とか、あるいは、おりがみってこんなことまで出来るんだよ、などのことに繋げていけば、…おりがみの本当の魅力や可能性の発見に繋がっていくことだろうと思いますし、さらなる普及にも繋がっていくだろうとも思います。

さてわが師、内山興正先生も、天才的な吉澤章氏も、きっちりとした“目安”を採って折ることを、敢えて避けておられた感が強くあります。「ぐらい折り」とか「ほどほど折り」などと呼ばれる、感性によって折ることの方を積極的に選択されていたようなのです。

それにはどうやら原因と理由があるようです。

…それは、フレーベルの理念に従って設定された「幼児教育のカリキュラム」として、かつて〈昭和の初期〉には「おりがみ」はしっかりと〈幼児教材〉の規定をされていたと聞いています。

ところが一部の教育学者の中に、「かどとかど、辺と辺を、きっちりと合わせて折れと教えるおりがみは、模倣性の押し付けに繋がり、創造性を損なうものであって、幼児教育にふさわしいものではない」。…こんな空疎な議論、あなたは、どう思いますか?

フレーベルは、おりがみの中に在る〈幾何学性〉を、幼児期から教えよと説いているのに、上記の論を主張する学者は、造形面だけしか見ていないのじゃないでしょうか。ともあれ、こんな論に押されてカリキュラムから外されて

○笠原邦彦(かさはら・くにひこ)=
おりがみ解説書中心の著述が私
の職業です。編著書数は現在
170。手づくりおもちゃの本なども
書いています。



今日に至ったと聞き、初めはそんな
現実を寂しく思いましたが、規定が
外されて自由さを得たと思うと、よかつ
たのかも知れないと思うようになりました。

そして、内山師や吉澤氏が“きっち
り折り”を避けられた理由は、そんな
教育学者の誤解のことをご存知だつ
たからなのかも知れませんが、…はっ
きりした目安で、だれでもがまっ
たく同じ造形を復元してしまうようでは、
〈個性〉が示せない!…と、そんなふ
うにお考えになったからかも知れま
せん。…すみません、わが師と大先
輩、私の勝手な推測で語っています。

でも私は「復元性こそがおりがみの
本質的な要素」と、造形面だけを楽し
む場合でも、その思いを大事にして
いますし、幾何おりがみではそれは
絶対の条件です。先輩の方々からの
教えを受けて、今では造形も幾何も、
その両面を〈どちらも心を喜びに包ん
でくれる遊び〉と考えられるようになって、
叙情性と論理性とを併せ持ち、
指でも頭でも楽しめるおりがみは、…
言葉を変えると、「おりがみって、実
に見事なパズル遊びの王様だ!」がこの
頃の私の強い思いです。

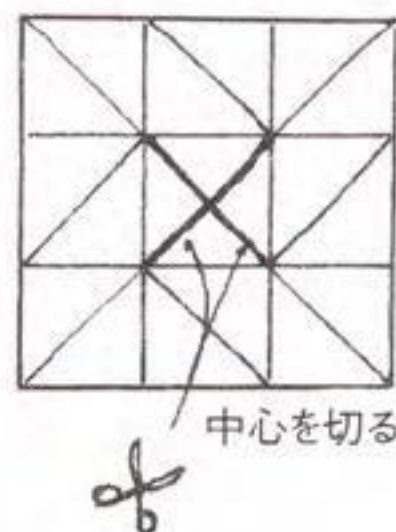
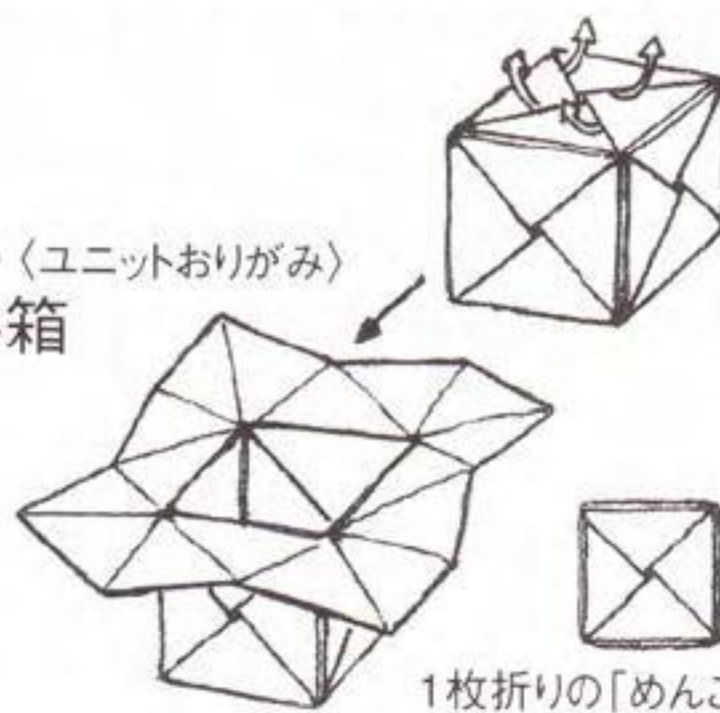
最古級の古典資料『欄間図式』の
中の、〈折形〉の図に示された「玉
手箱」という、ユニットおりがみの元祖
には、〈造形〉も〈機能〉も〈幾何〉も在っ
て、正に理想のおりがみだと痛感させ
られます(そんなことの理解に、恥ず
かしくも私は、30年も掛かってしま
いました)。そしてその折り方に2種の方

式が、大先達本多功氏により伝えられ
ていますが、はて? 本当のオリジナル
は? …そんな楽しい推理もまた、大
いなるパズルに繋がるのではないで
しょうか。ともあれこの資料に示され
ているのはわずか6点の作例ですが、

実に多くの謎があり、そのことでも私
を魅了し続けます。なお〈折りの“手順”〉
というものの面白さと、その意外性
にも、最近大いに惹かれています。が、
これも技術の一種、そしてパズルと考
えられるように思っています。

3等分折りの「かざぐるま=1枚折りのめんこ=糸くず入れ」×6

最古の〈ユニットおりがみ〉
玉手箱

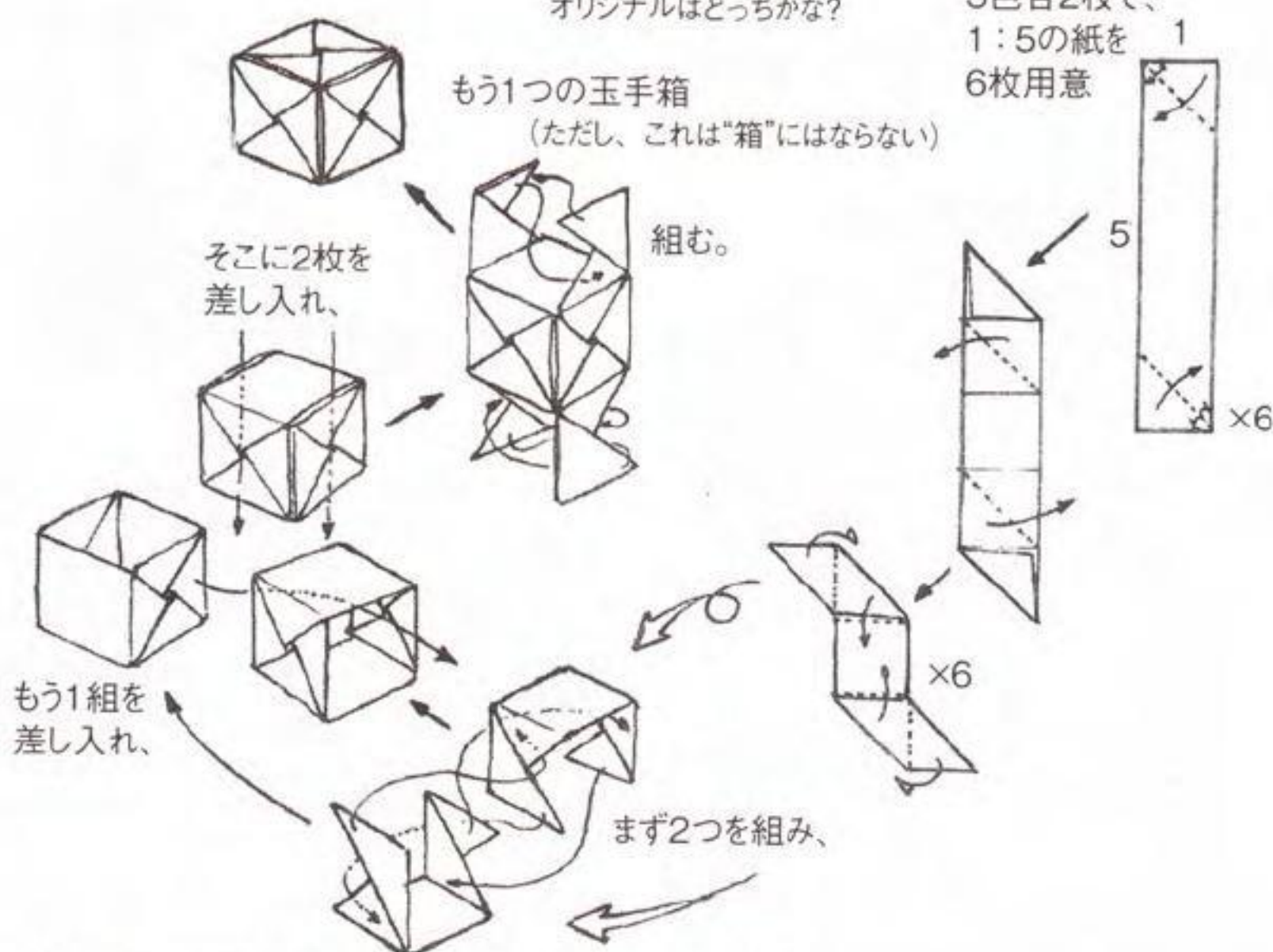
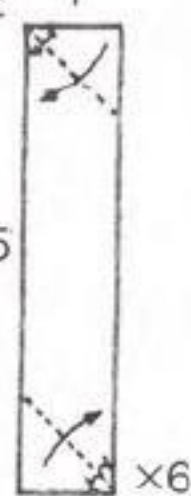


1枚折りの「めんこ」

「玉手箱」2種の折り方
オリジナルはどちらかな?

もう1つの玉手箱
(ただし、これは「箱」にはならない)

3色各2枚で、
1:5の紙を
6枚用意



本多功著『オリガミ』昭和8年(1933)日本玩具協会刊
同年、同名図書が、工業図書協会からも刊行。この2書中にここでの2種の「玉手箱」の紹介があります。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

西川誠司

Nishikawa Seiji

36冊目『多面体の折紙—正多面体・準正多面体およびその双対—』川村みゆき・著

"Polyhedra Origami" by Kawamura Miyuki

【はじめに】

川村みゆき氏の本書は1995年に日本評論社から発行されているが、もともとは1994年に自費出版本として発行された。日本評論社版と自費出版版ではフォントと表紙のデザインが変更になっている以外、内容は挿絵も含めて自費出版のものと同一、B5判210ページで、合計71種の多面体ユニット作品が掲載されている。あとがきに著者自らが評しているように、本書は多面体カタログであり、データベースとしての利用を想定して書かれている。そのため、全ページモノクロで、作品はほぼすべて装飾の無い「裸の多面体」であり、クラフトワークとしての折り紙の本というよりは理数系の便覧といった装いだ。後年、著者が生み出すバラエティーに富み、色彩豊かで新鮮なユニット作品の数々は、本書を通じての幾何立体の網羅的研究に裏打ちされている。

【本書の概要】

第1章「正多面体と準正多面体」

本章では正多面体5種と準正多面体14種、正角柱7種、反角柱7種の折り図が紹介されている。この章で扱われる多面体は面の形がどれも正多角形であり、それぞれ正多角形ユニットを作って組み合わせる構成になっている。異なる多角形どうしを組み合わせる場合に互いの辺の長さを揃えるため、同じ多角形のユニットでも作る多面体によって用紙のサイズを変える必要がある。そのため、大きさの計算や特定の比率を折り出すため

の工程図が紙面の半分程を占めている。多面体の対称性についての解説も随所があり、作品を制作したり考察したりする上でのヒントになるだろう。

第2章「双対(そうつい)多面体」

「ある立体の双対(dual)とは、元の立体の頂点の数と面の数とを互いに入れ替えたような立体のこと(後略、2章扉より)」。本章では準正多面体の双対14種と正角柱の双対6種、反角柱の双対5種が紹介されている。双対多面体は種類ごとに異なる形の面を持っているため、ユニットの形も

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

それぞれ異なる。三角関数を利用して任意の角度を正確に折り出す方法が解説されており、以降に掲載されているほとんどのユニットの折り工程において使用されている。また、いくつかの双対多面体では三角関数の値がルートを含んだ複雑な形になるが、その場合には理論的に正しい角度を作る折り方と、近似値を用いて工程数を減らし、折り紙的に作り易くしたものと、両方を紹介している。複雑な工程の作図と近似値を使った簡便法とで仕上がりの誤差はどちらが大きいといった考察もある。



図1 表紙

正4面体/正6面体/正8面体/正12面体/正20面体/切頂4面体/切頂6面体/切頂8面体/切頂12面体/切頂20面体/立方8面体/20・12面体/斜方立方8面体/斜方20・12面体/ミラーの立体/斜方切頂立方8面体/斜方切頂20・12面体/変形立方体/変形12面体/正角柱/反角柱/三方4面体/三方8面体/四方6面体/三方20面体/五方12面体/菱形12面体/菱形30面体/六方8面体/六方20面体/扇形24面体/扇形60面体/ミラーの立体の双対/五角24面体/五角60面体/重角錐/ねじれ重角錐/デルタ多面体/平行6面体/菱形12面体/菱形20面体/長菱形12面体/正則スポンジ/球

図2 掲載されている多面体。正角柱、反角柱、重角錐には数種ずつあって作品数は71種になる



図3 変形立方体(1章 p-50) 正方形の面の位置がなんだか不思議。鏡像が別物になる!



図4 五角24面体(2章 p-133) 変形立方体の双対

○西川誠司(にしかわ・せいじ)＝
日本折紙学会 現評議員代表。学
会では折紙図書館、指導員制度、
知的財産権研究を主に担当。6月
に50歳となり、次の10年のテーマ
を模索中。



補章「その他」

本章ではデルタ多面体、平行多面体、等面菱形多面体、正則スポンジ、および、球が紹介されている。平行多面体やスポンジなどは空間を隙間なく埋め尽くすことのできる空間充填形と関連のある立体だ。球はもちろん近似形で、正3角形用紙60枚を使う。本書の中で唯一の装飾的な作品となっている。



図5 球(3章 p-198) 正3角形用紙60枚からつくる

【インタビュー】

一本書を書くことになったきっかけについて著者自身に聞いてみた。

「前書きに少し書いてありますが、大学に入学して間もない頃に紙の多面体を教材用として作って欲しいと教官から依頼されたことでした。当時は布施知子さんや笠原邦彦さんのユニット作品が好きでたくさん折っていましたから、依頼の物も折紙で制作しようと思ったのがそもそものはじまりです。教材の制作はすぐに終わったのですが、折るうちに多面体自体の魅力にハマリ、文献をあたって目新しい多面体を見つけてはユニットを設計

して組み立てる日々が2年ほど続きました。かなり早い段階から、胸の内では出版を考えていました。日々増えていく計算結果や作品群をノートにまとめるにあたって、どうせ書くなら最初から書籍の体裁にしておこうと思っていました。実家が印刷業で、自宅の1階にオフセット印刷の機械が据え置かれているような環境だったため印刷物や書籍は自分で作るものという意識が強く、出版への精神的なハードルが低かったのだと思います。」

一正多面体どうしの双対関係はよく知られていますが、色々な双対立体を紹介することに意欲的ですね。

「当時は双対多面体について日本語で書かれた本があまりなく、私自身が文献を探すのに苦労したこともあって、双対多面体のことを広く紹介したいという強い動機もありました。」

一原稿執筆などで苦労はありませんでしたか。

「ある程度の作品数が揃ったところで、出版に向けてまずはパソコンを買いました。マッキントッシュのLC2という機種で、モニターとプリンターもあわせて学生割引を使って40～50万円ぐらいだったと思います。大学4年生の時でした。貯金が吹っ飛びました。原稿の制作で一番時間がかかったのは掲載作品の選定です。章立ての方針は最初から決めていましたが、1つの多面体について4～5種類の折り方を考えてあったので、どれを残してどれを捨てるか非常に悩みました。なるべく明快かつ誤差の少ない折り工程を探すうち結局ほとんど全ての作品を設計し直すことにな

り、この作業に丸1年かかりました。並行して描いていた折図は製図用のロットリングを使った手描き原稿で、作品を変更する度に使わない折図が溜まっていきました。パソコンはテキストの打ち出し用でした。しかし数式が直接書けるソフトを持っていなかったもので、ルートや積分記号などは個別に打ち出して切り貼りしていました。作例写真も自分で撮影しました。当時はまだフィルムカメラ全盛の時代で、現像してみるまで仕上がりが分からないため没写真の束がどんどん分厚くなっていきました。フィルム代、現像代、プリント代と、今考えても相当な出費だったと思います。そして印刷は自宅で、製本は他業者をお願いして、1994年5月についに発行となりました。」

一日本評論社版は既にかんりの重版ですね。

「自費出版の初版300部は身近な物理・数学関係の友人知人が買って下さったケースが多く、折紙関係者は割合的には少なかったと思います。当時はまだ本の中でしか知らなかった折紙作家数名に本書をお送りしたところ、嬉しいお返事とともに大津で開催準備中だった第2回折り紙の科学国際会議の情報を教えて頂くことができ、そこから折紙活動の幅が一気に広がったのでした。その後、知り合いの紹介を通じて翌95年には日本評論社からの出版が決まりました。来年5月で自費出版から20年になります。地味でコアな内容の本ですが、現在でも書店に置いて頂けているのが大変嬉しいです。」

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第8回 世界最大のコンベンション

World's Largest Convention

この記事が発行されるころには、日本折紙学会主催第19回折紙探偵団コンベンションに向けて、ボランティアスタッフが準備で大忙しでしょう。この探偵団コンベンションには「大先輩」があります。米国ニューヨークで毎年6月に開催されているOrigamiUSAコンベンションです。実は、探偵団コンベンションは、OrigamiUSAコンベンションと同じことを日本でもやりたいという思いから始まりました。

米国で初めての「コンベンション」は、1964年10月31日から11月1日までリリアン・オープンハイマーの

自宅で開かれた、私的な集まりでした。それ以来コンベンションが継続されているので、ニューヨークのコンベンションにはほぼ半世紀の歴史があることになります。

オープンハイマーは、The Origami Center of America (アメリカ折紙センター) を作って米国を中心に折り紙の普及と発展に尽くした人物であり、今では彼女の誕生日である10月24日がWorld Origami Daysの開始日となっています。

1978年に、オープンハイマーの活動を支援するための非営利団体であるThe Friends of The Origami Center of America (通称「フレンズ」) が設立され、フレンズが公式にコンベンションを主催するようになります。ただし、会場は、1980年までオープンハイマーの自宅でした。

1994年、フレンズはOrigamiUSA

と改称し、コンベンションの正式名称もThe Friends of The Origami Center of AmericaコンベンションからOrigamiUSAコンベンションと変わります。2013年のコンベンションは、オープンハイマーの自宅での集まりから数えて49回目、公式なコンベンションになってから35回目、OrigamiUSAコンベンションになってから19回目になります。

コンベンションの会場は、1980年から自然史博物館に移り、1988年から5年間はマンハッタンにある中学

★トリビア★

ニューヨークのコンベンションには半世紀の歴史がある。

校IS 44でした。1993年に現在の会場であるファッション工科大学に移っています。1964年、最初のコンベンションでオープンハイマーの自宅に集まったのは17人でしたが、自然史博物館に移った1980年代には参加者が150人ほどになり、今では600人から700人が参加する世界最大の折り紙イベントになっています。

これだけ大きなイベントになると運営も大変ですが、驚くべきことに、OrigamiUSAコンベンションは完全にボランティアによって運営されています。ただし、OrigamiUSAにはパートタイムの事務局長がおり、事務局長がかなりの仕事をしています。また、当日の警備や搬入・搬出などのためにスタッフを雇っています。

コンベンションの実行委員は4名ですが、その下で数多くのスタッフがさまざまな仕事をしています。宿泊、

このコーナーでは、折り紙に関するちょっとした疑問を探索し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

文 : 羽鳥公士郎

取材: 山口真、ジェイソン・クー、マルシオ・ノグチ

Reporter: Hatori Koshiro

Sources : Yamaguchi Makoto

Jason Ku

Marcio Noguchi

備品、教室の見本作品、展示、物品販売の管理、オークションなど、さまざまな分野にそれぞれ担当者がつきます。これはすべてボランティアです。

コンベンションの準備は、前年の秋から始まります。ただし、作業が忙しくなるのは2月か3月です。ボランティアの責任者は20人から25人で、ボランティアの合計は年によって150人から200人にもなります。

現在のOrigamiUSAコンベンションは、金曜日の夜から受付が始まり、土曜日と日曜日が折り紙教室、月曜

日が理論や技法の教室というスケジュールになって

います。教室の数は、コンベンションの参加者が増えるにつれて増え続け、今では土曜日と日曜日が約35部屋、月曜日が約15部屋です。それぞれの部屋で1日に1~5コマの講習がありますので、講習の数は3日間で200ほどになります。

折り紙教室は、難易度によってSimpleからLow Intermediate、Intermediate、High Intermediate、Complex、Supercomplexまで6段階



▲講習の作品見本は、専用のひな壇に飾られ、参加者は、プログラムを片手に選ぶ

○羽鳥公士郎(はとり・こうしろう)
=1972年東京生まれ。翻訳家・折紙研究家。折り紙関係の翻訳もするが、本職はIT(情報技術)関係。



に分かれています。日本のコンベンションと比べると、Simple(シンプル)が多くComplex(コンプレックス)が少ない傾向がありますが、最近はコンプレックス作品やデサレーション(平織り)の教室が増えています。

「正規の」教室に加えて、ホスピタリティーエリアと呼ばれる大教室では、そこかしこで即席の折り紙教室が自然発生します。習いたい作品の講習を受けられなかった人が、講習を受けた人から折り方を教えてもらうこともよくあります。ホスピタリティーエリアには、教室の見本作品があったり、インフォメーショ

ンデスクがあったりするほか、昼休みや夕食後に楽しいイベントも行われ、朝から夜までいつもにぎやかです。

さらに、物品販売も3種類あります。The Origami Sourceでは、普段OrigamiUSAがオンラインで販売している本や紙を実際に手に取ってから注文できます。Gold Mineでは、会員から寄付された希少本や特殊な紙などの掘り出し物を見つけることができます。そしてVendorエリアでは、

折り紙を使ったアクセサリなど手作りの商品を作者から直接買うことができます。

これだけ盛りだくさんのイベントでは、迷子になる人も続出します。インフォメーションデスクにも、「～は何時から始まりますか」「～はどこで買えますか」「～にはどうやっていけばよいですか」といった質問が多く寄せられます。さらに、会場周辺のレストランや、ニューヨークにある本屋や紙屋についてもよく尋ねられます。時間になっても講師が来ない、教室に鍵

★トリビア★

700人が参加するイベントがボランティアで運営されている。

がかかっていて入れない、エレベーターやエスカレーターが止まっている、エアコンが動かない、といった報告も多いです。

コンベンションに初めて参加する人に対するサポートが手厚いことも、OrigamiUSAコンベンションの特徴です。金曜日の夜には初参加者のためのオリエンテーションがあり、伝承作品を教える教室が毎年いくつかあります。

反対に、すべてのコンベンションに参加している人はいるのでしょうか。初期のコンベンション、つまりオープンハイマーの自宅での集まりでは、参加者の記録がないので、皆勤賞がいるかどうかは分かりませんが、70年代から欠かさず参加している人としては、ゲイ・メルル・グロス、ローラ・クラスカル、ジョン・モンテロールがいます。

モンテロールは14歳で初めてコンベンションに参加し、そのころから折り紙の天才少年といわれていました。

今の日本のコンベンションにも小中学生の作家が何人も参加していますが、モンテロールはその元祖といっているでしょう。

海外からの参加者は、2013年度は6%ほどでした。日本からは、1994年に川崎敏和、布施知子、前川淳、山口真が夫妻4組で参加して以来、山口を中心に毎年欠かさず何人かが参加しています。2013年も、吉野一生基金の渡航助成を利用して参加した松井英里香と森末圭をはじめ、11人が参加しました。



▲コンベンションのメイン会場となるホスピタリティーエリア



▲ホスピタリティーエリアでは、折り紙教室が自然発生する



▲1994年に参加した時の写真。山口夫妻、川崎夫妻、布施夫妻が写っている

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

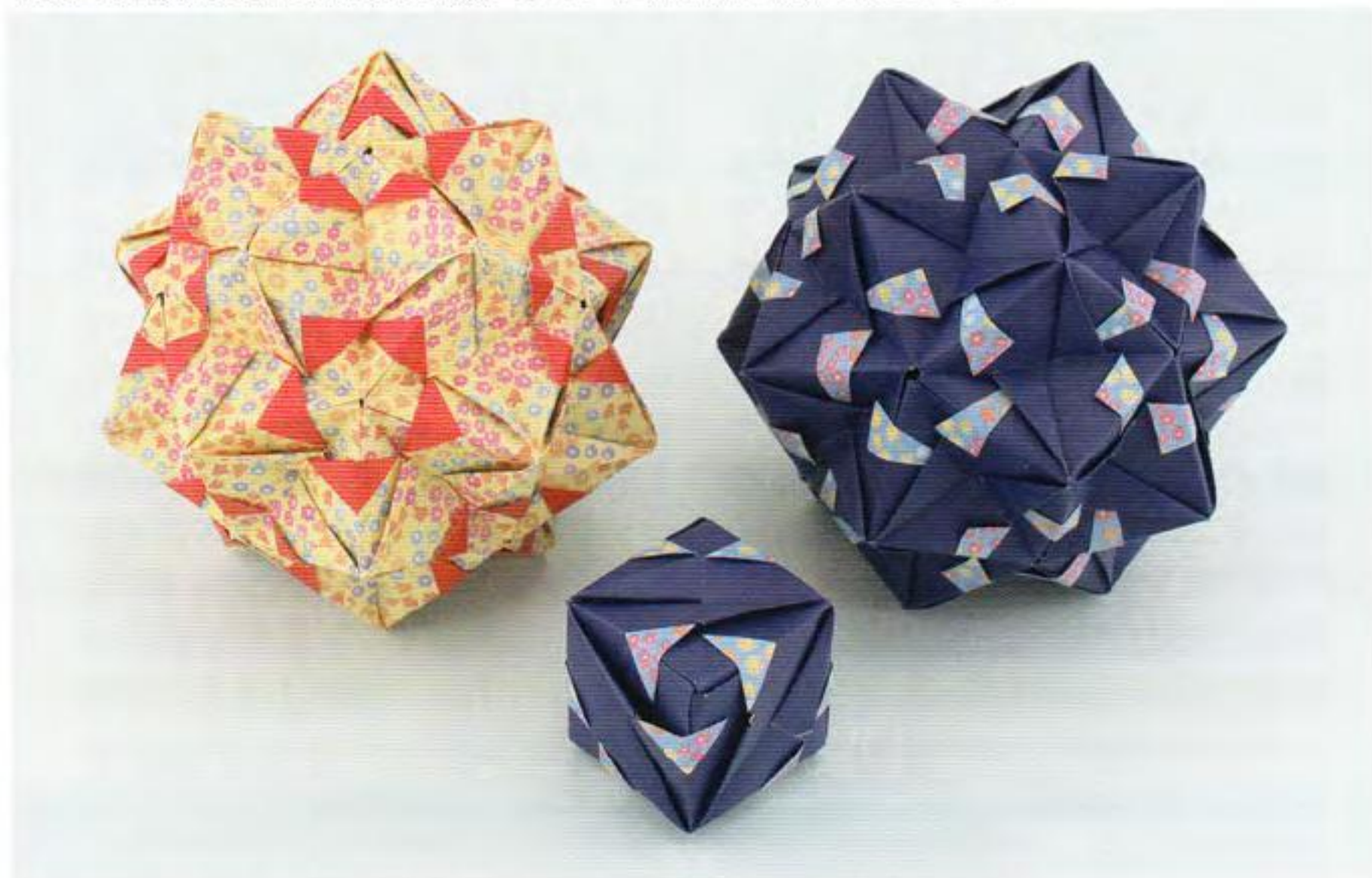
強烈な日射しと過剰な湿気に悩まされる日々、なりふりかまってる場合じゃない。

自分に合った対策・装備を、「現地調達すればいいや」などとは考えずに、常に持ち歩くことが重要です。

「梅鉢草」 作：布施知子(P.4)

Marsh Grass-of-Parnassus : Fuse Tomoko (P.4)

■五角星の可憐な模様が、インサイドアウトを経ながら内側へ内側へと小さく重なってゆく。実物とかけはなれた配色・模様の紙を使っているにもかかわらず、緑の背景に埋もれた梅鉢草の、白い花弁の内側にさらに緑と白の部品が交互に繰り返す様子が浮かび上がってくるかのようです。ユニットの仕上げを変えれば色の出方が変わり、右側の完成形のように回転対称の模様が得られます。



「リンゴとかぼちゃのオーナメント」 作：やまぐち真(P.8)

Ornaments: Apple and Pumpkin: Yamaguchi Makoto (P.8)

■ファンタジーの世界で、妖精が魔物にとらわれて閉じ込められている小さな檻。そんな雰囲気のを、どこかで見たとような気がします。実際にこの作品の内部に、小さな作品を入れてみるのもよいかもしれません。すると今度は、大きな紙でドラゴンを折って近くに置きたくなったりして…。これを中心にして次々に物語が広がってゆく、発想の起爆剤のような作品だと思います。





「舞妓」 作：松井英里香(P.38)

Maiko: Matsui Erika (P.38)

■「映画女優」(136号展開図掲載)の作者による人物像の新作。今回もまた、あまり見たことがないデザイン上の切り口に驚かされます。左右非対称の展開図には部品が複雑に入り組んでいて、一体どこがどこになるのやら、すぐにはイメージしにくいことでしょう。完成形の斜め方向から見ると首の造形がさらに強調され、表紙写真の角度とはまた異なる魅力に気がきます。



「ガイコツくん2号・改」(P. 26)の応用例 「双髻ガイコツ半跏思惟像」と 「ガイコツケンプファー」 作：北條高史

"GAIKOTSU Bodhisattva with one leg crossed" and "Gaikotsukämpfer", application for "Basic GAIKOTSU Figure for GAIKOTSU PLANET" (P. 26): Hojo Takashi

■1996年の「TVチャンピオン」で使用した作品に、細かな改修をいくつか加えました。「蛇腹折り初心者」からのステップアップに適した教材とすべく、以前作製した「バイオリン奏者」の折り図とはまた異なる観点から学ぶことができる工程を採用しています。いちど完成形を得て、作品内部の立体的な位置関係を把握したら、次回は「紙にかかる負担をさらに減らして、きれいに折ること」に適した工程を考えてみましょう。

OrigamiUSA コンベンション(P.41)

OrigamiUSA Annual Convention

世界最大規模を誇るOrigamiUSAのコンベンションが、今年もNYで開催された。(関連記事はP.41に記載)

Exhibition



Hoang Tien Quyet



Nguyen Hung Cuong



Beth Johnson



Robert J. Lang



Ralf Konrad



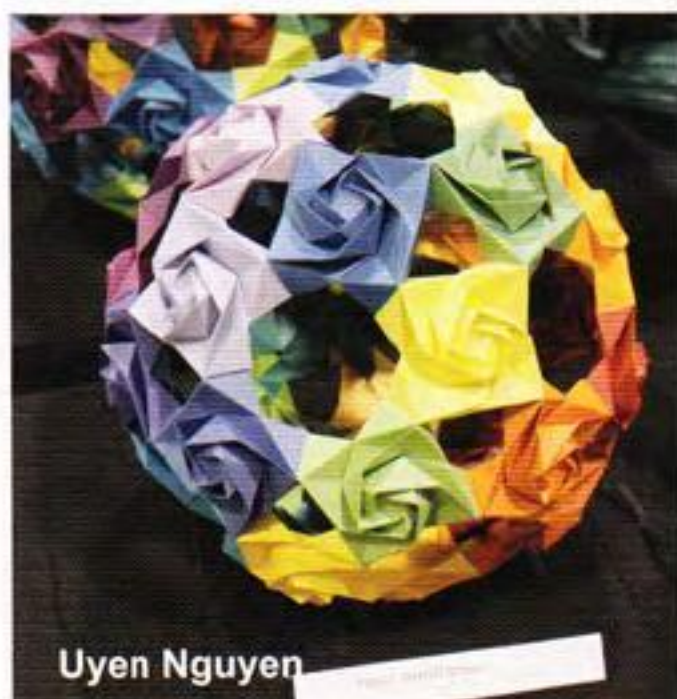
Bernie Peyton



Seth Friedman



Michael G. LaFosse



Uyen Nguyen



Paul Frasco

OPE (Origami Pin Exchange) 2013



■コンベンション初日の昼休み、メイン会場のホスピタリティーエリアで「折り紙ピン」の交換会が開かれた。特にルールはなく、(服等に)取り付けることができるように加工した折り紙作品を交換するのである。50人の参加者達が入り乱れて、気に入ったデザインのピンを交換しあった。



ATCS (8th Artist Trading Card Swap)



■ATCというものをご存知だろうか。アーティスト・トレーディング・カードの略で、3.5×2.5インチのカードに絵を描いたりして交換するというものだ。このコンベンションでは、折り紙によるATCの交換会を続けていて、今年は8回目。自慢のコレクションを見せあったりして、参加者達は楽しい時間を過ごした。



Origami Caravan



■1人で何足も購入してくれる人もいて、3日間で完売となった。

■山口真氏は、昨年に続いて、折り紙きやらばんへの寄付を募った。今年は折り紙のブーツ90足。折ったのは大場雅人氏。1足ずつ専用のパッケージに入れられて、1つ5ドルからの値段が付けられた。



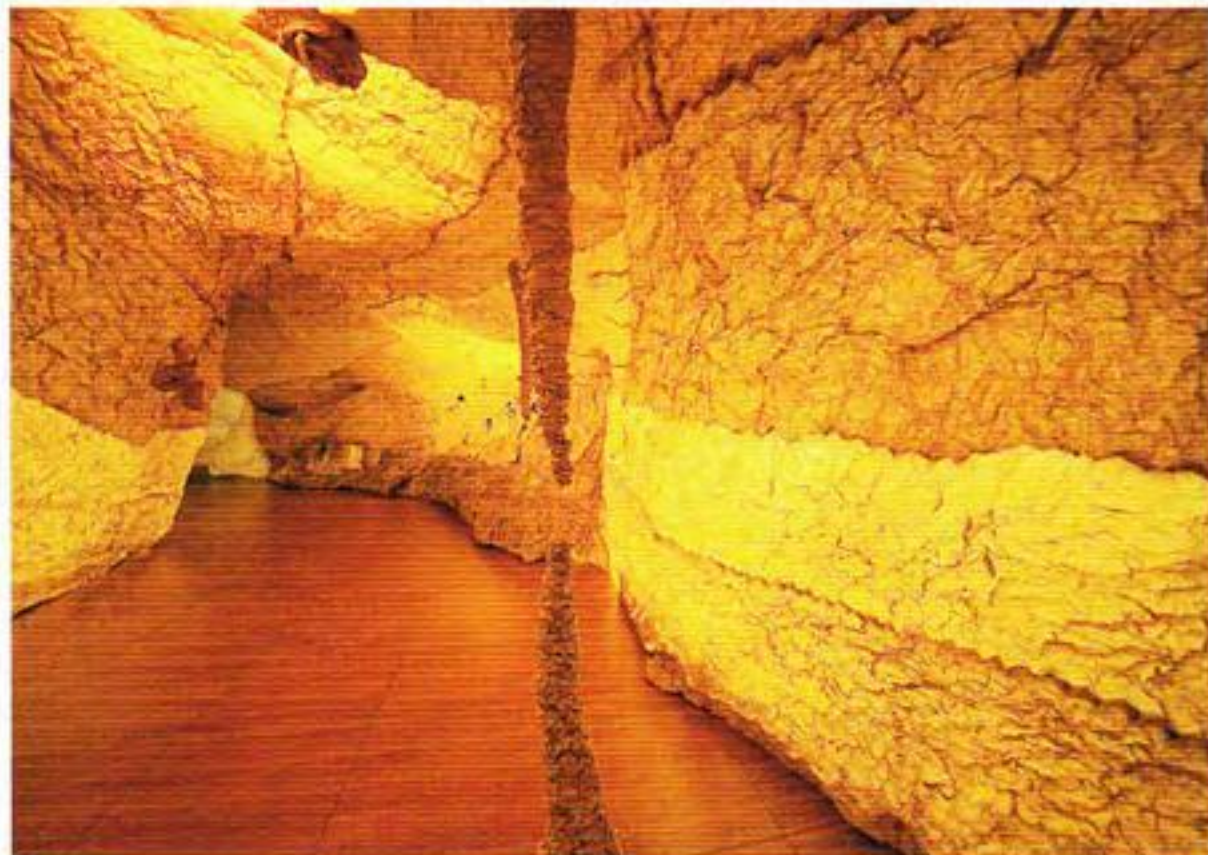
■最終日のレセプションでは、山口氏に総額605ドルの寄付金が渡された。これは、8月の東京のコンベンション後に予定している、折り紙きやらばんの活動の、交通費にあてられる予定だ。

「サラゴサでの折り紙活動」より(P.11)

From "Origami Activities in Zaragoza"

Photo: Grupo Zaragozano de Papiroflexia

■「2階は『Arrugado』と題された展示スペースで、フランスの折り紙グループ『CRIMP』によるスケールの大きな展示がありました。最初のスペースは海、2つめのスペースは洞窟の中」(P.11より抜粋)



■「3階はフランスの折り紙の巨匠、エリック・ジョワゼル氏のフロア、彼の35年にわたる折り紙人生が一望できる作りになっていました。」(P.11より抜粋)



第3回折紙探偵団九州コンベンション(P.40)

The 3rd Origami Tanteidan Kyushu Convention

第3回目となる九州コンベンションは5月25・26日に開催された。(レポートはP.40に記載)



▲前川氏のレアな靴下もお披露目いただきました



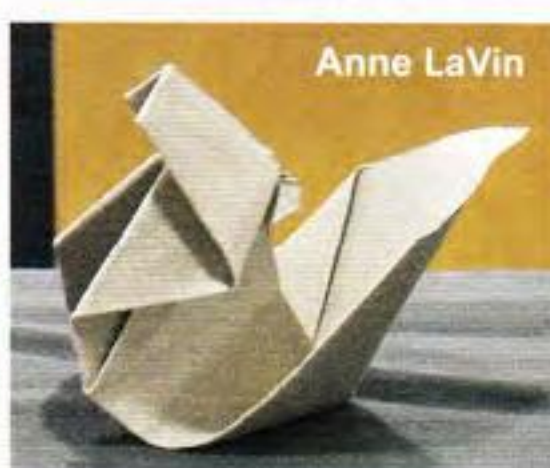
Kawamura Miyuki



Yamakita Katsuhiko



Maekawa Jun



Anne LaVin



Anne LaVin

▲鉄板を溶接して作られた折り鶴



折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of the Origami Tanteidan Tokyo Group



Hashima Hitoshi



Mineo Shotaro (Age 13)



Otani Mitsugu

Otani Mitsugu



Kosuge Akihiro

毎月第1土曜日に開かれている東京友の会例会には、毎回新作が揃う。特に若い世代の進歩は目覚ましい。

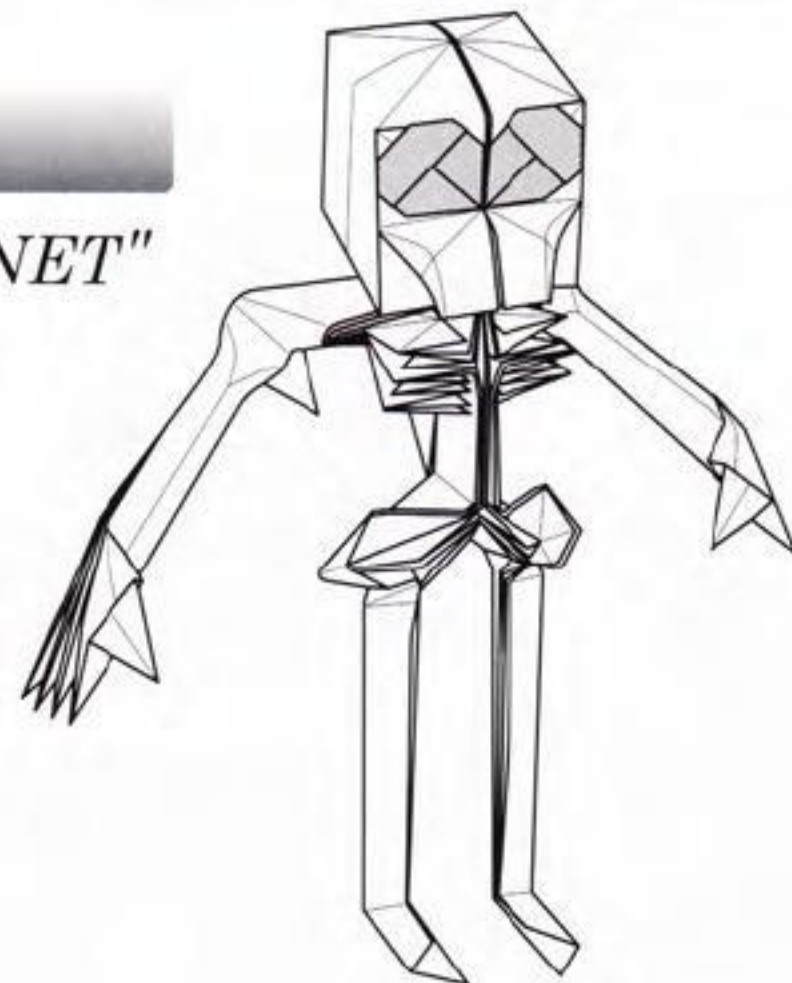
ガイコツくん2号・改

"Basic GAIKOTSU Figure for GAIKOTSU PLANET"

©HOJYO Takashi 2013

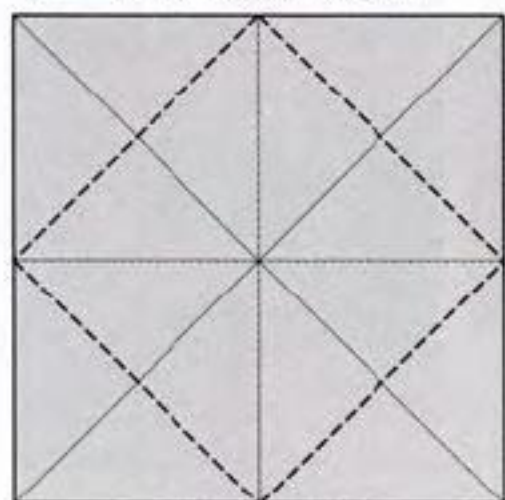
創作・図：北條高史

創作1995 改修2012/11/18 作図2013/6/29

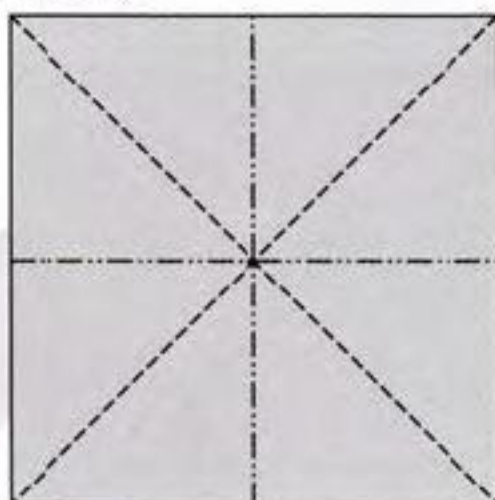


＜頭部＞ 片面が白で、もう一方が濃い色の紙を使用する
(10cm x 10cm)

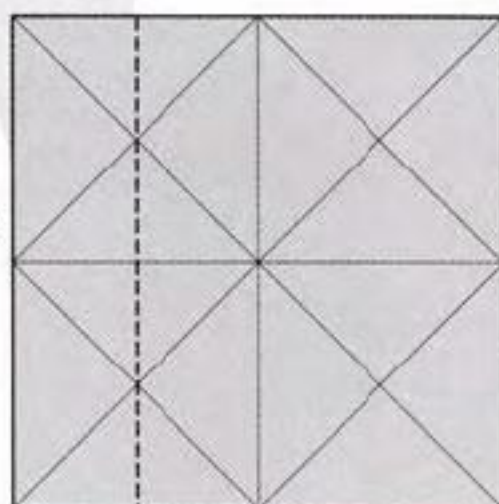
2 折り目を付ける



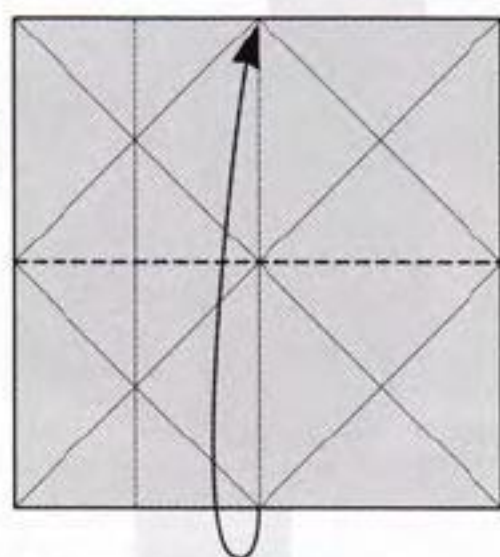
1 折り目を付ける



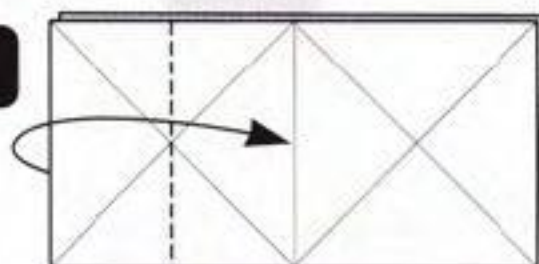
3 折り目を付ける



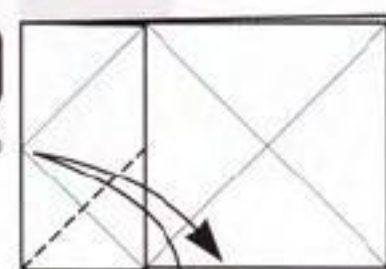
4



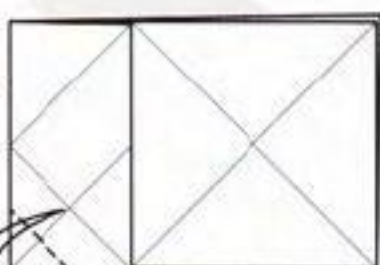
5



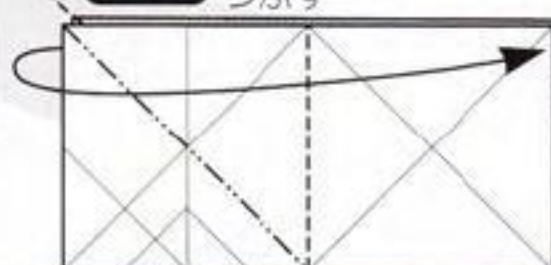
6 折り目を付ける



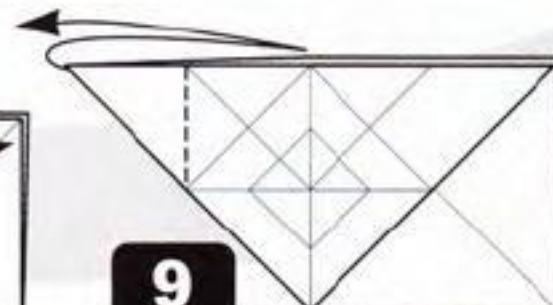
7 折り目を付けたのち
工程5の状態まで
戻す



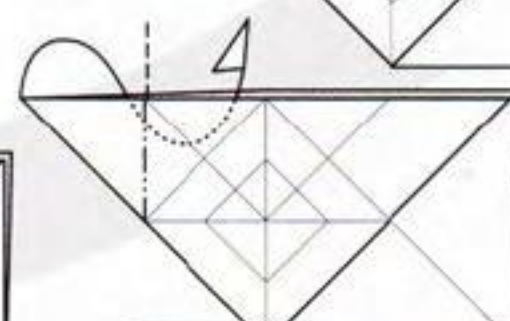
8 内側をひろげて
つぶす



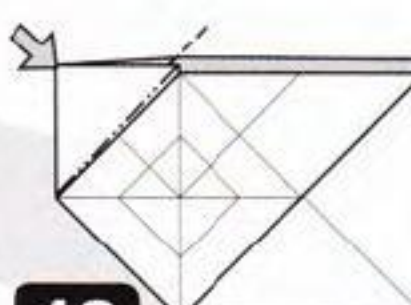
9 折り目を付ける



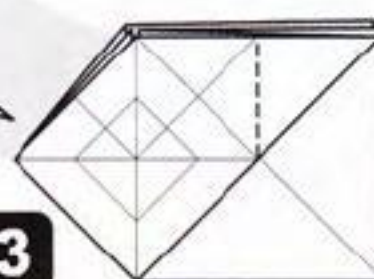
10 中割り折りの
内部へ押し込む



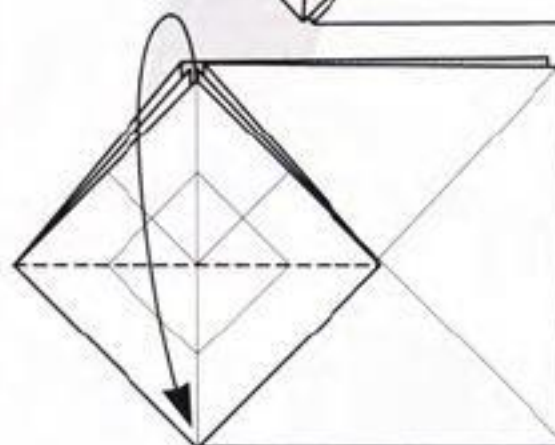
12 中割り折りの
内部へ押し込む



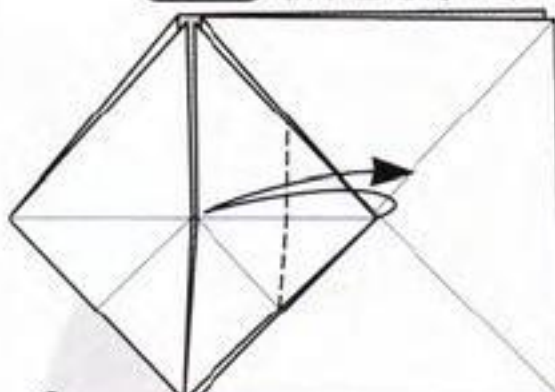
13 右側についても
工程9～12と同様に
左右対称に加工する



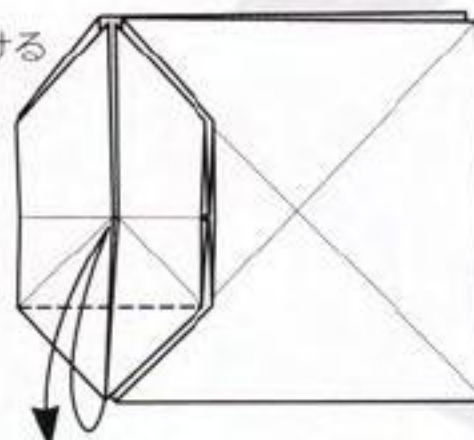
14 手前側の1層だけを
折り下ろす



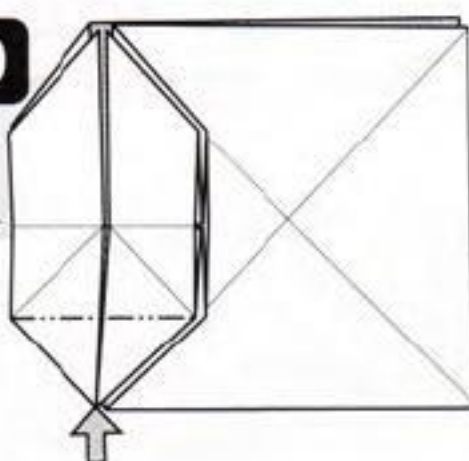
15 折り目を付ける



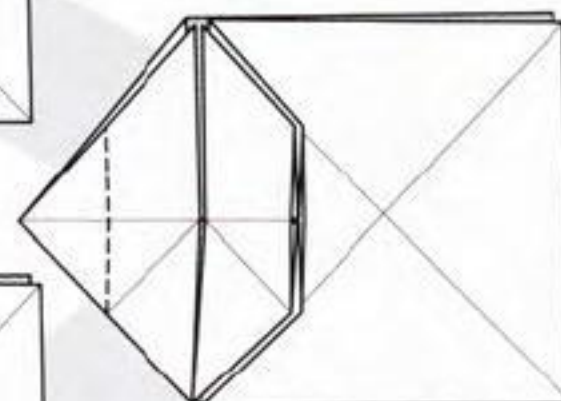
18



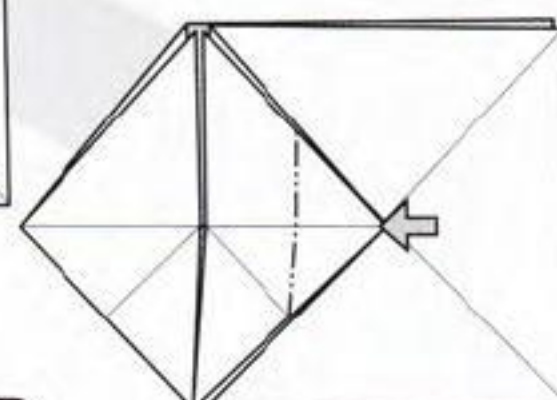
19 手前側のカドを
沈め折りの
内部へ押し込む



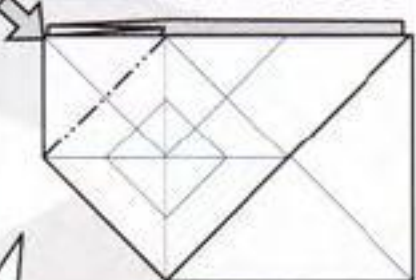
17 左側についても
工程15～16と同様に
左右対称に加工する



16 沈め折り
(open sink)



11 手前側のカドを
中割り折りの
内部へ押し込む



立てている部分を倒して
工程20の状態に戻す

22

手前側の1層に
折り目を付ける

23

24

中割り折りの的に
内側へ押し込む

25

手前側の1層だけを折る

26

手前側の
1層だけを折る

20

次の図も参考にして
カドをめくって立体的に立てる
軽くひろげるのみで
新たな折り目は付けなくてよい

次の図で作品の左半分を拡大

手前側の層を
折り目に合わせて折る

21

27

3か所のカドを
裏側へ少し折る

工程29で折り上げた
手前側の1層だけに戻す

31

次の図では裏返して
作品全体を見る

32

28

右側についても
工程20~27と同様に
左右対称に折る

29

30

手前側の1層だけを
すでに付いている線に
合わせて折る

内側をひろげて
つぶす

33

38

折り目を付ける

37

36

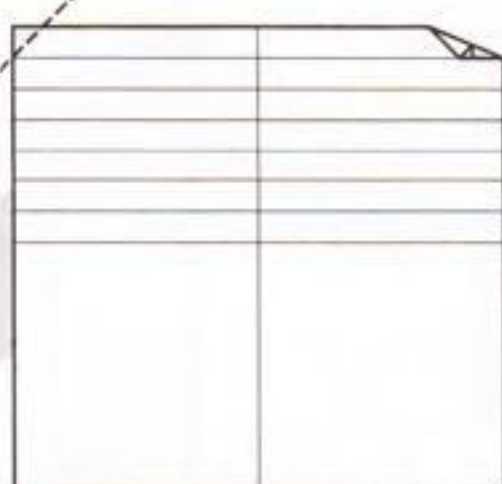
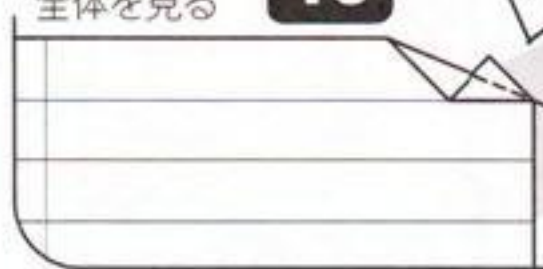
35

折り目を付ける

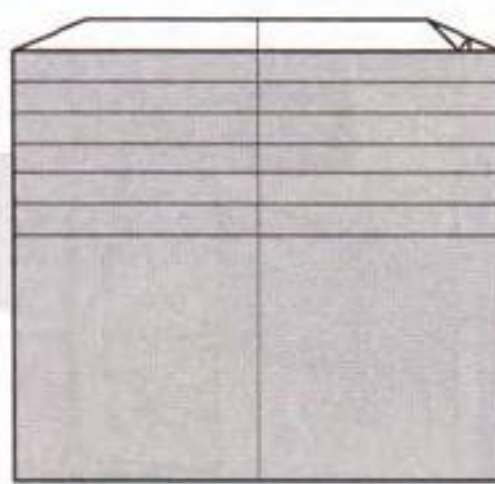
34

手前側に折る
次の図では
全体を見る

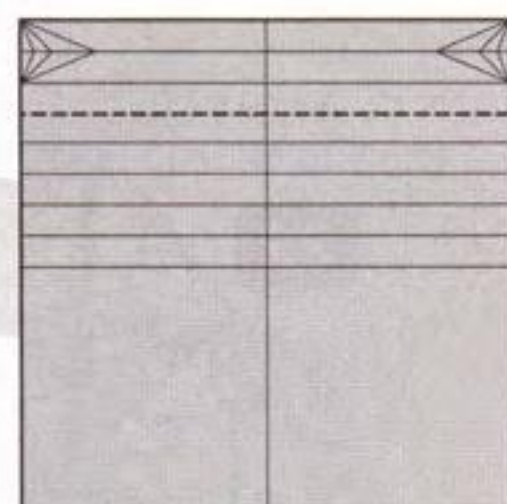
10



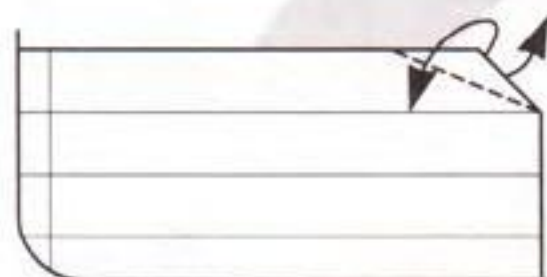
11 左上部分についても
工程7~10と
同様に加工する



12 全体をひらく

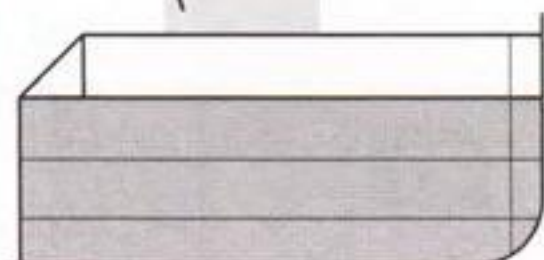


13 図の谷折り線で
折ったのち
工程7~12と
同様に加工する



9

手前側の層のみを折る
裏側の層がつられて出てくるようにする



8

左右方向に裏返す
次の図では作品右上の部分拡大

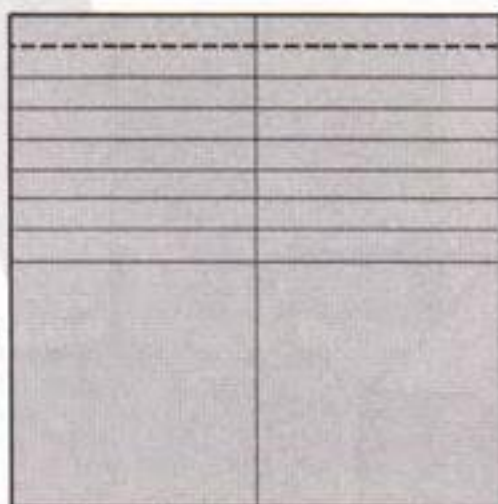


7



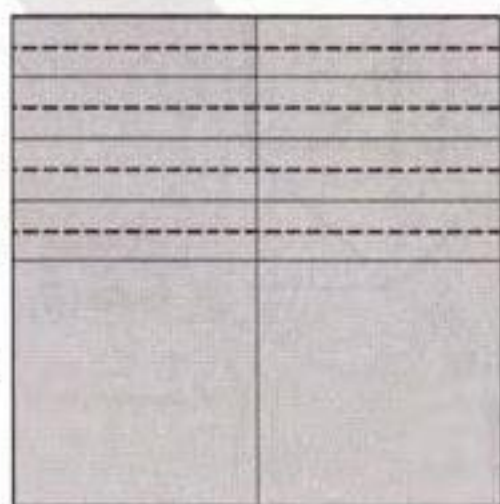
6

上端の線で折る
次の図では
左上の部分拡大



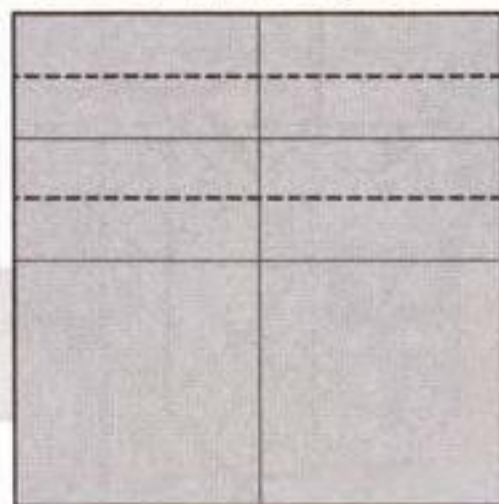
5

半分の幅で
折り目を付ける



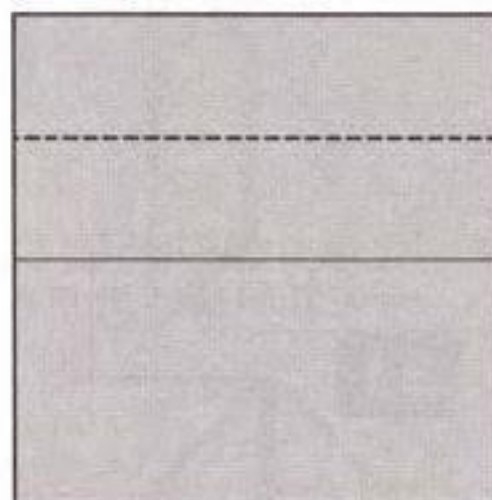
4

半分の幅で
折り目を付ける



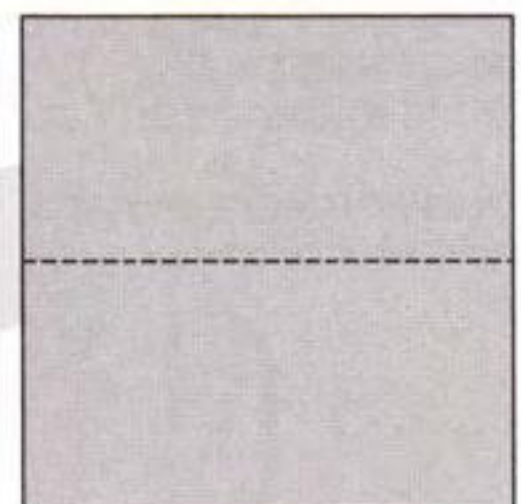
3

半分の幅で
折り目を付ける



2

半分の幅で
折り目を付ける



1

半分の幅で
折り目を付ける

<腕部>

両面が白の紙を使用する
(15cm x 15cm)
今回の図では理解の便のため
紙の表裏を色分けしてある

紙の目の方向

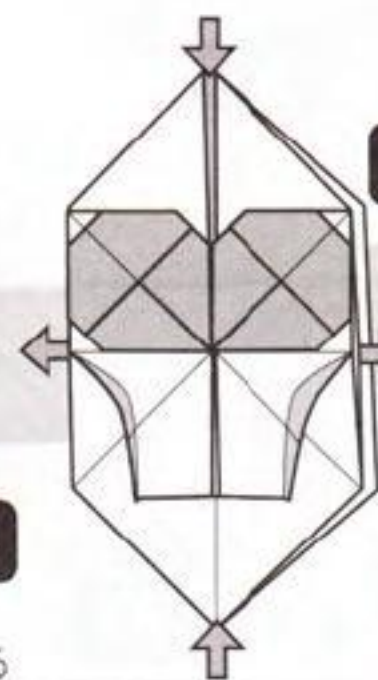
44

頭部完成



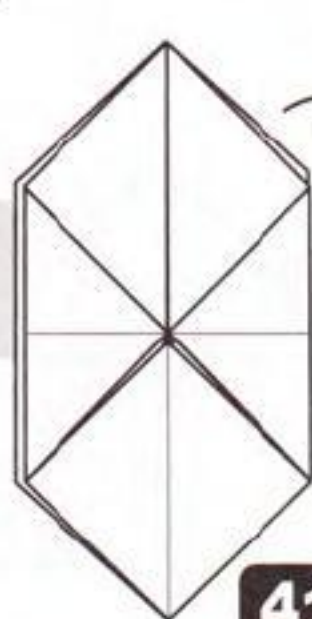
43

新たな折り目を付けずに
伝承の風船のように
立体的にふくらませる
息を吹き込むよりも
内側へ細い棒を入れるほうが
きれいに仕上げやすい



42

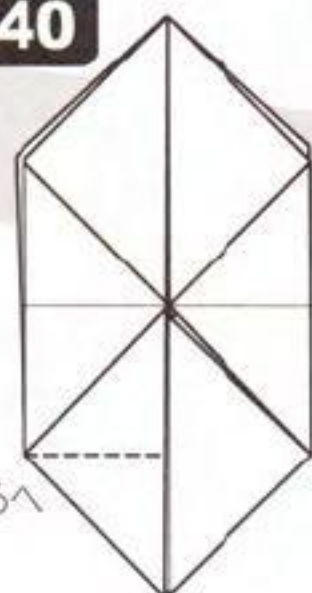
つまむように折って
半立体的に仕上げる



41

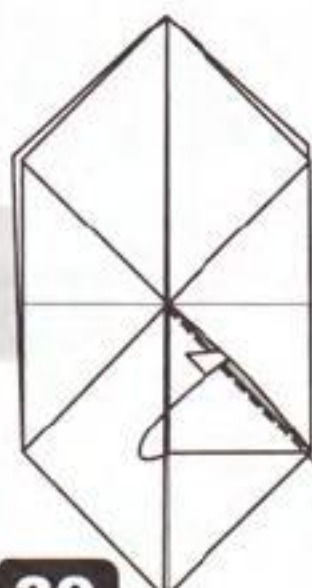
左側についても
工程37~39と同様に
左右対称に加工する

40



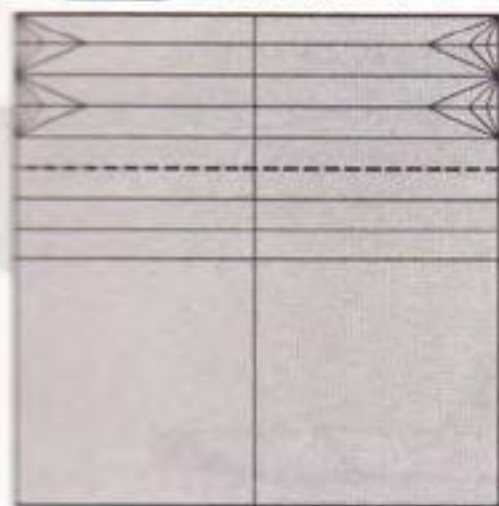
39

袋状になっているところへ
差し込む



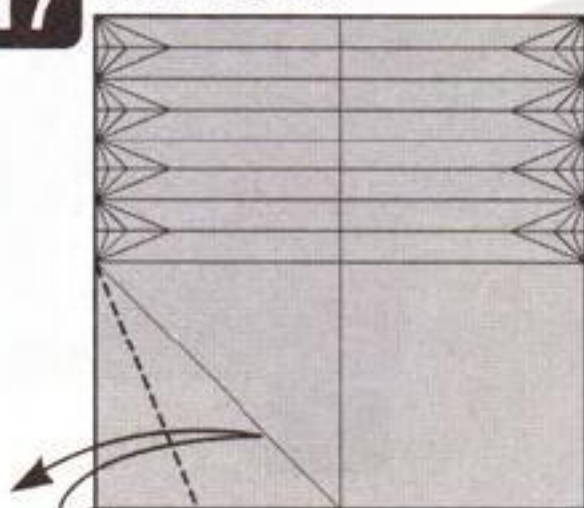
14

図の谷折り線で折ったのち
工程7~12と
同様に加工する



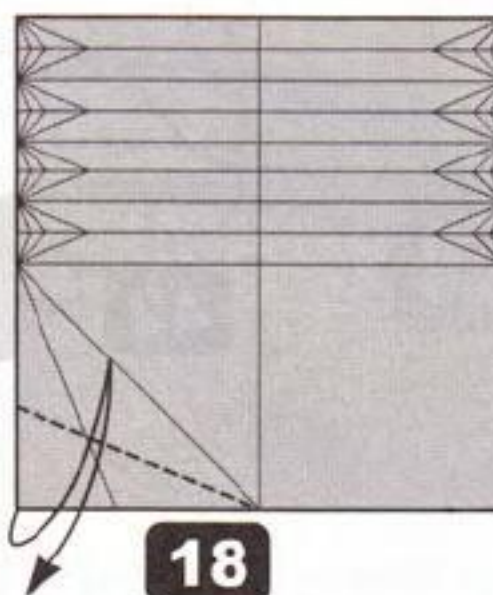
17

折り目を付ける



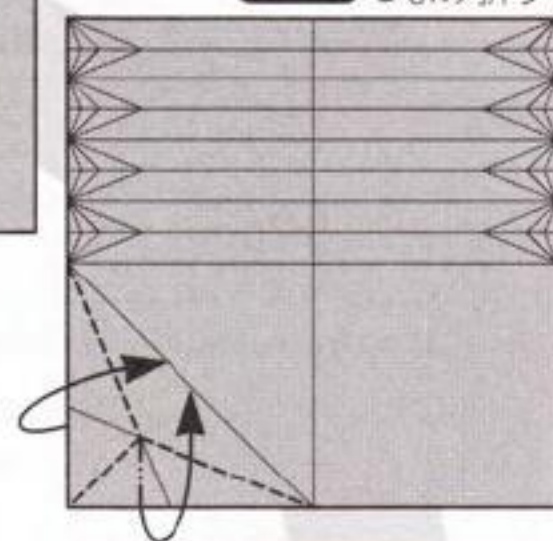
18

折り目を付ける



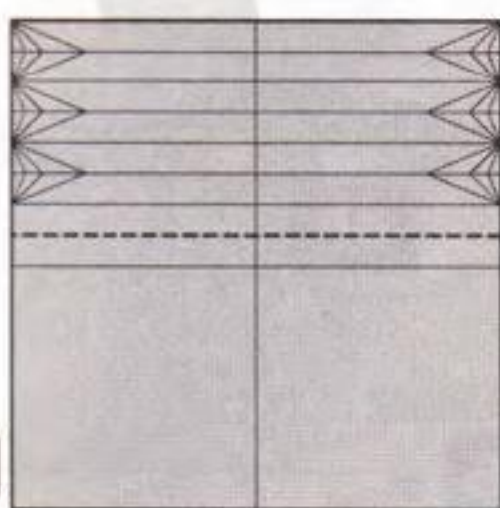
19

つまみ折り

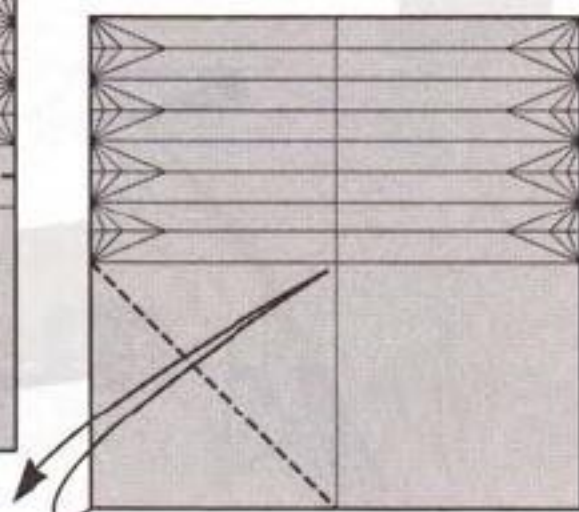


15

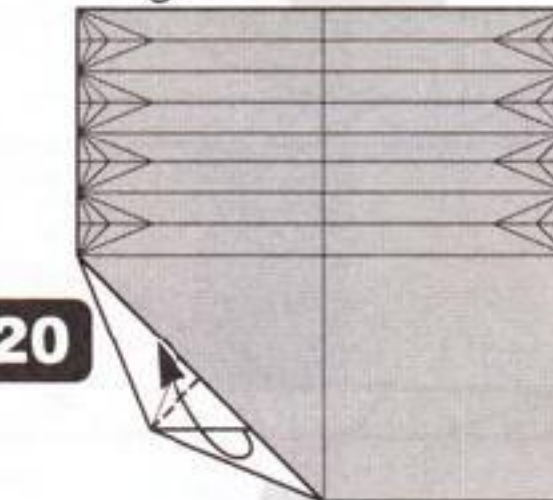
図の谷折り線で折ったのち
工程7~12と
同様に加工する



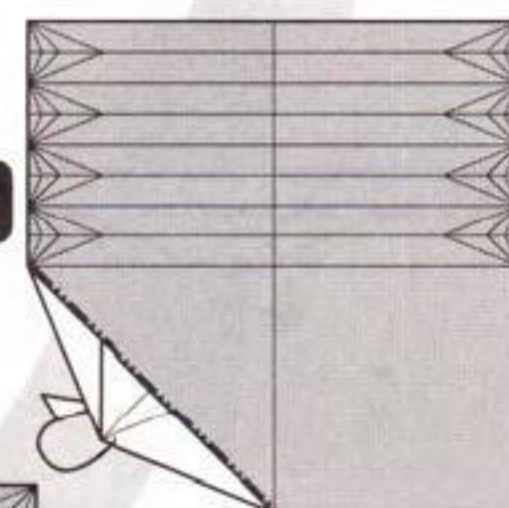
16



20

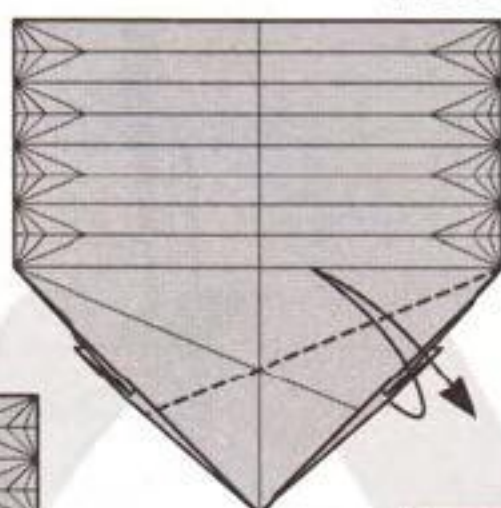


21



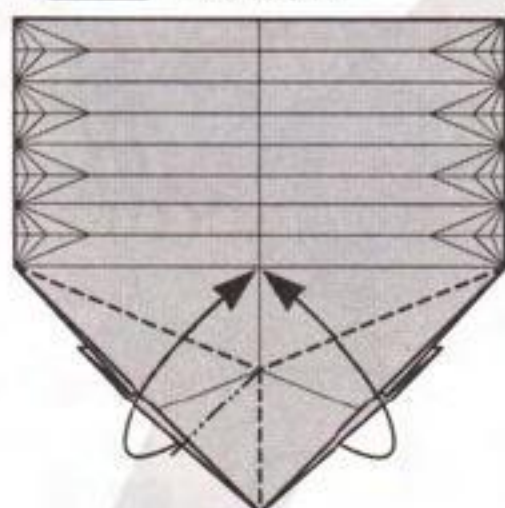
折り目を付ける

24



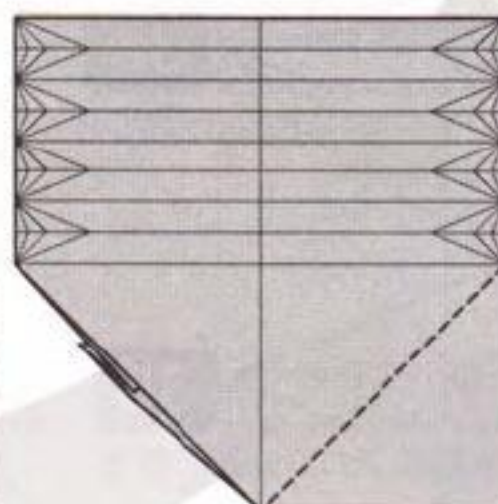
25

つまみ折り



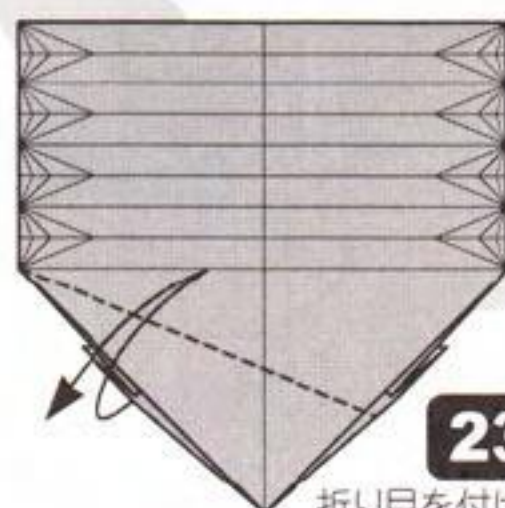
22

工程16~21まで
右側も同様に
左右対称に加工する



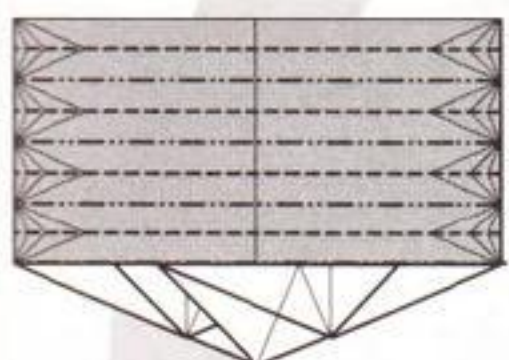
23

折り目を付ける



26

すでに付いている線で
シグザグにたたむ



27

手前側の1層をめくる



28



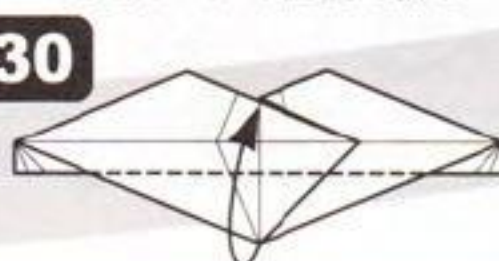
手前側の1層をめくる

29



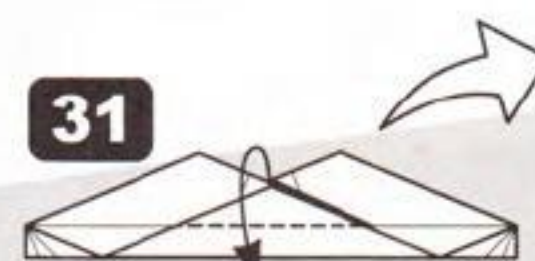
30

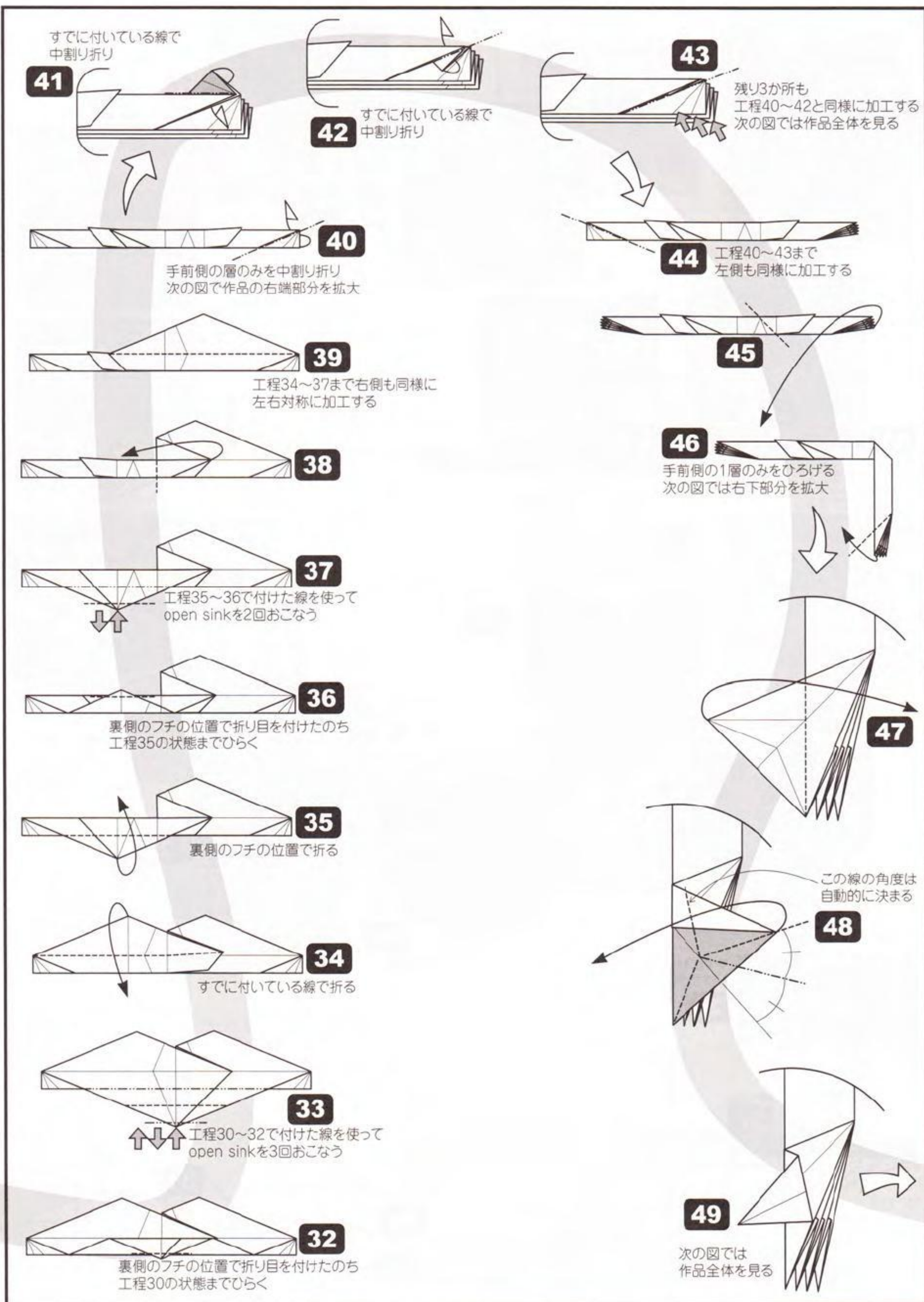
裏側のフチの位置で折る



31

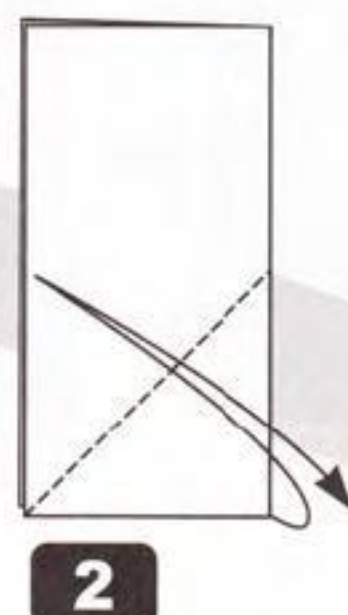
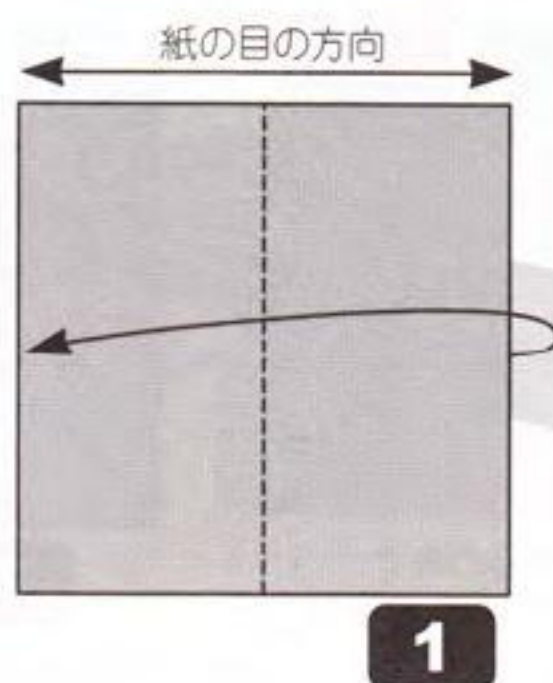
手前側の1層を
裏側の線の位置で折る



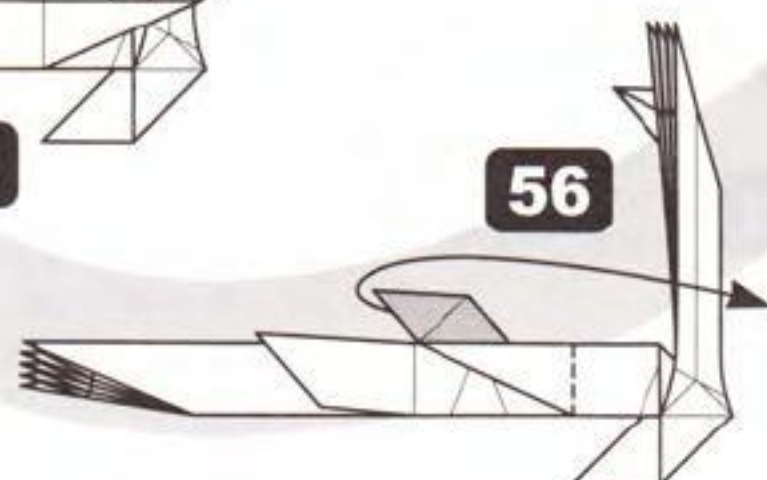
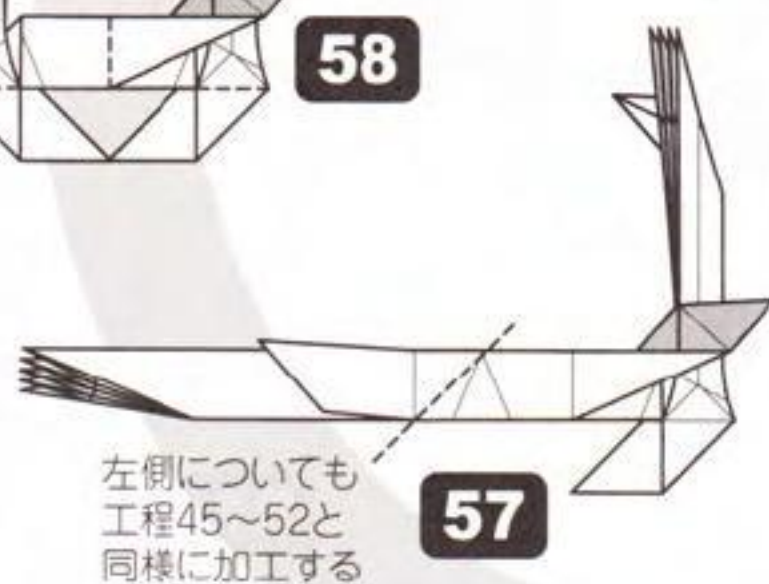


<背骨・下半身>

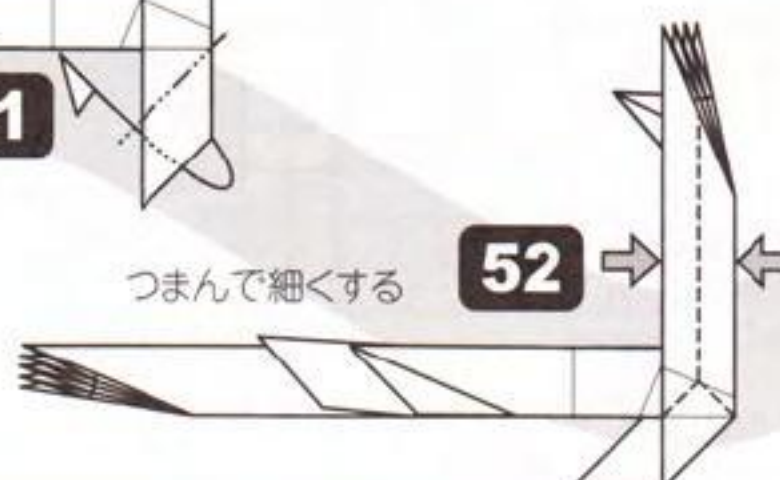
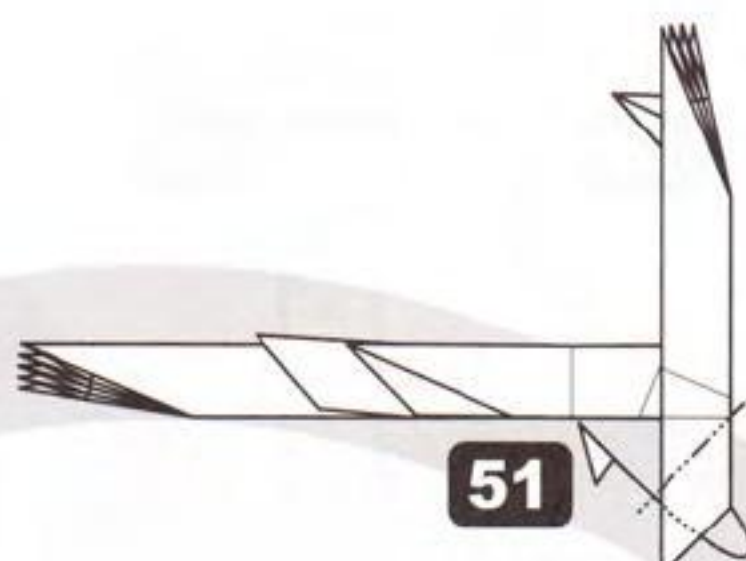
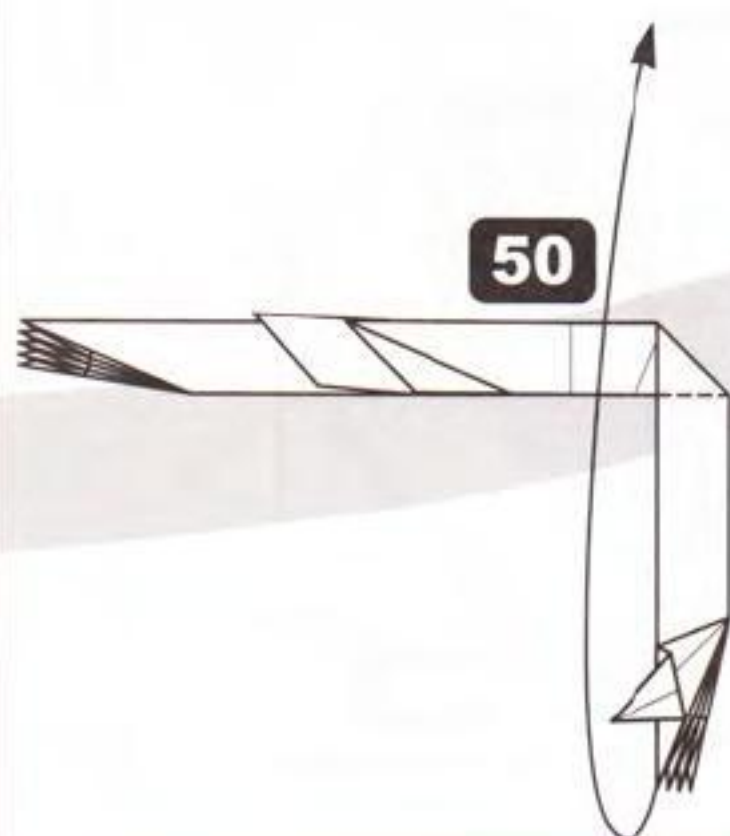
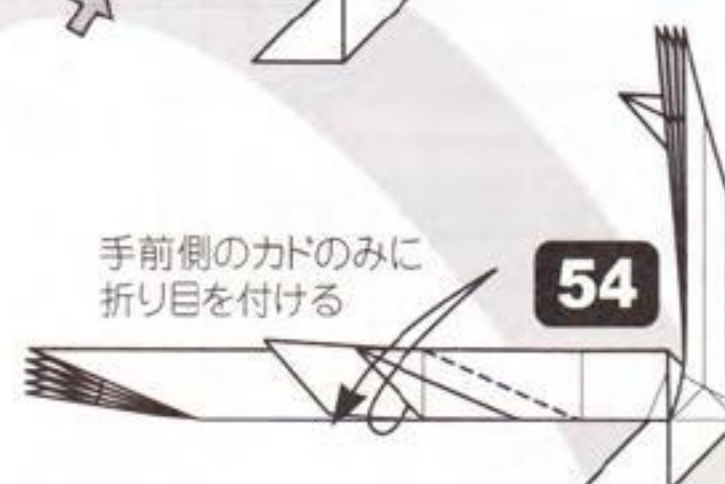
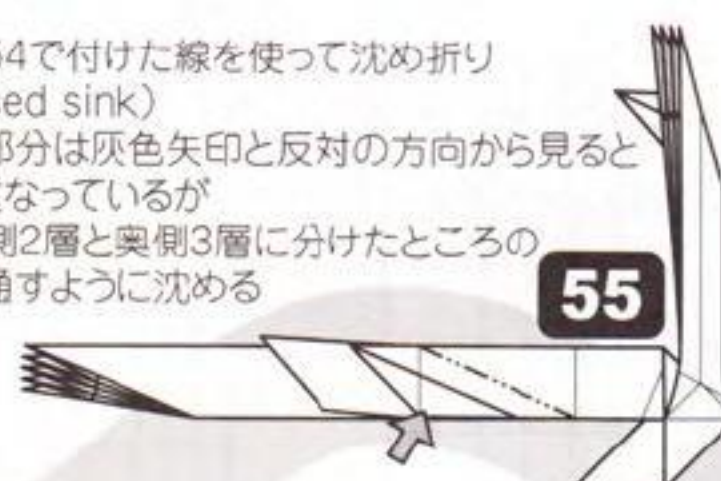
両面が白の紙を使用する
(15cm x 15cm)
今回の図では理解の便のため
紙の表裏を色分けしてある

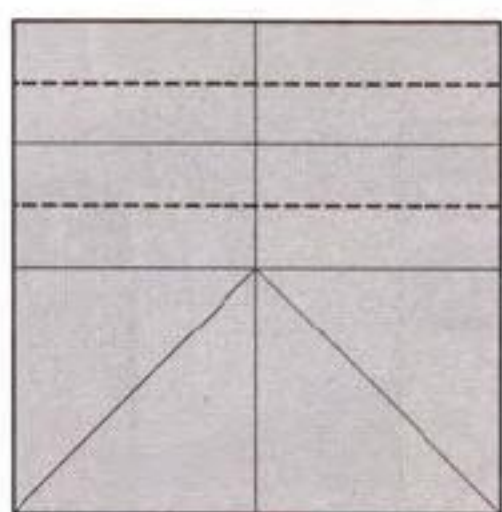


折り目を付けたのち
全体をひらく

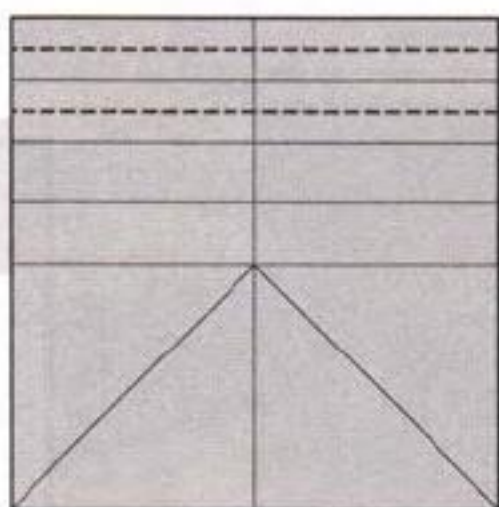


工程54で付けた線を使って沈め折り
(closed sink)
この部分は灰色矢印と反対の方向から見ると
5層重なっているが
手前側2層と奥側3層に分けたところの
間を通すように沈める

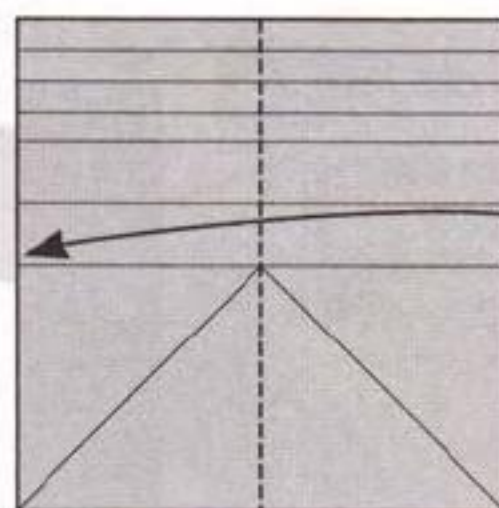




5 半分の幅で
折り目を付ける



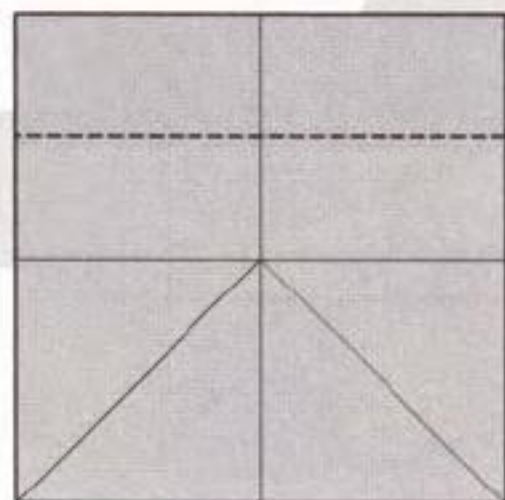
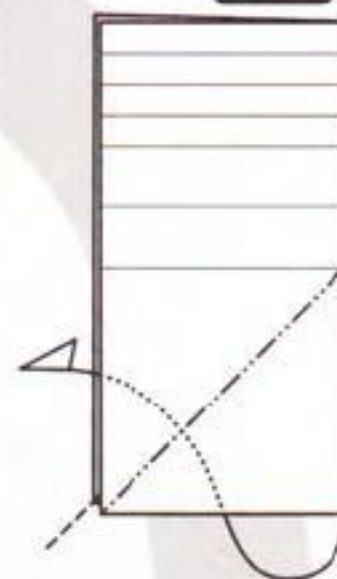
6 半分の幅で
折り目を付ける



7

中割り折り

8



4

半分の幅で
折り目を付ける

半分の幅で
すべての層に折り目を付ける
紙の重なりが多くてずれやすいので注意

9

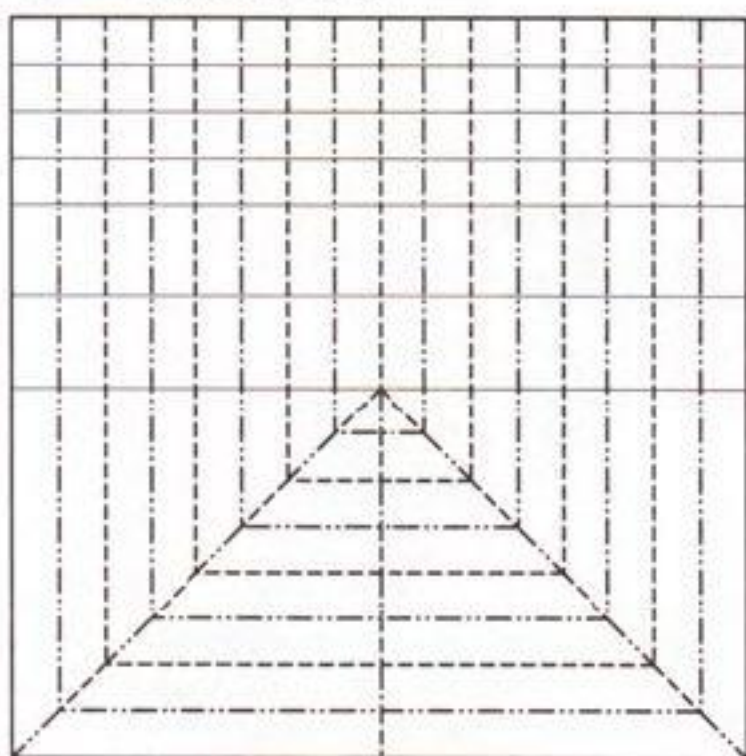


半分の幅で
すべての層に折り目を付ける
紙の重なりが多くて
ずれやすいので注意

10



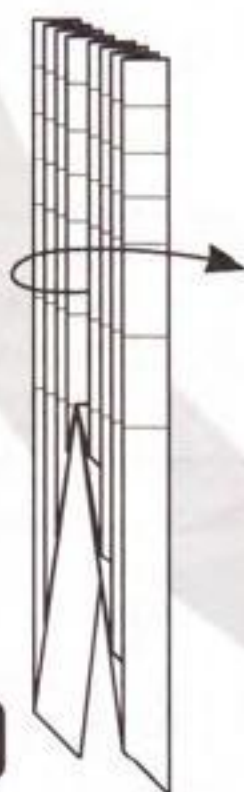
12 図の山折り線・谷折り線に
沿ってたたむ



半分の幅で
すべての層に
折り目を付ける
紙の重なりが多くて
ずれやすいので注意

11

工程9~11の折り目を
しっかり付けたのち
全体をひろげる



13

図のような角度で置いたのち
手前側の4層をつまんで
右側にひらく

つられてくる部分は
次の図のようにつぶす

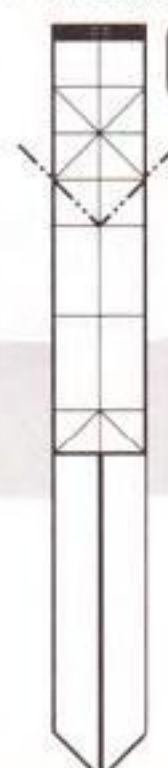
すべての層に
しっかりと
折り目を付ける
紙の重なりが多くて
ずれやすいので注意

14



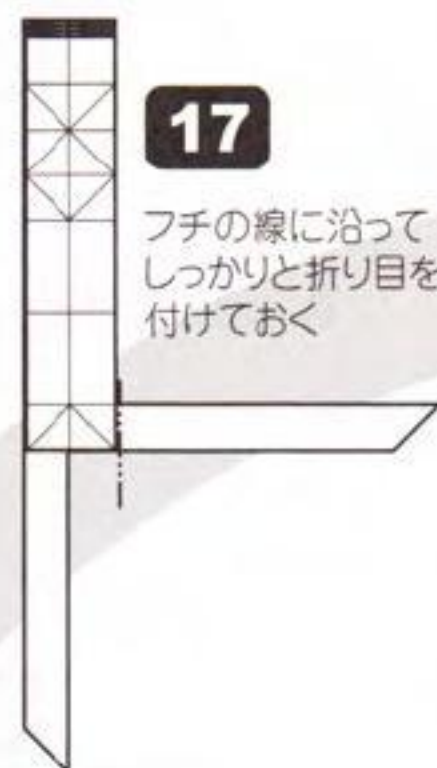
すべての層に
しっかりと
折り目を付ける
紙の重なりが多くて
ずれやすいので注意

15



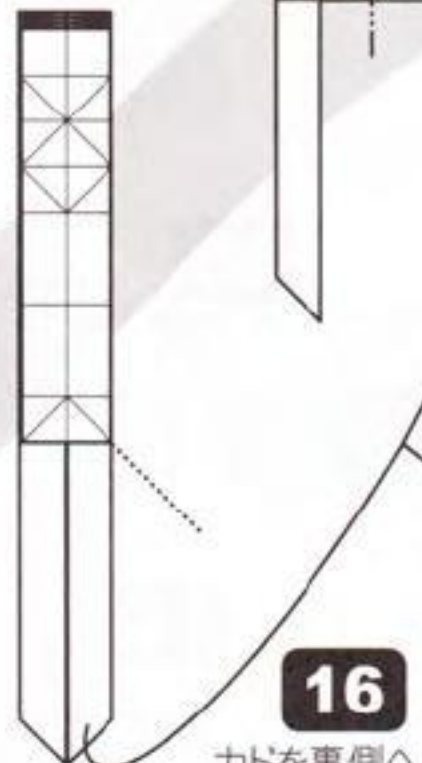
17

フチの線に沿って
しっかりと折り目を
付けておく

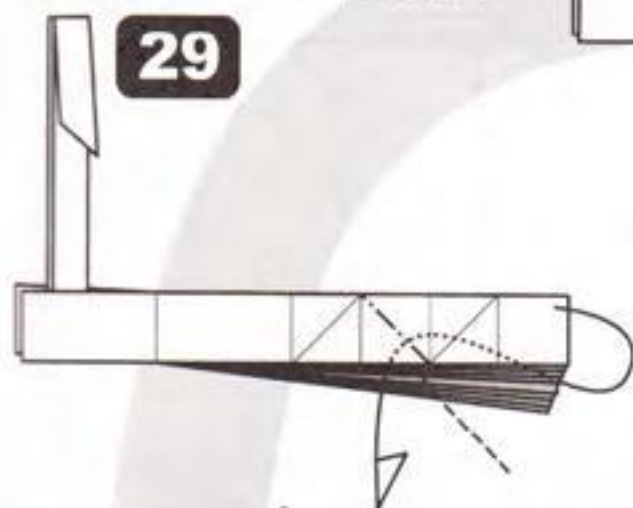


16

カドを裏側へ折る



下方から見ると
9層重なっているが
これを手前側の
5層と奥側の4層に分けて
その間を通すように中割り折り



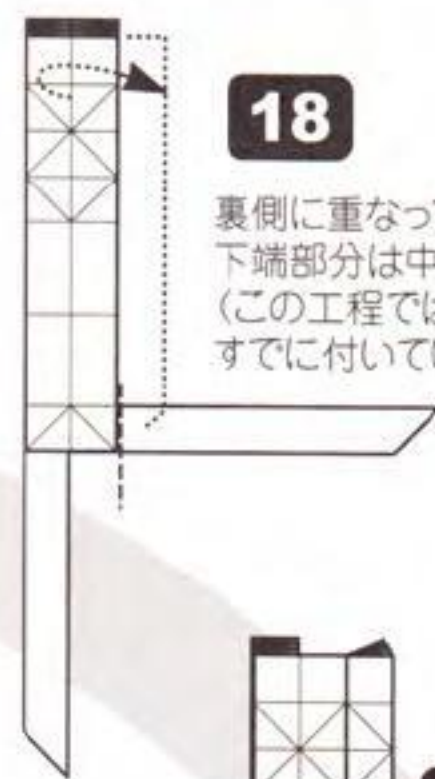
右側についても
工程24~26と
同様に加工する



内側に重なった層の
135°のカドの位置で
向こう側へ折る



つまみ折りをした部分の根元を
何度か折り返して
しっかりと折り目を付けておく



18

裏側に重なっている層をすべて右側にひらく
下端部分は中割り折りのように引き出す
(この工程では新たな折り目を付けずに
すでに付いている折り線のみを使って加工する)



19

左側についても
工程16~18と
同様に加工する



20

裏側に向かって
つまみ折り



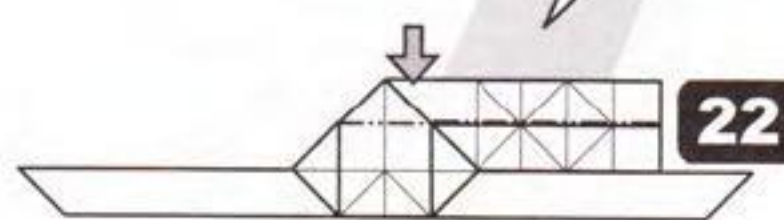
24

手前側の層をつまみ折り



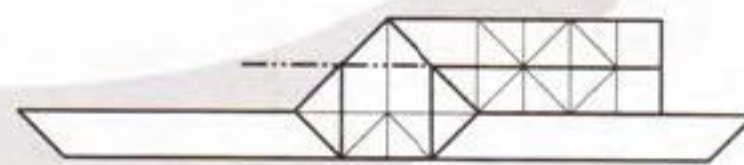
23

三角形の部分を3層すべて
左右にひらきながら
下半分の部分を上側に折る



22

沈め折り
(open sink)

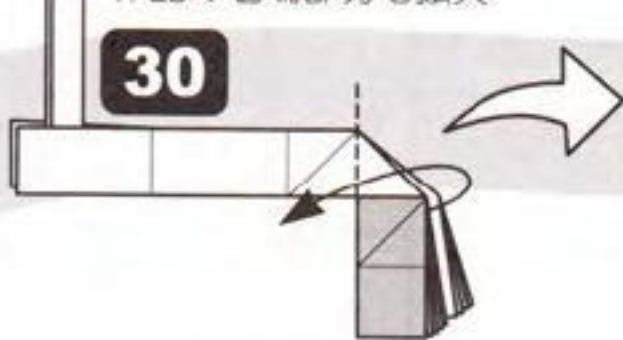


21

折り目を付ける

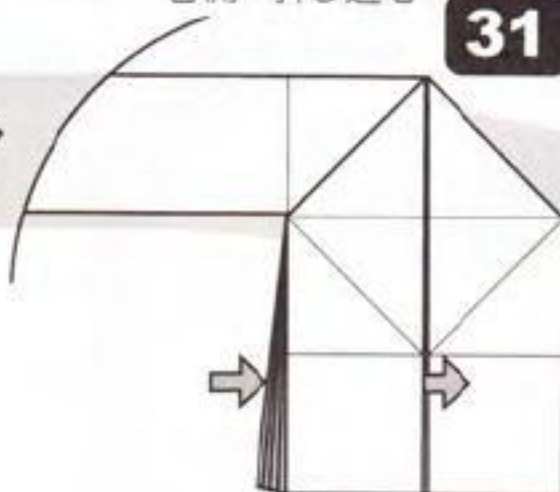
次の図では
作品の右端部分を拡大

30



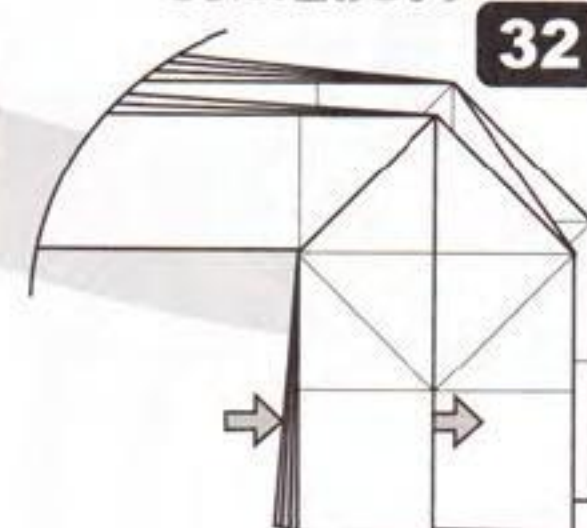
いちばん奥側の層を
closed sink的に
右側へ押し込む

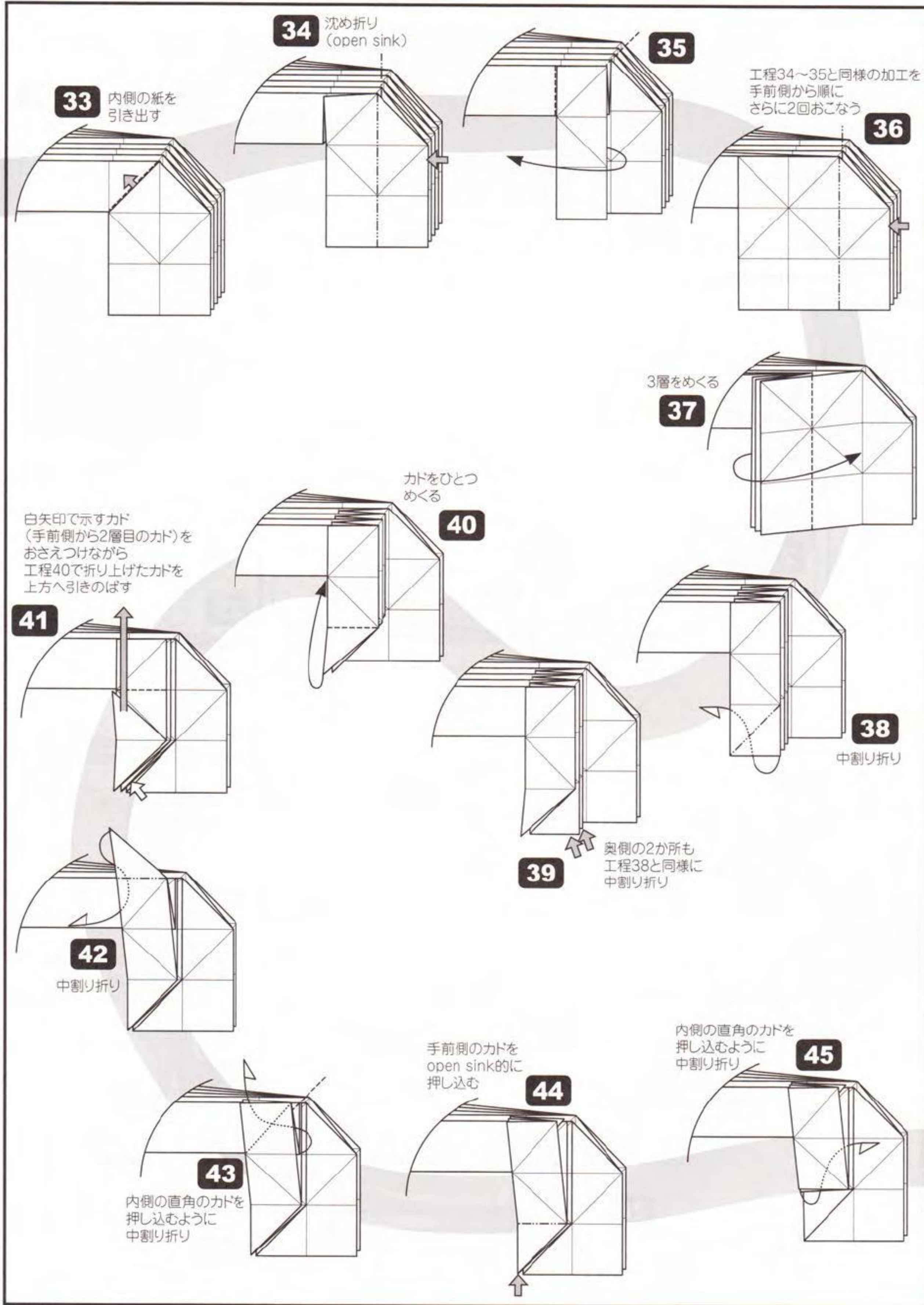
31



工程31と同様の加工を
奥側から順に
さらに3回おこなう

32





33 内側の紙を引き出す

34 沈め折り (open sink)

35

工程34～35と同様の加工を手前側から順にさらに2回おこなう

36

3層をめくる

37

カドをひとつめくる

40

白矢印で示すカド (手前側から2層目のカド) をおさえつけながら工程40で折り上げたカドを上方へ引きのばす

41

38

中割り折り

奥側の2か所も工程38と同様に中割り折り

39

42

中割り折り

43

内側の直角のカドを押し込むように中割り折り

手前側のカドをopen sink的に押し込む

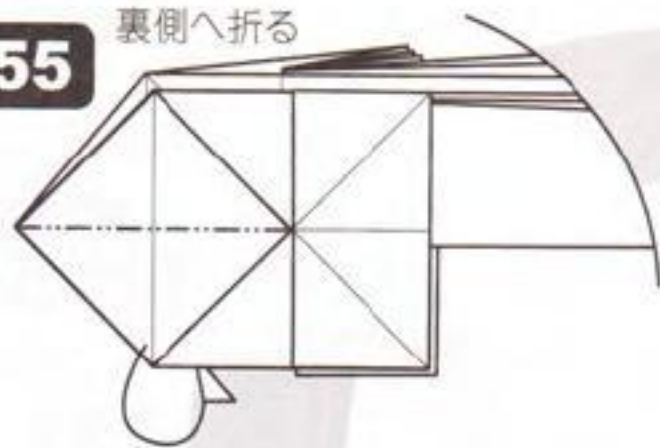
44

内側の直角のカドを押し込むように中割り折り

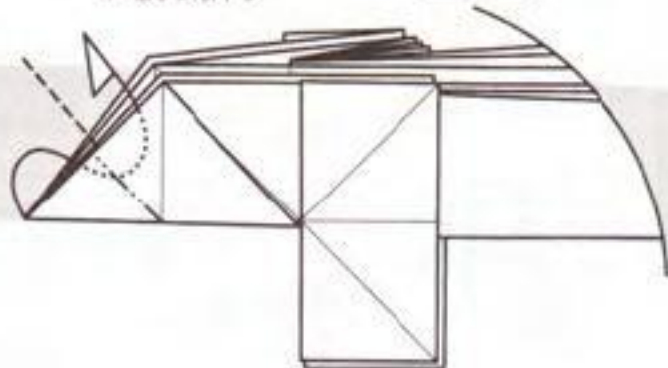
45

55

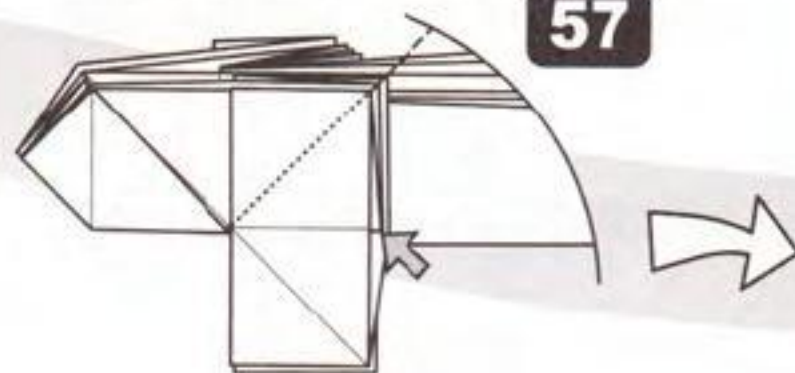
裏側へ折る

層の中央の位置で
中割り折り

56

工程43と同様に
内側の直角のカドを押し込むように
中割り折り
次の図では作品全体を見る

57



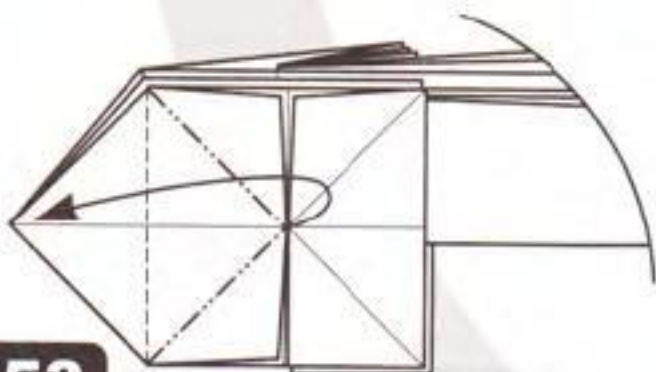
54

1層をめくる

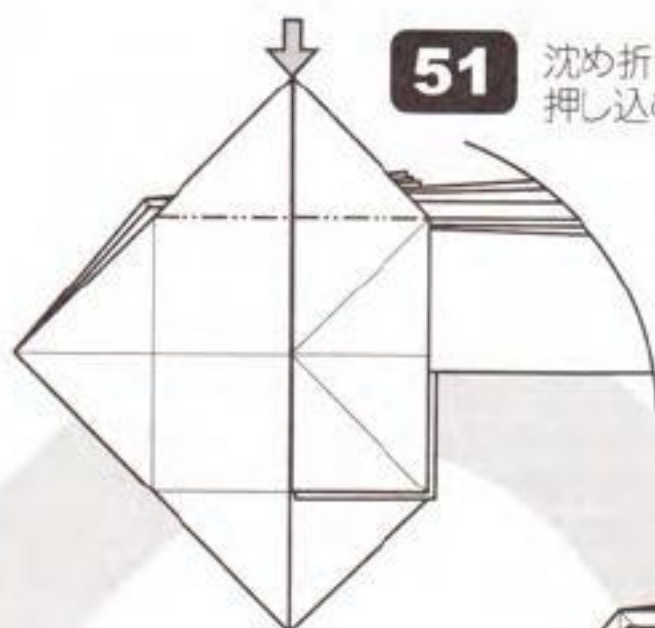


53

内側をひろげてつぶす



51

沈め折りの
押し込む

52

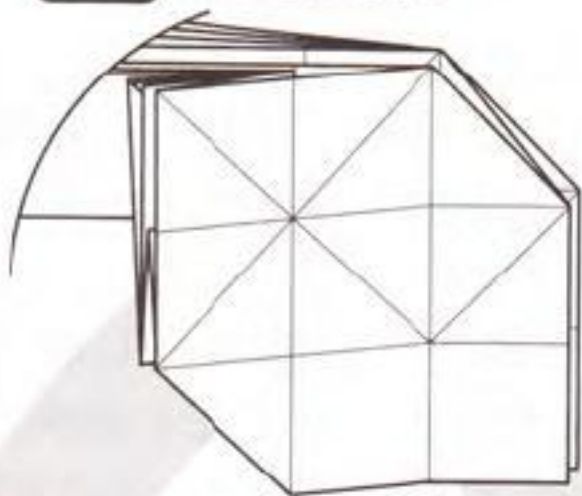
工程51と同様に
沈め折りの押し込む

50

内側をひろげてつぶす



47

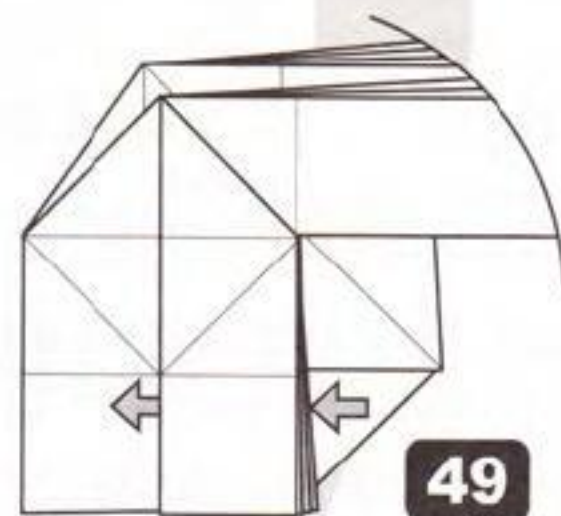
うらがえして
作品全体を見る

46

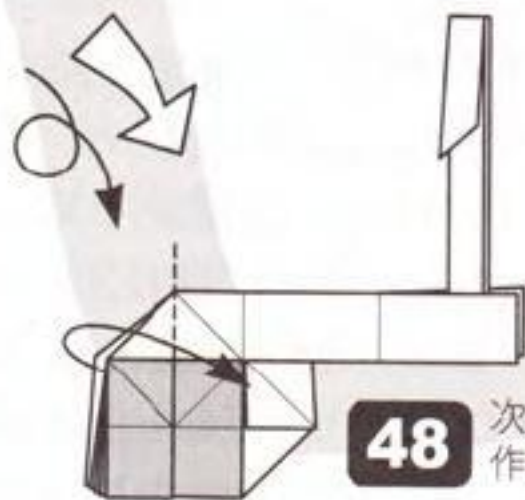
左側へめくる



49

この工程では以前の工程の加工を左右対称に施す
まず最初に工程31と同様の加工を奥側から順に3回おこなう
さらに工程33の加工をしたのち
工程34～35と同様の加工を手前側から順に3回おこなう
そののち工程37～46と同様に加工する

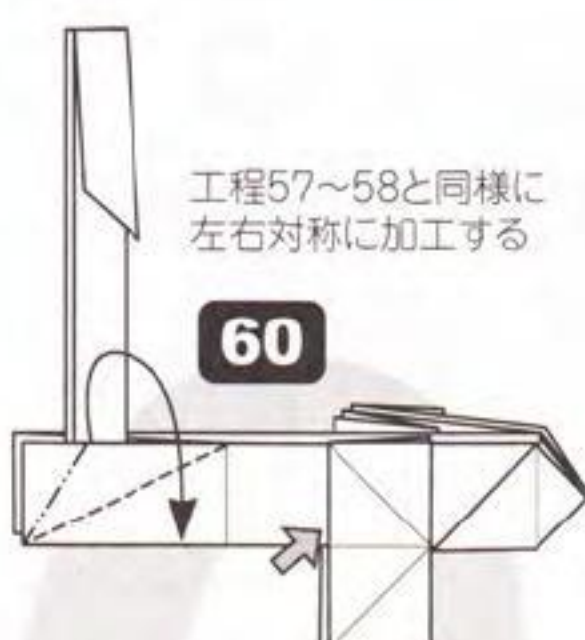
48

次の図では
作品の左端部分を拡大



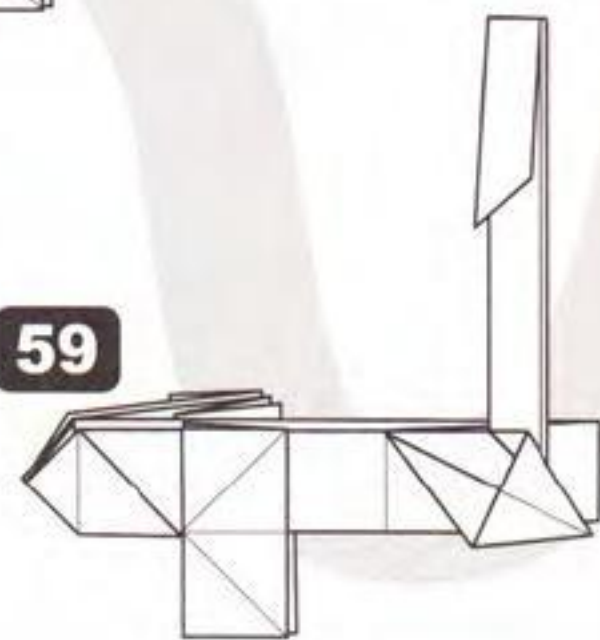
58

手前側の3層をつまんで
内側をひろげてつぶす



60

工程57~58と同様に
左右対称に加工する



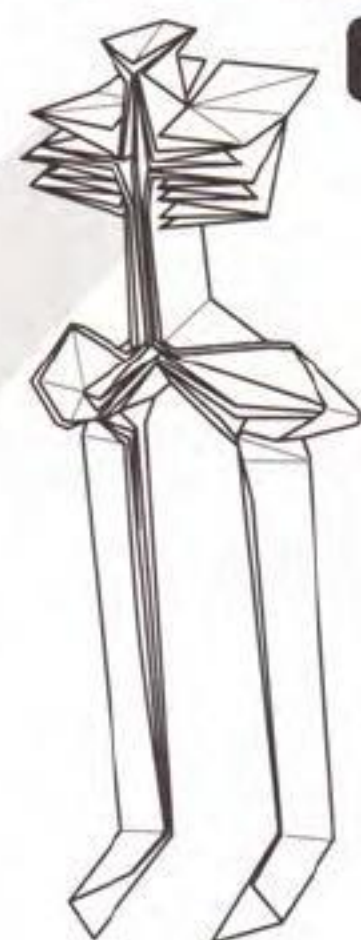
59



61

すでに付いている
折り目を使って
垂直に立てるなど
各部を立体的に調整する

背骨・下半身 完成



62

<仕上げのコツ>

- ・閉じた層が重なっている部分(半開状態にする必要がない部分)には、可能な限り、糊を仕込むと良い。
- ・糊がはみ出さないように、必要最小限の量を付ける。
- ・糊付けには、「先の細いノズルが付いた、酢酸ビニール系などの木工用接着剤」が適している。
- ・ボーズを付ける際には、「内部に針金を仕込む」方法だけでなく、「重なった層の中に仕込んだ糊が固まることを利用してボーズを固定する」という方法も使いこなせるようにすると良い。



Orisuzi ("Fold-Creases")

折紙とコミュニケーション

Origami as a Tool of Communication

池田 整

Ikeda Hitoshi

私は、暇があると折紙をよくしています。特に、飛行機や新幹線での移動中は、ずっと折紙を折っていることが多いんですが、先日は、ヨーロッパ旅行で12時間半のフライト中、ずっと折紙をする機会があり、フランス人のスッチーさん(CAさん)と片言の仏語会話の練習をさせてもらえたので、お礼に折紙を差し上げました。次から次へとスッチーさんが来襲してこられるので、こちらもどんどん折紙を量産して応戦するのを楽しんでいました。しばらくすると、別の方がエコノミーの私の席まで来られて、「自分は機長だ」と言われるので、思わず「C'est vrai?」(ほんと?)と失礼なことを言うと、着ている制服の肩のマークを見せら

れました。飛行中なのに、わざわざコックピットから見学に来られたようでしたので、気に入ってもらえた「カニ」を差し上げました。

その後も、しばらく、他のスッチーさんと片言の仏語会話の練習をしていると、別の人々が来られて、「機長に会いたいのか?」と聞かれ、「ウイ」とだけ答えて付いていくと、コックピットのドアの前までいき、「ここで待っていてくれ」と言われました。「ということは、ここに機長が出てきて話ができるのかな?」と思っていると、ドアが開いて、「中に入れ」と言うではありませんか。そこには機長2名と副機長がいましたが、副機長は私に席を譲ってコックピットから出ていきました。そこで機長に持参した折紙

の話をしたり、前面に広がる素晴らしい夜明けの景色を堪能させてくれました。また、その場で一緒に写真を撮らせてもらったりしながら、「そろそろ退散すべきだろうなあ」と思いはじめたときに、突然、片方の機長から、「カニの折紙が気に入った。ここで折って見せてくれ」と言われました。「機長が2人とも、私の折紙の説明を聞いていていいんだろうか?」という疑問が湧きましたが、とにかくカニの折り方を説明することになり、言わば「空飛ぶ折り紙教室」状態となりました。

このように、折紙が非常に良いコミュニケーションツールとなりますので、海外旅行のときは、大量の折紙を持参することをお勧めします。

<全身の組み立て>

頭部
43

下端の灰色で示した部分に糊を付けて首と接続する
糊が乾燥してから
頭部を立体化する

腕部
59

中央部下方の灰色部分に糊を付けて
背骨の裏側から差し込む
下端部分は左右のどちらかに
少し曲げて骨盤に差し込む

背骨・下半身
62

背面に飛び出している正方形の部分を
腕部部品の隙間に差し込んで糊付け

全身 完成

仕上げやポーズの付け方については、以下のサイトに参考例を掲載しています。
「GAIKOTSU PLANET」<http://origami.gr.jp/~hojyo/g/ghome.htm>

折紙三昧[®]

Origami-Zanmai (This Origami and That)

第6回折り紙の著作権に関する国際会議

The 6th International Conference on Origami Copyrights

今年も、「折り紙の著作権に関する国際会議」をコンベンションの明けた8月19日(月曜日)にJOASホールで開催する予定です。今年の著作権会議ではコンベンションのスペシャルゲストであるロバート・ラングさんに基調講演をお願いしています。コンベンションでは折り紙の数学研究の話題を中心に講演いただくことになっていますが、本誌137号や139号のこのコラムでもふれた通り、ラングさんは折り紙芸術発展のための著作権保護の分野でも積極的に活動されています。ラングさんには多くの話題提供をいただけるものと思いますが、昨年の第5回会議で話題となったデータベースネットワークや創作者がオーソライ

ズした折り図ダウンロードサイトの今後の充実に向けた議論が進められればと考えています。

現在、予定している会議の構成は以下の通り。

司会：アン・ラビン／西川誠司

書記：ジェyson・クー／北條高史

通訳：羽鳥公士郎

10:00 開会挨拶

10:15 第5回折り紙著作権に関する国際会議の要約とその後
西川誠司

11:00 基調講演 ロバート・ラング

12:00 昼食休憩

13:30 自由討論

15:00 休憩

15:30 まとめ

16:30 閉会挨拶

本会議に参加をご希望の方は、あらかじめwebman@origami.gr.jp宛で「第6回折り紙の著作権に関する国際会議参加希望」の表題で、住所氏名を明記してメールにて参加申し込みをお願いします。

JOASホールは定員が約40名となっておりますので、お申し込み多数の場合は締め切りとさせて頂く可能性がありますのであらかじめご了承下さい。メールでお申し込みのあった皆さまには参加可否のご連絡を差し上げます。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第84回 舞妓

Maiko

松井英里香

Matsui Erika

Created: 2013/04

Paper Size: 40cm×40cm

Height: 23cm



折紙作品において目の見ないことが多い、「人物の後姿」をテーマにしてみようと思っていました。とはいっても、一作品としてあまり絵にならなそうです。そこで思い至った題材が、後姿が特徴的かつ華やかな(そして私ごのみの)舞妓さんでした。またついでに、テーマを「後姿」から「舞妓」へシフトしたなら、若い女性の顔をどう折るかという難題をクリアできる(できてないけど)と気が付きました。そのような経緯で後姿に注力したところ、今度は前姿が疎かになってしまいました。次は両立したいです。

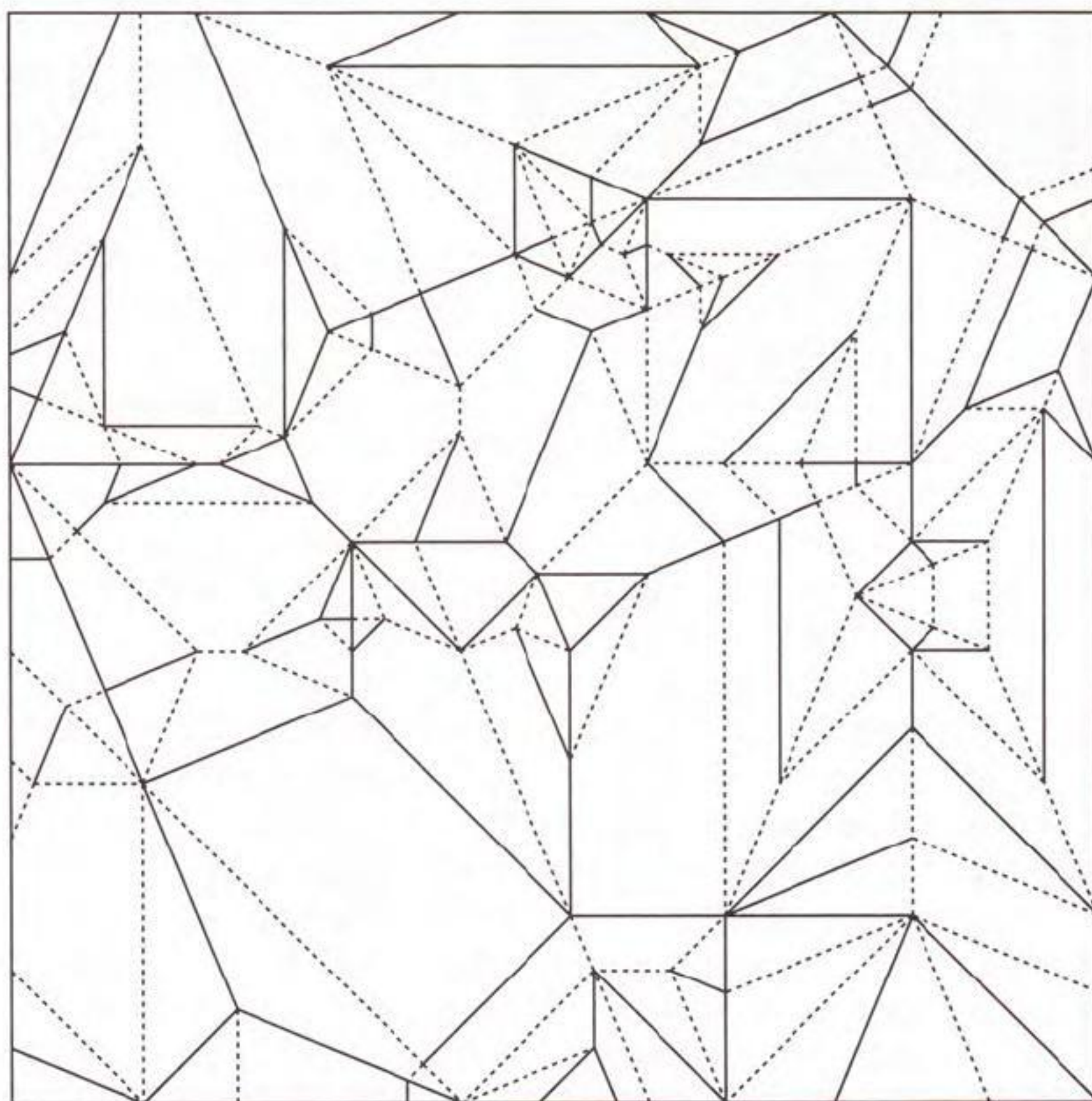
創作方法について少し書いてみたいと思います。本作では、ところどころにこだわりのポイント(=制約)を決めて、それらを統合するということをしました。パーツをつくっておいてつなげるやり方を、もっと全体的に曖昧で流動的にしたようなものとイメージして下さい。例えば、それらの制約の1つに、首と帯を主としたインサイドアウトがあります。インサイドアウトは良くも悪くも作品を分かりやすくすると私は思います。今回は人物であるにも関わらず顔をつくっていないという点も手伝って、これが一体何なのかを少し強めに伝える必要があったと思います。その際、首に紙の縁を通すことにしました。首自体は面で

カバーしてしまったほうが綺麗なので迷いましたが、髪の生え際がよりそれらしく表現できるのではと考えたほうを最終的に優先しました。

このような調子で他にもあちこちから詰めながら1枚にまとめたところ本作が出来上がりました。この作品を、どこからつくり始めたようにみえるで

しょうか。事実ではありますが、最終形からはよく分からないと作者は嬉しいです。

展開図は着物の色側からみたところで、実線が山折り、点線が谷折りになっています。畳むと完成形が近くにみえるタイプの作品だと思います。展開図折りに挑戦!してみてください。



File-52

青柳伊都子

Aoyagi Itsuko

○青柳伊都子(あおやぎ・いつこ)=1953年、佐賀生まれ。仕事のかたわら2000年頃から、折り紙教室などの活動始める。2011年から日本折紙協会佐賀支部長。日本折紙学会指導員、日本折紙協会講師。



■折り紙はいつ頃、どういうきっかけで始められたのですか？

子供の頃に身体障害者の施設にいたのですが、なんとなく環境に馴染めず、ずっと1人で折り紙ばかりしていました。10歳頃に施設にあった折り紙の本を見て自分で折り始めたのが最初だと思います。かぶとややっこさんなどの簡単な伝承作品ばかりの本で、残念ながらあなたが書かれた本だったのかは分かりません。その後も誰かに教わった記憶はなくて、他に折り紙をしている人もまわりにはいなかったもので、1人で本を見ている折っていました。いつでも1人でできる、夢中になれる、お金がかからない、といった点が魅力的でハマっていました。

■その後、ずっと折り紙を続けていたんですか？

いいえ。夢中になっていたのは子供の頃だけで、他のことで忙しくなったこともありしばらくは折り紙から離れていました。

再開したのは大人になってからです。子育ての手が離れて時間に余裕が出来た頃、職場の机などにちょっとした折り紙作品を飾るようになりました。それを見た人からいろいろ声をかけられるようになったのがきっかけで、また折り紙を折るようになりました。今から十数年前のことです。

幸運なことにちょうど同じ頃、佐賀市観光振興課のイベントに作品を展示する機会を得ました。作品は折り紙以外にも何でも良かったのですが、川崎敏和さん創作の「バラ」の折り図が掲載されている本を買ったばかりで、これを展示に出そうと思ったんです。しかし折ること自体を再開したばかりで、難しい作品を自力で折るにはまだまだ練習が足りませんでした。工程の途中でどうしても分からない部分があって、夜中に失敗しては丸

めてポイ！ また次の日も同じ箇所でも失敗しては、丸めてポイ！ これを毎日繰り返すこと約2週間。イヤになって数日放置して、もう1回素直に最初からトライしてみたところ、なんと今度はすんなり折れました！ 完成までに軽く100個くらいは折ったと思います。その時の完成の喜びは今でも忘れられません。そこが今に続く折り紙活動のスタートラインになっています。その後数ヶ月かけて800個のバラを作りました。葉っぱを折るところまでは手が回らなかったもので、3等分ぐらいに輪切りにしたトイレットペーパーの芯に緑の紙を貼付けたものを土台に使い、その上に折ったバラを1つずつ乗せて色のグラデーションになるようにテーブルに並べて展示しました。

■活動再開の最初に大作を作られたんですね。今はどんな活動をされていますか？

アトリエ華という名前でも大人向けの折り紙教室を月1回、佐賀市で開催しています。毎回8名程のほぼ固定のメンバーで、佐賀の方がほとんどですが、ときどき長崎からも参加されます。この活動は講習がメインで、展示会などは行っていません。メンバーの皆さんとはもう長い付き合いで、気心の知れた者どうし和気あいあいと、私自身が毎回楽しんでいきます。

2011年からは日本折紙協会佐賀支部の支部長としても活動しています。夏休み期間中には佐賀市立図書館のギャラリーを借り切って展示会を開催しています。また年に1～2回は作家の方を講師にお迎えして、一般向けの講習会を開催しています。

その他、佐賀の社会福祉協議会や保健福祉会館での折り紙教室の実施、観光振興課のイベント出展のほか、福岡県のデイサービス施設での季節ごとの折り紙指導なども行っています。最近ではテレビや新聞、ラジオなど地元のメ

ディアに取り上げていただくことも多くなりありがたいです。

(折紙探偵団)九州友の会には発足間もない頃から参加していますし、佐賀大学で開催される九州コンベンションには第1回からスタッフとして参加しています。いろいろな場所で新しい作品やテクニックを教わるだけでなく、会の運営の仕方などについてもとても勉強になっています。

仕事を続けながらの活動は時間的・体力的にきびしいこともありますが、それでもやっぱり楽しさの方が大きいですね。だから続けていけるんです。

■どんな作品が好きですか？

いろんな種類のバラの折り紙が好きでよく折っています。最初に800個も作ったこともあって、やはり川崎ローズは特に好きな作品です。川崎敏和さんの汽車も好きです。職場に置くものとして、くす玉もよく作りますが、基本的にはその場ですぐ完成できる作品が好きですね。コンプレックス系はちょっと苦手かな。

■活動の今後の展望などは？

これからは私を含め団塊世代が高齢者となり、仕事が無くて時間はたっぷりという状況になり、生まれ育った地域に何か貢献したいと考える人が増えていくと思います。そういう方々をどんどん巻き込んで折り紙で楽しみたいですね。これからも、もっと折り紙人口を増やして広めていきたいと思っています。



▲九州友の会で講習する青柳氏

Rabbit Ear つまみおり Information

第19回折紙探偵団 コンベンション 参加申し込み受付中!

2013年8月16日(金)、17日(土)、18日(日)
会場:東洋大学1号館(東京都文京区)



◀吉野一生基金招待者のロバート・J・ラング氏(U.S.A.) (写真左)、ニコラス・ガハルド・エンリケス氏(チリ) (写真右)

日本の夏の一番暑い時期に開催される折紙探偵団コンベンション。今年は特に暑い日が続いているが、参加者の皆さんには、体調を整えて万全の状態でご参加に臨んでほしい。

3日間の予定は、現在のところ以下のようになっている(やむなく変更になる場合があります)。

●8月16日(金)

特別講演会(聴講無料)

13:30~16:00

(講演会終了後に参加受付を予定)

●8月17日(土)

9:00~ 参加受付(1号館1102教室)

10:00~ 教室受付(1号館1101教室)

11:00~ 全体会(1号館1102教室)

11:30~ 13:10 昼休み

13:10~17:00 折り紙教室(各教室)

18:00~ 21:00 懇親会(2号館16階)

●8月18日(日)

9:00~ 参加受付(1号館1102教室)

教室受付(1号館1101教室)

10:40~ 折り紙教室(各教室)

12:30~ 13:50 昼休み

13:50~ 16:40 折り紙教室(各教室)

16:50~ 全体会・表彰式・オークション
(1号館1102教室)

●講師募集について

講師を引き受けてくれる方が不足している。8月9日まで受け付けるので、ご希望の方は下記フォーマット又はメールにてお申し込みいただきたい。

講師申し込み書は下記よりダウンロード可能。<http://origami.gr.jp/Convention/19th/index.html>

◆第3回折紙探偵団九州コンベンションレポート

川村みゆき

第3回目となる今年の九州コンベンションは佐賀大学文化教育学部の大講義室を新たに追加でお借りして、5月25・26日に開催されました。海外招待講師はアメリカのアン・ラビン氏。特別講演では実演を織り交ぜながら、正方形の紙を濡らすと長方形になるのはなぜかといった紙の物理的な特性を分かり易く解説していただきました。講習ではラビン氏創作のゾウを始めとした海外作家の作品数点を、ウェットフォールディングの実技指導とともに紹介され好評でした。ラビン氏は東京コンベンションに毎年のように参加されており日本語での会話もOKとのことで、参加者から声をかけられ



アン・ラビン氏の講習

ることも多かったようです。

参加者数は104名で、昨年から比べると1割程減少しました。韓国からの参加は8名で、今回もバッグや箱、動くおもちゃなどの実用作品の講習をしていただき、女性に大人気でした。韓国折紙協会会長のオ・キョンヘ氏からは夏のソウルコンベンションのご案内もいただきました。

懇親会は昨年と同じ佐賀神社記念館にて、71名が参加しました。山口真氏に参加者の人物紹介をしていただいたところ大好評で、アンケートに絶賛の声がいくつも書かれていました。他にも福岡県の石井誠一氏による手品の披露や、19名のスタッフ紹介、ラビン氏への吉野一生基金の授与などで盛り上がり、大変楽しい懇親会でした。

今年も会場をお借りするにあたってご尽力くださった佐賀大学文化教育学部の庄田敏宏准教授に御礼申し上げます。今回は設備の整った広い大講義室をお借りすることができ、受付や教室受付、作品展示なども同じ場所で行えたのでスタッフの仕事がかなり軽減され、より一層スムーズに進行できたと思います。誤

算だったのが予想以上に高い気温で、大講義室でクーラーが使えなかったのが少々大変でしたが、2日間とも大きなトラブルもなく盛会のうちに終了しました。スタッフ一同、来年以降も楽しいコンベンションにしていきたいと思っております。ご参加くださった皆様ありがとうございました。

(九州コンベンションの写真は、P.25に掲載されています。併せてご覧ください)

東海友の会のメンバーによる 第4回創作折紙&第3回切り絵 合同企画展

日時: 8月3日~9月1日

場所: 「スカイワードあさひ」

(尾張旭城町長池下)

開場: 午前9時~午後5時まで

初日(8月3日)は午後1時~

最終日(9月1日)は午後4時まで

●入場無料 年中無休

●8月4日には巨大折紙制作実演も行なう予定です。

●お問い合わせ

0561-52-1850

「スカイワードあさひ」まで

◆NYコンベンション2013レポート 小野友彰

6月21日(金)~24日(月)、ニューヨークのファッション工科大学でOrigamiUSAのコンベンションが開催された。毎夏、東京で開催される折紙探偵団コンベンションが出来た契機にもなったNYコンベンションとはどんな大会だろうかと興味湧き、会う度にお誘い頂いた山口真さんについて初参加させて頂いた。

驚いたのは、参加者・折り紙教室・イベントの多さと全体会場の開放時間の長さ(深夜0時まで開放!)。世界最大規模の折り紙大会は流石だ。また、3m四方の紙を使う巨大折り紙コンテストはとて折り紙コンベンションらしいイベントで、参加者としても見学者としても楽しめる。巨大な黄色い潜水艦が登場した時に、自然と会場全体でビートルズの“Yellow Submarine”の大合唱になり、会場の一体感が印象的だった。初参加者の心を掴む取り組みもよく、特に最終日のディナーではFirst Timerラベルを一枚に剥すという、温もりを感じるイベントも。

作品展示室や講習作品にはユニットやテッセレーションが多く、海外の方々の嗜好も肌で感じた。紙幣を使ったサブ

カル系作品も多かったが、流石にティーバッグ作品は見なかった。私の関心事の1つ、そのティーバッグ折り紙に対する海外での反応。作品展示室での拙作のティーバッグ作品群にそれなりに注目して頂けたようで、素直に嬉しかった。また、「Tea Bag Frog」の講習チケットがまさかのSOLD OUT。講習では時間オーバーの危機を激しく感じたが、教室にいた方々のご協力もあって無事に終了。東京コンベンションでの講習にも共通する悩みと難しさがあることを知る。

行く前に不安に思っていた言葉の壁は、折り紙の“見ればわかる”という性質上、然程の障害にはならずに楽しめた。が、英語力があればもっともっと楽しめたはずである。

最後に、間違いなく言えることは「参加してよかった!」と心から思います。このような機会と経験を頂くに際し、お世話になった多くの方々へ、この場を借りて心より深く御礼申し上げます。



ティーバッグのカエルを講習する小野氏



Oversize Origami(巨大折り紙コンテスト)の作戦を立てる松井・小野・岡本・森末チーム



巨大折り紙コンテストで要領よく仕上げに入る、クー・松田・谷田チーム

(NYコンベンションの写真は、P.22-23にも掲載されています。併せてご覧ください)

◆吉野一生基金海外渡航助成をうけて

◆松井英里香

OUSACONコンベンションは、把握しきれないくらいに多くのことが同時進行する、賑やかさに満ちた面白い場所でした。折り紙の講習や、他にも参加者の方々と、創作の過程だとか、折り図をかくのは時間がかかるけれどやるっきゃないだとか、そういうお喋りもしていたのですが、妙に話が通じ、終始不思議な体験に高揚感に包まれていました。折り紙への関心は世界共通言語なのだなあと実感しました。できることからしていきたいと思います。

◆森末 圭

今回私が目標としたことは、議論や

情報を持ち帰りまづはそれを私個人と日本の創作家に還元することである。後者の過程の一環として、新たに出会った折り紙に関する2つの懸案を紹介させてもらいたい。

1つは「作品はどの段階を以って完成となるのか」という問答である。漠然とした問いではあったが、新鮮に感じる哲学である。

2つ目が「作品の造り込みに相関しない表現方法の開拓」である。例えば私は主題の表現の為に情報を詰め込みがちではあるが、そういった指針では到達し得ないであろう作品群の存在を知ることになった。

◆今年も外国人による折紙きゃらばん やまぐち真

昨年に引き続き、今年も探偵団コンベンションに参加する海外からの参加者を中心としたグループで、被災地へ赴くことになった。

場所は気仙沼。8月21日に「みなみまちcadocco」という施設をお借りして、折り紙教室を行う。10:00~12:00、13:00~15:00の2回を予定している。

昨年はお盆のシーズンで人が少なかったが、今年は参加者が増えるのか否か少々不安がある。

お近くへお住まいの方は、是非お手伝

いに来てほしい。折り紙で人と人の繋がりが、この機会に生まれたら、これ程嬉しいことはない。

宿泊費や食費は、各自参加者が支払い、交通費には、以前から寄せられている寄付金の残金と、OrigamiUSAコンベンションで集められた募金605ドルが充てられる。

主な参加者は、バーニー・ペイトン夫妻、アン・ラビン、ロバート・J・ラング、マルシオ・ノグチ、ジェイソン・クー、山口真、他の各氏。

◆折り紙作品発見アプリ「Origaminista」

鶴田直也

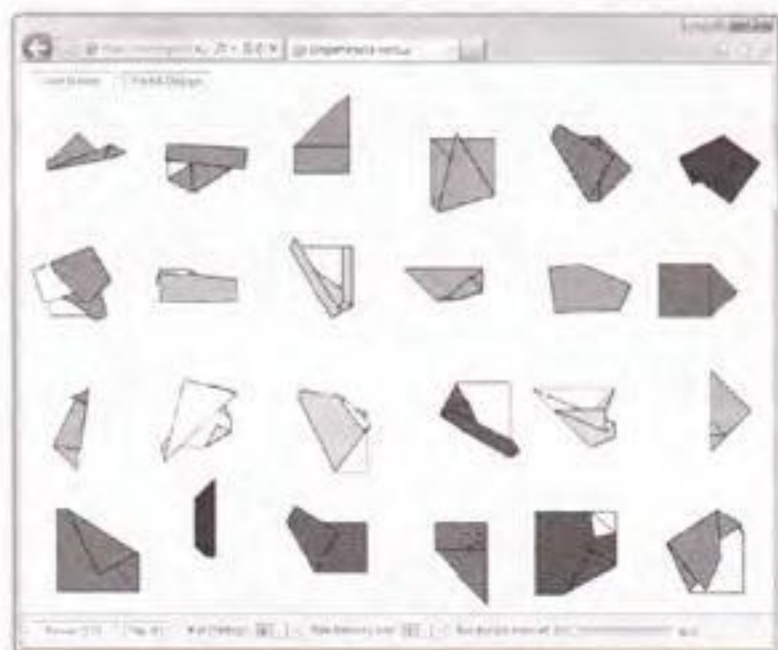
以前、「折り回数の少ない折り紙作品の発見システム」について記事を掲載させていただきました(折紙探偵団マガジン129号)。今回はそのシステムを発展させたウェブアプリ「Origaminista」を開発したので、お知らせします。下記のURLから遊んでみてください。

<http://wadingbird.xii.jp/wp/origaminista/>

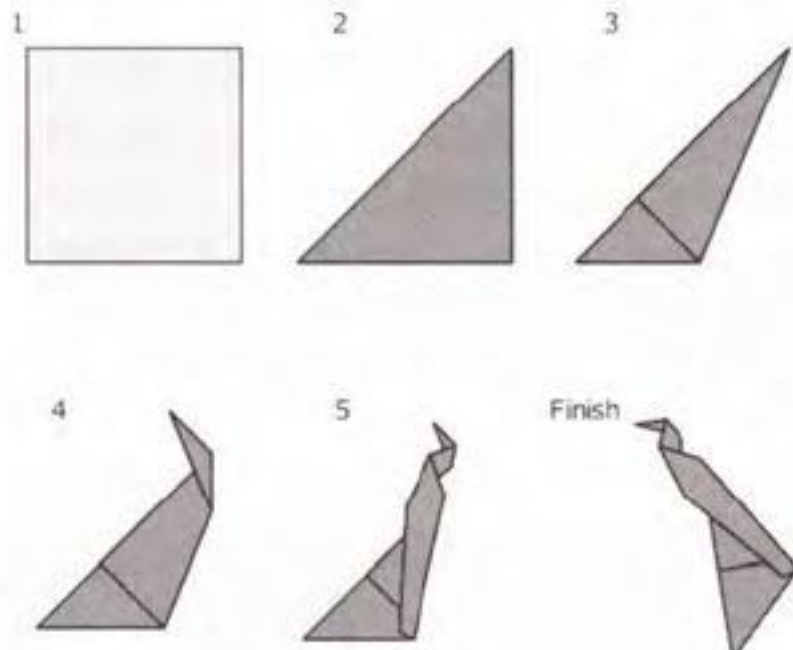
OrigaministaはFlashで実装された簡単な折り紙作品の発見アプリです。自動生成された形を何かに見立てて、気に入った形があれば折り図としてダウンロードできます。気に入ったものがなければ、左下の更新ボタンで新しく形を作り出すことができます(ただし全く同じ

形が出てくることは稀なので注意深く見てください)。生成される形は基本的にはピュアランド折りですが、折る位置をランダムにずらすことで簡易的なぐらゐり折りも実装しました。発見した作品は好きなタイトルと発見者名を付けてウェブ上のデータベースに登録できますので、面白い作品が見つかったらぜひ作品の登録をお願いします!

本アプリでは、ランダムな折りを含む膨大な数のデータから作品を見つけ出すためのシステムを構築すること、そして収集した折り紙のデータから新しい知見を得ることを目標としています。使用した感想、機能要望等々、みなさんのご意見をお待ちしております。



▲ Internet Explorer 上での実行画面



▲自動作成した折り図

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円(中学生以下300円) / 時間=14:00~16:00 / 研究会=16:00~(開場は13:45)
●8月3日(土) / 講師:北條高史 / 作品:「双髻ガイコツ」他
●9月7日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F / 参加費=大人500円(中学生以下は200円) / 時間=10:30~15:00
※昼食は各自ご用意下さい。会場は土足禁止です。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。
●8月4日(日)午前 / 講師:青島玲子 / 作品:サザエキューブ(川崎敏和・作)、午後 / 情報交換会等

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室 / 参加費=大人500円(中学生以

下は200円) / 時間=13:00~15:00

●8月17日(土) / 講師:近藤哲也 / 作品:回りコマ
●9月21日(土) / 講師:川畑文昭 / 作品:ねずみ

関西友の会 ※折り紙は各自持参

会場=高槻市立総合市民交流センター第一会議室 / 参加費=500円 / 時間=10:00~16:00
●9月22日(日)
講師:未定 / 作品:未定
確定の際には、公式サイト<http://tatekoo.net/KT/>と葉書にてご案内致します。

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階 / 参加費=500円(中学生以下は100円)
●9月22日(日) / 時間=13:00~16:00 / 会場=第2研修室B / 講師:未定 / 作品:未定
※8月の定例会はお休みです。

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「ある折り紙作家の教室」

9月8日(日)、9月15日(日)(2日とも同じ内容) / 講師=神谷哲史 / 講習作品=カマキリ(予定) / 参加費=3,000円 / 11:00~16:00 / 定員=28名

◆「知子の部屋」

9月21日(土) / 講師=布施知子 / 参加費=2,500円 / 12:30~16:00 / 定員=28名 / アットホームな雰囲気の中で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「OrigamiATCクラブ」

10月11日(金) / 参加費=1,000円(材料費別) / 11:00~16:00 / 講習内容=アーティスト・トレーディングカード(ATC)作りと、折り紙講習、折り紙の情報交換等 / 講師=松浦英子 / 定員=20名 / お茶を飲みながらの気軽な集まりです。初心者大歓迎。

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「知子の部屋」と「ある折り紙作家の教室」は、キャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■今回は20回目の参加であった。■ということは、20年続けて参加したということ。■さすがに老いは隠せない。■来年が最後になりそうだ。■今回はJOASから11名の参加があった。■マガジン誌上でも知られている若手が5人。■中でも、M君とY君は2度目の参加で、慣れたものであった。■特にY君は、折り紙以外の趣味で活躍していたらしい。■若手の中でめずらしく女性の参加。■今号の表紙を飾ったM嬢だ。■日本の場合、社会人になると長い休暇が取れず(?)参加することが難しい。■そこで、社会に出る前の参加を勧めている。■来年も続けられれば…(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2013年7月25日発行 第24巻2号 通巻140号
発行所/日本折紙学会
〒113-0001
東京都文京区白山1-33-8-216
Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.140 / Published on 25, July 2013 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "GAIKOTSU Bodhisattva with one leg crossed" Produced by Hojo Takashi, "Maiko" Produced by Matsui Erika: Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18

日本折紙学会 編 / 2,200円 / 送料420円
B5判 / 全272頁 / 48作品収録

16P 増量!

ミルフィオリ：川村みゆき、チャボ：北條高史、
にんじん：前川 淳、キリン：萩原 元、ヘラク
レスオオカブト：神谷哲史、ミサゴ：クエン
ティン・トロリッ、オニオオハシ：ホアン・
ティン・クエット、ピクセルユニットのきつね：
マックス・ヒューム等、国内外の48作品を
収録。



神谷哲史作品集2

神谷哲史・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 /
全232頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録

好評発売中!

コンプレックス折り紙界の最先端を走り続
ける神谷氏の、約8年ぶりとなる作品集。
描き下ろしの「フェニックス」をはじめ、レ
ア度の高かった折り紙教室向けの折り図
を含む16作品を収録。一層難易度を増し
た作品があなたの挑戦を待ち受ける!

小松英夫作品集

小松英夫・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 /
全232頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録

折り図も一つの作品として捉え、常に新し
い表現方法を追求する小松英夫氏の作
品集が、満を持して登場! 「ライオン」
「道化面2」など描き下ろし作品4点の他、
過去に発表された作品もさまざまな形で
リニューアル。シンプルからコンプレッ
スまで20作品を収録。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面～The Mask～ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル ー折り紙のマジシャンー 山口 真 編著 立石浩一 訳	4,800円		B5判ハードカバー全144頁/カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録
第16回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作 47 作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円	国内・外から集まった秀作55作品を収録	B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録

書籍2冊の送料は530円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙、Tシャツなどはそれぞれ別発送となります

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	1~2セット 440円	35×35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かな恐竜柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	750円	1冊250円 2冊350円	193×268×28mm / 箔押しロゴ入り / 『折紙探偵団マガジン』1年分 (6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

※PayPalによるお支払いも可能です。詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail : info@origamihouse.jp
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時

折り紙用紙専門のオンラインショップ!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
※本ページ商品は取り扱っておりません。ご注意ください

商品のお申し込み方法

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希
望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**
加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

**リアルな作品が作れる
迫力の恐竜ワールド!**

超迫力 恐竜おりがみ

¥300
(税抜き)

きょうりゅう
5
しゅるい
種類
恐竜

●プテラノドン

●スピノサウルス

●ブラキオザウルス

●ティラノサウルス

●トリケラトプス

パノラマステージ付き

超迫力!おりがみで
"恐竜"をよみがえらせる!



株式会社トヨー

<http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所